

## 「暫定版」における注意事項

「生物多様性保全利用指針 OKINAWA」は、令和 3 年度までに「沖縄島編」、「八重山編」、「宮古・久米島編」、「沖縄島周辺離島編」の 4 編の作成を予定しており、現在、各編について順次情報収集、調査、解析を進めているところである。このたび一連の作業が完了した八重山編について、県民の皆さんにいち早くお届けするために【暫定版】を公開する。

暫定公開である理由は、本指針の中核である生物多様性の解析評価手法の特性上、各島毎の解析ではなく、本県全体での解析を行う必要があるためである。また、事業期間中に追加されたデータを加えることで、より解析精度を高めることが想定されている。このような事業デザインのため、今回の八重山編【暫定版】に掲載された情報は暫定的なものであり、今後宮古・久米島等の情報が加わることで最終版策定まで毎年更新される。

本指針【暫定版】については、上記の事項についてご理解いただき、本県全体の解析が完了し、最終版（令和 3 年度末を予定）が策定されるまでは、引き続き「自然環境の保全に関する指針」（沖縄県 1998～2000）を参照いただきたい。

## 第4章 參考資料

### 1. 生物多様性保全利用指針検討委員会名簿（令和2年3月現在）

(50音順)

氏名（敬称略）	所属・役職	備考
久保田 康裕	琉球大学理学部 教授	
当山 昌直	沖縄国際大学南島文化研究所 特別研究員	
藤田 喜久	沖縄県立芸術大学全学教育センター 准教授	
宮城 邦治	沖縄国際大学 名誉教授	委員長
盛口 満	沖縄大学人文学部 教授	

### 2. 委員会における検討過程

平成 28 年 11 月 28 日	平成 28 年度第 1 回検討委員会開催
平成 29 年 3 月 23 日	平成 28 年度第 2 回検討委員会開催
平成 29 年 11 月 22 日	平成 29 年度第 1 回検討委員会開催
平成 30 年 3 月 12 日	平成 29 年度第 2 回検討委員会開催
平成 30 年 7 月 3 日	生物文化に関する第 1 回 WG（ワーキンググループ）開催
平成 30 年 7 月 19 日	解析に関する第 1 回 WG 開催
平成 30 年 10 月 1 日	生物文化に関する第 2 回 WG 開催
平成 30 年 10 月 4 日	解析に関する第 2 回 WG 開催
平成 30 年 12 月 18 日	平成 30 年度第 1 回検討委員会開催
平成 31 年 3 月 12 日	平成 30 年度第 2 回検討委員会開催
令和元年 7 月 31 日	平成 31 年度第 1 回検討委員会開催
令和 2 年 3 月 4 日	平成 31 年度第 2 回検討委員会開催

### 3. 生物多様性保全利用指針に関するホームページについて

生物多様性保全利用指針の内容については、下記ホームページにて公表している。ホームページ上では、本指針以外にも、本指針の普及を目的に本県に生息する生物の画像や自然環境に関する映像等の掲載を行っている。

オキナワイキモノラボ <<http://www.biodiversity.okinawa/>>

The screenshot shows the homepage of the Okinawa Iki Mono Lab website. At the top, there is a navigation bar with the site's logo, a green frog icon, and text in Japanese and English. Below the logo, there are three main menu buttons: 'はじめに' (Introduction), '生物多様性保全利用指針 OKINAWA' (Biodiversity Conservation Utilization Guideline OKINAWA), and '映像で見る沖縄の生き物' (See Okinawa's living creatures through video). The main content area features a large, close-up photograph of a green frog with dark spots. Below the image, there is a welcome message in Japanese: 'オキナワ イキモノ ラボへようこそ! このサイトでは生物多様性の宝庫である 沖縄の自然環境についてご紹介します' (Welcome to the Okinawa Iki Mono Lab! This site introduces the natural environment of Okinawa, a treasure trove of biodiversity). On the left side of the page, there is a sidebar with a 'TOP' button and a list of recent news items:

- 2020/01/17 「映像で見る沖縄の生き物」ダイト・ウォオコウモリ・ツダリノフシ・ニフイカノイゴク・ミノミキヌタアグマキのページを追加しました。
- 2019/11/19 「映像で見る沖縄の生き物>ギャラリー」に西表島の自然 - 嶺山湾・網取港の動画を追加しました。
- 2019/10/04 「沖縄の干潟と海草藻場の貝類展」を開催しました！
- 2019/09/30 「生物多様性おきなわブランド発信事業シンポジウム」を開催しました。

At the bottom of the sidebar, there is a link to '過去のニュース一覧へ' (List of past news). In the center of the page, there is a call-to-action button labeled 'アンケートにご協力下さい!' (Please cooperate with the survey!). At the very bottom, there is a footer with links for contact information and a copyright notice.

## 4. 用語集

本指針に関連する用語を以下に解説した。かつては用語が使われている章を示す。

なお、作成にあたっては、書籍、論文、報告書、官公庁のウェブサイト（沖縄県、環境省、国土地理院等）、環境用語に詳しいウェブサイト（EIC ネット）、各種団体のウェブサイト等を参考にした。これらの情報源は 5. 参考文献に掲載した。各説明文末尾の〔数字〕は参考文献番号を示す。

### あ行

#### **アンブレラ種（第 2 章 - 1）**

地域の食物連鎖のピラミッドの最高位に位置する消費者のこと。アンブレラ種を保全することで、その生息に必要な他の種も保全することができる。例として、西表島におけるイリオモテヤマネコなど。<sup>[1]</sup>

#### **維管束植物（第 2 章 - 1）**

維管束と呼ばれる通道組織を有する植物の総称。被子植物、裸子植物、シダ植物が含まれ、コケ植物などは含まれない。<sup>[1]</sup>

#### **インフォーマント（第 2 章 - 2）**

研究対象となる社会、文化の一員であり、調査者が知りたい事柄に精通し、概念、言語、世界観、具体的な事例などに関して口述で詳細な表現ができる情報提供者のこと。本指針作成にあたっては、生物文化の聞き取り対象として、地域に長年住み、生物の方言や活用法に詳しい年配の方を主なインフォーマントとした。<sup>[2]</sup>

#### **インベントリー調査（第 2 章 - 1）**

インベントリーとは生物学においては、地域に分布する動植物の種の目録や分布図などのこと。このような目録を作成するための調査がインベントリー調査であり、目視や採捕等によって生物の存在を確認し、文献資料と比較して特定の種であることを同定した上で出現種の一覧を作成する。<sup>[1]</sup>

#### **エントロピー最大化法（第 2 章 - 1）**

必要な全ての情報が揃っていない場合に、観測や測定などで値が確定している部分を拘束条件として、全ての情報を統計学的に推定する際の手法のひとつ。すでに得ている制限条件を満たしつつ得ていない情報は最も確率が高いと考えられる推定値を選ぶ。本指針作成にあたっては、生物調査等による生息データから生息域を推定する際に使われている。<sup>[3]</sup>

#### **沖縄 21 世紀ビジョン（第 1 章）**

平成 22 年に策定された県政の基本構想のこと。県民の参画と協働のもとに、将来（概ね 2030 年）のあるべき沖縄の姿を描き、その実現に向けた取り組みの方向性と、県民や行政の役割などを明らかにした。自然環境保全に関しては、めざすべき将来像のひとつとして「沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島」があり、「沖縄グリーン・イニシアティブ」として自然環境の持続的な利活用の推進が示されている。<sup>[4]</sup>

### 沖縄県環境管理計画（第1章）

沖縄県における環境問題と、それを解決するための総合的な施策が示された計画のこと。平成5年に策定された。本指針の前身である「自然環境の保全に関する指針」は、同計画における自然環境を保全する施策のひとつと位置づけられている。<sup>[5]</sup>

### 沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）（第1章、第2章－4,5）

沖縄県内を対象とした、絶滅のおそれのある動植物種の生育・生息状況等を明らかにした資料のこと。環境省や国際自然保護連合（IUCN）が作成した継続的な調査研究データを参考に、地域性の視点から独自の規準を交えて作成している。1996年に初版、2005～2006年に改訂第2版、2017～2018年に改訂第3版が公表された。第3版では動物991種、植物938種、菌類85種が掲載されており、危機の状況や情報量によって8つのカテゴリーに分類されている。<sup>[6]</sup>

## か行

### 海域区分（第1章、第2章－1、第2章－5、第3章）

海域を何らかの目的、条件によって区切ったそれぞれのこと。本指針においては、前指針である「自然環境の保全に関する指針」における海域区分及びサンゴ礁資源情報整備事業（沖縄県環境生活部自然保護課、平成21～23年度）における海域区分を参考に、一部修正を加えたものを環境カルテ（海域）の作成単位とした。サンゴ礁自然情報整備事業における海域区分は、岬、水路、礁原（礁嶺）などの地形が半閉鎖的な系を形成していることに注目し、それらを一つの生態学的な単位として捉えたものであり、陸域の流域に相当する。本指針の海域区分も基本的に同様の考え方に基づいて設定した。<sup>[7]</sup>

### 外来種（第2章－1）

何らかの人の活動によって、本来の生息地域の外にもたらされた生物種のこと。本来生息していた生きもの（在来種）にとって脅威となる場合は侵略的外来種と呼ばれる。沖縄県における侵略的外来種として、ネズミやハブの駆除を目的として導入されたマングース（フリーマングース）が有名である。一方で、米（イネ）や多くの野菜、家畜なども元をただせば外来種であり、社会的、文化的に定着している場合も多い。<sup>[8]</sup>

### 河床勾配（第2章－4）

川の流れる方向の川底の傾きのこと。山間部では急になり、平野部では穏やかになる。<sup>[9]</sup>

### 国内希少野生動植物種（第3章）

国内に生息・生育する絶滅危惧種のうち、特に人為的な影響で数が減っており、種の保存法で指定された種のこと。平成31年2月現在、293種が指定されている。沖縄県に生息する種では、ヤンバルクイナ、イリオモテヤマネコ、イボイモリ、ヤンバルテナガコガネ、ヒメタニワタリなどが指定されている。<sup>[10]</sup>

### 固有種（第1章、第2章－1）

分布が特定の地域に限定される種や亜種のこと。この場合、特定の地域には、国レベル、都道府県レベル、地域レベルなどさまざまなどらえ方がある。たとえば、ヤンバルクイナは、日本の固有種であるだけでなく、沖縄県沖縄島、やんばる地域の固有種である。<sup>[11]</sup>

## さ行

### 在来種（第2章－1）

本来の地域に自然分布していた種のこと。<sup>[12]</sup>

### サロゲート（第2章－1）

ある地域の生物多様性を代替的に表す指標のこと。生態系の基盤分類群、分布情報が豊富な生物分類群、保全上重要な分類群が一般的に用いられる。本指針においては、陸域の10分類群、海域の6分類群をサロゲートとした。<sup>[13]</sup>

### ジオコーディング（第2章－1）

住所や場所の名前といった位置を表す情報を、緯度経度情報に変換する処理のこと。この処理を行うことで、GIS（地理情報システム）上で位置の検索や分析等が可能になる。<sup>[14]</sup>

### シノニム（第2章－1）

同じ種に付けられた複数の学名（標準学名）のこと。シノニムのうち、最も古い学名が有効だという原則がある（先取権）。ある種について有効な学名は1つだけなのにも関わらずシノニムが生まれる過程としては、すでに新種記載されているのを知らずに改めて記載してしまった場合や、分類体系の見直しで属名が変更された場合などがある。

### 象徴種（第2章－1）

特徴的な容姿や馴染み深さなどから、地域の象徴となって人々の環境保全・保護の関心を高めることが期待される種のこと。

### 生態系サービス（第1章）

人々が生態系から得られる恵みのこと。2000年代初めにUNEP（国連環境計画）が行った「ミレニアム生態系評価」では、供給サービス（食料や水、原材料など）、調整サービス（自然災害の緩和、水質浄化など）、文化的サービス（レクリエーションや観光など）、基盤サービス（土壤、酸素、栄養分など）の4つに分類される。<sup>[15]</sup>

### 生物多様性（第1章）

生物が長い歴史の中で獲得した、様々な姿形や生活様式といった生物間の違いのこと。遺伝的多様性、種の多様性、生態系の多様性という3つのレベルで捉えられる。遺伝的多様性とは、種が同じでも持っている遺伝子がことなることを指す。種の多様性とは、様々な生物種が存在する状態を指す。生態系の多様性は、様々な生物の相互作用から構成される様々な生態系が存在することを指す。<sup>[1]</sup>

### 生物多様性おきなわ戦略（第1章）

平成25年に策定された、沖縄の生物多様性の保全と持続可能な利用を図るための基本計画のこと。戦略では目標達成に向けた5つの基本施策（1.生物多様性の損失を止める、2.生物多様性を保全・維持し、回復する、3.自然からの恵みを賢明に利用する、4.生物多様性に対する認識を向上させる、5.生物多様性の保全に関する取組に県民参加を促す）を展開していくこととなっており、そのための行動計画、推進体制が示されている。<sup>[16]</sup>

### 生物多様性条約（第1章、第2章－1）

生物多様性の保全と持続可能な利用、遺伝資源による利益の公正な配分を目的とした条約のこと。1992年にブラジルのリオで開催された国連環境開発会議（地球サミット）において署名が開始され、1993年に発効した。生物多様性の保全だけでなく、持続的な利用を明記していることが特徴である。2018年現在、194カ国が締結しており、日本は1993年に締結している。<sup>[17]</sup>

## 生物多様性条約第10回締約国会議（CBD-COP10）（第1章）

生物多様性条約の10回目となる国際会議のこと。2010年10月に名古屋市で開催され、2020年を目標とした「愛知目標」を含む新戦略計画2011–2020が採択された。愛知目標は20項目からなり、数値目標を含む具体的なものである。例えば「少なくとも陸域17%、海域10%が保護地域などにより保全される」という目標があり、日本を含む各国の国家戦略に影響を与えていている。<sup>[17]</sup>

## 生物文化（第2章－2）

動植物とつながった文化のこと。地域毎に動植物に付けられた方言名や、動植物の利活用方法などが含まれる。本指針では、生物多様性と文化多様性のつながりとして生物文化を位置づけ、県内各地の生物文化について文献調査及び聞き取り調査を実施し、環境カルテに記載した。生物文化多様性につながる概念だが、本指針の生物文化は個別の生物の方言名と利用に注目している、特に野生生物に関連するものを重視して抽出しているなどの独自性がある。

## 生物文化多様性（第2章－2）

自然と人間（文化）が互いを活かしながら存在する相互作用関係に注目し、それを一体的に保全しようとする分野横断的な考え方のこと。ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）と生物多様性条約事務局によって生物多様性と文化多様性をつなぐ共同プログラムが発足し、生物多様性条約締結国第10回会議（CBD-COP10）で正式に位置づけられている。<sup>[18]</sup>

## 絶滅危惧種（第1章、第2章－1）

様々な要因により個体数が減少し、絶滅のおそれがある種や亜種のこと。沖縄県内の絶滅危惧種は、「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生動物（レッドデータおきなわ）」にまとめられている。<sup>[6]</sup>

## 全天日射量（第2章－1）

天空の全方向からの太陽放射（全天日射）を、水平面で受けた単位面積あたりの全天日射エネルギー量のこと。<sup>[19]</sup>

## た行

### 天然記念物（第3章）

学術上貴重で、わが国の自然を記念するものとして国や自治体に指定された動物、植物、地質・鉱物、それらに富む天然保護区域などのこと。平成30年現在、沖縄県内には国指定が65件、県指定が52件、市町村指定が123件ある。例として、カンムリワシ（国指定特別天然記念物）、クロイワトカゲモドキ（県指定天然記念物）、大浦のマングローブ林（名護市指定天然記念物）などがある。<sup>[20]</sup>

## は行

### ハビタット（第2章－1）

ある生物の種が生息・生育する環境のこと。地形などの物理的な側面と、大きな木の陰などの生物的な側面によって特徴づけられる。

### ビッグデータ（第1章）

これまでの單一データベースシステムで管理可能なデータではなく、様々な種類、形式が含まれた大量のデータのこと。情報通信技術（ICT）の進展により、このようなデータの生成・収集・蓄積等が容易に可能になってきており、自然環境保全においてもその活用事例が増えつつある。<sup>[21]</sup>

### 標準学名（第2章－1）

ラテン語で表した正式な生物の種名のこと。

### 保全利用協定（沖縄県）（第2章－3）

エコツアーに関わる事業者が、利用する自然環境の保全と持続的な利用を目的として、自主的に策定する自主ルールのこと。その内容が適切なものであれば、沖縄県知事がこれを適当なものとして認定することができる。平成30年現在、8地区の協定が認定を受けており、主な協定項目は自然環境への配慮、安全管理、地域への配慮である。<sup>[22]</sup>

## ま行

### マングローブ（第2章－1）

熱帯、亜熱帯の汽水域の河口部などに生育する植物群の総称。マングローブを構成する植物種は、高塩分に対処する仕組みを持ち、湿地に適応した特徴的な根や種子などを持つ。沖縄県内にはメヒルギ、オヒルギなど7種のマングローブ植物が生育する。<sup>[1]</sup>

### モニタリングサイト1000（第3章）

環境省生物多様性センターが実施している生態系の長期的なモニタリングのこと。日本全国の1000ヶ所程度での長期モニタリングによって、生態系や自然環境の変化、生物種の減少等の問題を早期に把握することを目的としている。「森林・草原」「里地」「沿岸・浅海域」など生態系ごとにサイトが設置されており、サンゴ礁のモニタリングも行われている。本指針の環境カルテ（海域）に掲載した写真の一部は、モニタリングサイト1000サンゴ礁調査で得られたものである。<sup>[23]</sup>

## ら行

### ラプラシアン（第2章－1）

地形面の凹凸を表す指標として用いられる値。

### レッドリスト（第2章－1,5）

専門家の検討により選定された、絶滅の恐れがある野生生物の種のリストのこと。国際的には国際自然保護連合(IUCN)が作成しており、国内では環境省、水産庁のほか、地方公共団体やNPOなどが作成している。<sup>[24]</sup>

## わ行

### 和名（第2章－1）

生物につけられた日本名のこと。各地域で使っている地方名と日本全国で共通な標準和名がある。例えば、同じ魚について、ハマサキノオクサンは八重山地域での地方名であり、トガリエビスは標準和名である。<sup>[25]</sup>

## 英数字

### Bioclim（第2章－1）

生物の分布生息にとって重要と考えられる気候変数のこと。種分布モデルなどの生態学的モデルで使用されることが多い。毎月の気温と降水量を元に算出される19の変数がある。<sup>[26]</sup>

### Darwin core（第2章－1）

生物標本や観察結果など、生物多様性の情報を記録、共有するために用いられる国際的な形式のこと。Biodiversity Information Standards(TDWG)によって提案されている。<sup>[27]</sup>

### GIS（第1章）

Geographic Information System（地理情報システム）の略。地理的情報（例：GPS受信機で取得した位置情報）を持ったデータを管理・加工したり、地図上に分かりやすく表示したり、高度な分析を行ったりできる。身近な例として、スマートフォンのナビゲーション機能も GIS の活用例である。本指針作成にあたっては、生物多様性の解析や環境カルテの作成に活用されている。<sup>[28]</sup>

### SPSS（第2章－4）

Content of Suspended Particles in Sea Sediment の略で、海底の底質に含まれる懸濁物質含量のこと。1970年代の開発工事等によって沖縄の海には大量の赤土が流れ込み、沿岸海域の環境に大きな悪影響を与えた。SPSS法はこのような赤土汚染の状況をモニタリングするために、1980年代に沖縄県衛生環境研究所によって開発された。特別な器具や高度な分析を要しない簡便な手法であること、サンゴの健全な生息等の指標として使用できることなどから、県内沿岸域の環境調査において広範に用いられている。<sup>[29]</sup>

### 3次メッシュ（第1章、第2章－1）

日本全国を緯度経度でメッシュ（網目状）に区画したものを標準地域メッシュと呼び、各種統計の集計単位などとして活用されている。1次メッシュ、2次メッシュ、3次メッシュの3段階に分けられる。3次メッシュは2次メッシュ（およそ10km×10km）を縦横に10等分したものであり、距離にしておよそ1km×1km。ただし、各メッシュの東西方向の長さは緯度によって異なり、北海道と比較して沖縄では約1.3倍の長さである。本指針では、環境カルテ（陸域）を3次メッシュ単位で作成しており、生物多様性の情報等、多くのデータを3次メッシュ単位で整理している。<sup>[30]</sup>

## 5. 参考文献

本指針での生物多様性の解析、生物文化の抽出等に関して情報源とした文献、データベース、ウェブサイト等を以下に示す。

### (1) 生物多様性解析に関する引用文献

第2章－1及び第2章－5で解析手法を示した生物多様性解析について、引用文献を以下に示す。

1. 久保田康裕, 楠本聰太郎, 藤沼潤一, 塩野貴之. 2017. 生物多様性の保全科学:システム化保全計画の概念と手法の概要. 日本生態学会誌 67: 267-286.
2. 米倉浩司, 梶田忠. 2003. BG Plants 和名－学名インデックス (YList), <<http://ylist.info>>
3. 日本鳥学会. 2012. 日本鳥類目録改訂第7版. 日本鳥学会, 東京.
4. 日本爬虫両棲類学会. 2015. 日本産爬虫両生類標準和名.  
<<http://zoo.zool.kyoto-u.ac.jp/herp/wamei.html>>
5. 中坊徹次 (編). 2013. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
6. 西平守孝, Veron J. 1995. 日本の造礁サンゴ類. 海游舎, 東京.
7. 国土交通省. 2007. 国土交通省河川環境データベース(河川水辺の国勢調査)  
<<http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/>>
8. JODC. 2013. <[http://www.godac.jamstec.go.jp/bismal/j/JODC\\_J-DOSS](http://www.godac.jamstec.go.jp/bismal/j/JODC_J-DOSS)>
9. Wieczorek J., Bloom D., Guralnick FR., Blum S., Doring M., Giovanni R. Tim Robertson4, David Vieglais 2012. Darwin Core: An Evolving Community-Developed Biodiversity Data Standard. PLoS ONE 7: e29715. doi:10.1371/journal.pone.0029715
10. 初島住彦, 天野鉄夫. 1994. 琉球植物目録. 沖縄生物学会.
11. 島袋敬一. 1997. 琉球列島維管束植物集覧. 九州大学出版会.
12. 阿部永, 石井信夫, 金子之史, 前出喜四雄, 三浦慎悟, 米田政明. 2005. 日本の哺乳類 (改訂版). 東海大学出版会, 東京.
13. 前之園唯史, 戸田守. 2007. 琉球列島における両生爬虫類の分布. Akamata 18: 28-46.
14. 吉郷英範, Motomura H., Dewa S., Furuta K., Matsuura K. 2014. 琉球列島産陸水性魚類相および文献目録. Fauna Ryukyuana 9: 1-153.
15. Hirao T., Kubota Y., Murakami M. 2015. Geographical patterns of butterfly species

- diversity in the subtropical Ryukyu Islands: the importance of a unidirectional filter between two source islands. *Journal of Biogeography* 42: 1418-1430.
16. McWhirter, D. W., 池長裕史, 五百沢日丸. 1996. 最近の生息状況と参考記録を含めた沖縄県産鳥類目録. 沖縄県立博物館紀要 22: 33-152.
17. 沖縄野鳥研究会. 2002. 沖縄の野鳥. 新報出版, 那覇.
18. Moilanen A. 2007. Landscape Zonation, benefit functions and target-based planning: Unifying reserve selection strategies. *Biological Conservation* 134: 571-579.
19. Lehtomäki J. & Moilanen A. 2013. Methods and workflow for spatial conservation prioritization using Zonation. *Environmental Modelling & Software*, 47: 128-137.
20. Lehtomäki J., Kusumoto B., Shiono T., Tanaka T., Kubota Y., Moilanen A. 2018. Spatial conservation prioritization for the East Asian islands: A balanced representation of multitaxon biogeography in a protected area network. *Diversity and Distributions*.
21. Kubota Y., Hirao T., Fujii S., Shiono T., Kusumoto B. 2014. Beta diversity of woody plants in the Japanese archipelago: the roles of geohistorical and ecological processes. *Journal of Biogeography* 41: 1267-1276.
22. Kubota Y., Shiono T., Kusumoto B. 2015. Role of climate and geohistorical factors in driving plant richness patterns and endemism on the east Asian continental islands. *Ecography* 38: 639-648.
23. Kubota Y., Kusumoto B., Shiono T., Tanaka T. 2017. Phylogenetic properties of Tertiary relict flora in the East Asian continental islands: imprint of climatic niche conservatism and in situ diversification. *Ecography* 40: 436-447.
24. Kusumoto B., Shiono T., Konoshima M., Yoshimoto A., Tanaka T., Kubota Y. 2017. How well are biodiversity drivers reflected in protected areas? A representativeness assessment of the geohistorical gradients that shaped endemic flora in Japan. *Ecological Research* 32: 299-311.
24. Ladle, R.J. & Whittaker, R.J. 2011. *Conservation Biogeography*. John Wiley & Sons, Ltd., Publication, Oxford.
25. Hortal J., de Bello F., Diniz-Filho J.A.F., Lewinsohn T.M., Lobo J.M., Ladle R.J. 2015. Seven shortfalls that beset large-Scale knowledge of biodiversity. *Annual Review of Ecology, Evolution, and Systematics* 46:523-549.
26. Millien-Parra, V. & Jaeger, J.J. 1999. Island biogeography of the Japanese terrestrial mammal assemblages: an example of a relict fauna. *Journal of Biogeography*, 26, 959-

972.

27. Mittermeier, R.A., Turner, W.R., Larsen, F.W., Brooks, T.M. & Gascon, C. 2011. Global biodiversity conservation: the critical role of hotspots. *Biodiversity hotspots* (ed. by F.E. Zachos & J.C. Habel). 3-22. Springer Berlin Heidelberg.
28. 久保田康裕, 楠本聰太郎, 藤沼潤一, 塩野貴之, 鈴木亮, 福島新, 小澤宏之, 宮良工. 2019. 生物多様性地域戦略を空間的保全優先度分析で具現化する：沖縄県の生物多様性保全利用指針 OKINAWA 作成の事例. *日本生態学会誌* 69: 239-250.

## ( 2 ) 生物分布情報に関する参考文献等

第2章－1で解析手法を示した生物分類群の空間分布情報について、情報源を表4－5－1に示す。

表4-5-1(1). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数													地域		
	哺 乳 類	鳥 類	両 生 類	爬 虫 類	淡 水 魚	植 物	チ ヨ ウ 類	ト ン ボ 類	淡 水 陸 生 貝 類	淡 水 甲 殻 類	海 水 貝 類	海 水 甲 殻 類	サン ゴ			
(株)沖縄環境保全研究所. 2014. 石垣新川河口漁場環境調査業務報告書. 施業編2: 1-52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	318	76	328	13	○	
Global Biodiversity Information Facility	0	0	1,049	679	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	○
2015. 一人一枚写真発表. 九州両生爬虫類研究会誌. 6: 54-59	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
環境省. モニタリングサイト1000 プロジェクト	0	6,164	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
西表島生態系保護地域見直し調査	0	0	0	0	0	379	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
2011. 平成22年度沖縄北部地域におけるウミガメ類の生息実態調査業務報告書: 59-69	0	0	0	30	0	410	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
2012. 平成23年度やんばる地域の亜熱帯照葉樹林における林道バトロール検討業務報告書: 62-69	74	188	361	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
2013. 平成24年度やんばる地域における住民参加型の希少種等密猟・盗掘防止検討業務報告書: 17-28	28	756	609	112	0	0	0	0	28	7	0	0	0	7	○	
2012. 平成24年度夏期におけるやんばる地域の林道バトロール等業務報告書: 17-60	210	826	3,227	553	0	0	0	0	0	0	0	0	0	112	○	
2014. 平成25年度やんばる地域における希少種等密猟・盗掘防止のための林道バトロール業務報告書: 28-143	133	2,107	1,918	595	0	7	7	0	14	28	0	0	0	77	○	
2016. 平成27年度やんばる地域における希少種等密猟・盗掘防止のための林道バトロール業務報告書: 29-206	180	3,303	1,782	729	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
2017. 平成28年度石西礁湖サンゴ群集モニタリング調査等業務報告書: 52-57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	14	0	232	○	
名和文庫干潟貝類データ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2,728	0	0	○	
Akihito, Katsusuke Meguro. 2000. Review of the gobiid genus <i>Cristatogobius</i> found in Japan with description of a new species. Ichthyological Research. 47(3): 249-261	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Arie Y, Fujimoto T, Kozumura T, kobayashi M. 3.底生生物・魚類調査. Bulletin of Fukuoka Fisheries and Marine Technology Research Center: (3-1)-(3-5)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	0	0	0	○	
Ayako Shoji, Jun Yokoyama, Masakado Kawata. 2007. Molecular phylogeny and genetic divergence of the introduced populations of Japanese guppies, <i>Poecilia reticulata</i> . Conservation Genetics. 8: 261-271	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Douglass F. Hoese, Gerald R. Allen. 2011. A review of the amphidromous species of the <i>Glossogobius celebius</i> complex, with description of three new species. Cybium. 35(4): 269-284	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Fabienni Ziadi-Kunzuli and K. Tachihara. 2016. Female defence polygyny and plasticity in the mating system of the demersal triggerfish <i>Rhinecanthus aculeatus</i> (Pisces:Balistidae) from Okinawa Island. Marine Biology. 163: 27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	○	
Fabienni Kunzli, Katsunori Tachihara. 2012. Validation of age and growth of Picasso Triggerfish (Balistidae: <i>Rhinecanthus aculeatus</i> ) from Okinawa Island, Japan, using sectioned vertebrae and dorsal spines. Journal of Oceanography. 68: 817-829	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	○	
Fautin, Daphne G. 2013. Hexacorallians of the World	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Hajime Matsubara, Yuki Kubara, Hiroka Yoshikawa, Daisuke Iwata, Masaharu Shimizu, Yoshifumi Horie, Takuto Imai, Yuta Fukukawa, Ken-ichi Watanabe, Hidemasa Shione. 2013. Gonadal histology of wild giant mottled eel <i>Anguilla marmorata</i> in Okinawa, Japan. Biogeography. 15: 55-62	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Harumi SAKAI, Mitsuaki SATO. 1982. First Records of Five Teleostean Fishes and Three Second Records of Gobiid Fishes from Japan, Collected in Rivers on the Ryukyu Islands. 北海道大学水産学部研究年報. 33(2): 79-88	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	○	
HIDETOSHI OTA. 2003. A New Subspecies of the Agamid Lizard, <i>Japalura polygonata</i> (Hallowell, 1861) (Reptilia: Squamata), from Yonagunijima Island of the Yaeyama Group, Ryukyu Archipelago. Current Herpetology. 22(2): 61-71	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
HIDETOSHI OTA. 1990. The Tree Gecko, <i>Hemiphyllodactylus typus typus</i> (Lacertilia: Gekkonidae): an Addition to the Herpetofauna of Japan. Japanese Journal of Herpetology. 13(3): 87-90	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Hiroshi Senou, Tetsuo Yoshino , Muney Okiyama. 1987. A Review of the Mullets with a Keel on the Back, <i>Liza carinata</i> Complex (Pisces: Mugilidae). PUBLICATIONS OF THE SETO MARINE BIOLOGICAL LABORATORY. 32(4-6): 303-321	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
I-Shuang Chen, Toshiyuki Suzuki, Hiroshi Senou. 2008. A NEW SPECIES OF GOBIID FISH, <i>LUCIOGOBIUS FROM RYUKYUS, JAPAN (TELEOSTEI: GOBIIDAE)</i> . 16(4): 250-254	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Imai, H., Kashiwagi, F., Cheng, J. H., Chen, T. I., Tachihara, K., & Yoshino, T. 2009. Genetic and morphological evidence of hybridization between <i>Nematalosa japonica</i> and <i>N. come</i> (Clupeiformes: Clupeidae) off Okinawa Island, Ryukyu Archipelago, Japan. Fisheries Science. 75: 343-350	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	○	
Ishikawa, T., T. Shimose and K. Tachihara. 2013. Life history of an invasive and unexploited population of Nile tilapia ( <i>Oreochromis niloticus</i> ) and geographical variation across its native and non-native ranges. Environmental Biology of Fishes. 96: 603-601	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	6	0	0	0	○	
Kanak, M.K. and K. Tachihara. 2008. Reproductive biology of common silver biddy <i>Gerres oyena</i> in Okinawa Island of southern Japan. Fisheries Science. 74: 265-275	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	○	
Katsunori TACHIHARA, Emi OBARA. 2003. 沖縄島源河川におけるカワスズメの年齢と成長. SUISANZOSHOKU. 51(3): 307-313	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Katsunori TACHIHARA, Emi OBARA. 2003. 直達発生型魚類カワスズメの卵内発生と稚魚への形態変化の過程. SUISANZOSHOKU. 51(3): 295-306	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Katsutoshi Watanabe, Keiichiro Iguchi, Kazumi Hosoya, Mutsumi Nishida. 2000. Ichthyological Research. 47(1): 43-50	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Kawakami, T. and K. Tachihara. 2011. Dispersal of land-locked larval Ryukyu-ayu, <i>Plecoglossus altivelis ryukyuensis</i> , in the Fukui Reservoir, Okinawa Island. Cybium. 35: 337-343	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Ken Maeda, Katsunori Tachihara. 2010. Diel and Seasonal Occurrence Patterns of Drifting Fish Larvae in the Teima Stream, Okinawa Island. Pacific Science., 64(2): 161-176	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Ken Maeda, Katsunori Tachihara. 2004. Instream distributions and feeding habits of two species of sleeper, <i>Eleotris acanthopoma</i> and <i>Eleotris fusca</i> , in the Teima River, Okinawa Island. Ichthyological Research. 51: 233-240	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Ken Maeda, Katsunori Tachihara. 2005. Recruitment of amphidromous sleepers <i>Eleotris acanthopoma</i> , <i>Eleotris melanosoma</i> , and <i>Eleotris fusca</i> into the Teima River, Okinawa Island. Ichthyological Research. 52: 325-335	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Koeda, K., K. Tsuzaki, N. Hayashida and K. Tachihara. 2014. First records of two rare shappers, <i>Lutjanus madras</i> and <i>L. dodecananthoides</i> , from Okinawa waters. Fauna Ryukyuana. ISSN2187-6657: 1-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	○	
Koeda, K., T. Fukagawa, T. Ishihara and K. Tachihara. 2013. Reproductive biology of nocturnal reef fish <i>Pempheris adusta</i> (Pempheridae) in Okinawa Island, Japan. Galaxea, Journal of Coral Reef Studies: 221-228	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	○	
Koeda, K., T. Yoshino and K. Tachihara. 2013. <i>Pempheris ufuagari</i> sp. nov., a new species in the genus <i>Pempheris</i> (Perciformes, Pempheridae) from the oceanic islands of Japan. Zootaxa. 3609: 231-238	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	○	
Koeda, K., T. Yoshino and K. Tachihara. 2010. Description of new Japanese and northernmost records of a pempherid fish, <i>Pempheris vanicolensis</i> , from Iriomote Island, southern Ryukyu Archipelago. Biogeography. 12: 77-82	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	○	
Koeda, Keita, Taiki Ishihara, Takanobu Fukagawa and Katsunori Tachihara. 2016. Life cycle differences between two species of genus <i>Pempheris</i> based on age determination around Okinawa-jima Island. Ichthyological Research. 63: 519-528	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	○	
Koichi Shibukawa, Gerald R. Allen. 2007. Review of the cheek-spine goby genus <i>Gladiogobius</i> , (Actinopterygii, Perciformes, Gobiidae), with descriptions of two new species from the Indo-West Pacific. Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology., 33(4): 193-206	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	○	
Koichi Shibukawa, Toshiyuki Suzuki, Hiroshi Senou, Korechika Yano. 2005. Records of Three Shrimp-goby Species (Teleostei, Perciformes, Gobiidae) from the Ryukyu Archipelago, Japan. Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology., 31(4): 191-204	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	○	
Koichi Shibukawa, Toshiyuki Suzuki. 2005. Two New Species of the Gobiid Fish Genus <i>Eviota</i> (Teleostei, Perciformes, Gobiidae) from the Western Pacific. Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology., 31(2): 65-76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	○	
Koichi Shibukawa, Yasuhiko Taki. 1996. A new gobiid fish, <i>Acanthogobius insularis</i> , from the Ryukyu Islands, Japan. Ichthyological Research. 43: 79-85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	○	
Kondo, M., K. Maeda, N. Yamasaki and K. Tachihara. 2012. Spawning habitat and early development of <i>Luciogobius ryukyuensis</i> (Gobiidae). Environmental Biology of Fishes. 95: 291-300	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	

表4-5-1(2). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数													地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海藻類	海水甲殻類	サンゴ	本島	八重山
KOICHI KAWAMURA, RYUJI YONEKURA, YUKIO OZAKI, OSAMU KATANO, YOSHINORI TANIGUCHI, KENJI SAITO. 2010. The role of propagule pressure in the invasion success of bluegill sunfish, <i>Lepomis macrochirus</i> , in Japan. Molecular Ecology. 19: 5371-5388	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Kusuto NANJO, Hiroyoshi KOHNO, Mitsuhiro SANO. 2008. Food habits of fishes in the mangrove estuary of Urauchi River, Iriomote Island, southern Japan. Fisheries Science. 74: 1024-1033	0	0	0	0	2	0	0	0	0	65	0	0	0	0	○	
M Takada, K Tachihara. 2009. Comparisons of age, growth, and maturity between male and female, and diploid and triploid individuals in <i>Carassius auratus</i> from Okinawa-jima Island, Japan. Aquatic Conservation: Marine and Freshwater Ecosystems. 19: 806-814	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Maeda, K and K Tachihara. 2014. Larval fish fauna of a sandy beach and an estuary on Okinawa Island, focusing on larval habitat utilization by the suborder Gobiodei. Fisheries Science. 80: 1215-1229	0	0	0	0	8	0	0	0	0	13	0	0	0	0	○	
Maeshiro, R., Kusumoto, B., Fujii, S., Shiono, T., & Kubota, Y. 2013. Using tree functional diversity to evaluate management impacts in a subtropical forest. Ecosphere. 4(6): 1-7	0	0	0	0	0	1,450	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Masafumi MATSUI, Takaji MATSUJI. 1982. <i>Hyla hallowellii</i> Recorded from Iriomotejima, Yaeyama group, Ryukyu Archipelago. 爬虫兩棲類學誌. 9(3): 79-86	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Masaru Matsuda, Hiromichi Yonekawa, Satoshi Hamaguchi. 1997. Geographic Variation and Diversity in the Mitochondrial DNA of the Medaka, <i>Oryzias latipes</i> , as Determined by Restriction Endonuclease Analysis. ZOOLOGICAL SCIENCE. 14: 517-526	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Masashi Kondo, Ken Maeda, Nozomi Yamasaki, Katsunori Tachihara. 2012. Spawning habitat and early development of <i>Luciogobius ryukyuensis</i> (Gobiidae). Environmental Biology of Fishes. 95: 291-300	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Masatsumi TAKEDA, Sadayoshi MIYAKE. 1968. Six unrecorded Xanthid crabs from the Ryukyu Islands preserved in the Zoological Laboratory, Kyushu University. 沖縄生物学会誌. 5(7): 1-10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Masatsuma TAKEDA. 1972. Further Notes on the Unrecorded Xanthid Crabs from the Ryukyu Islands. 沖縄生物学会誌. 9(11): 15-24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	○
Masaya Katoh. 1996. Seasonal variation in gonadal activity of females among four species of freshwater gobies in the <i>Rhinogobius brunneus</i> species complex in Okinawa, Japan. Ichthyological Research. 43(2): 169-174	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Md. Sirajul Islam, Shigemitsu Shokita, Takashi Nagai, Tohru Naruse, Akifumi YOGI, Tetsu OSHIRO. 2002. 沖縄島漫湖醜波川のマングローブ域における大型底生生物の分布と出現量. 沖縄生物学会誌. (40): 15-31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	33	0	○
Mitsuaki Sato, Harumi Sakai, Morizumi Nakamura. 2004. <i>Kuhlia boninensis</i> (Fowler, 1907), a junior synonym of <i>Kuhlia munda</i> (De Vis, 1884) (Perciformes: Kuhliidae). Ichthyological Research. 51: 70-72	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Mutsumi Nishida, Yasumasa Sawash. 1987. Geographic Differences in the Number of Longitudinal Scales of the Ayu <i>Plecoglossus altivelis</i> . Nippon Suisan Gakkaishi. 53(11)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Nakabo, T., Senou, H., & Aizawa, M. 1998. New species of <i>Pseudocallichthys</i> (Teleostei: Callionymidae) from Iriomote Island, Japan. Copeia. 1998: 451-455	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	○	
National Museum of Natural History (NMNH), Smithsonian Institution, NMNH Invertebrate Zoology Collections	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	○	
Nozomi Yamasaki, Katsunori Tachihara, Katsunori Tachihara. 2007. Pelagic larval duration and morphology at recruitment of <i>Stiphodon punctopterygion</i> (Gobiidae: Scydiinae). Raffles Bulletin of Zoology, supplement., 14: 209-214	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Nozomi Yamasaki, Katsunori Tachihara. 2007. Eggs and larvae of <i>Awaous melanocephalus</i> (Teleostei: Gobiidae). Ichthyological Research. 54(1): 89-91	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Nozomi Yamasaki, Katsunori Tachihara. 2006. Reproductive biology and morphology of eggs and larvae of <i>Stiphodon punctopterygion</i> (Gobiidae: Scydiinae) collected from Okinawa Island. Ichthyological Research. 53: 13-18	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Nozomi YAMASAKI, masashi KONDO, ken MAEDA, katsunori TACHIHARA. 2011. Reproductive biology of three amphidromous gobies, <i>Sicyopterus japonicus</i> , <i>Awaous melanocephalus</i> , and <i>Stenogobius</i> sp., on Okinawa Island. Cybium. 35(4): 345-359	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Ohta, I. and K. Tachihara. 2004. Larval development and food habits of the marbled parrotfish, <i>Leptoscarus vaigiensis</i> , associated with drifting algae. Ichthyological Research. 51: 233-240	0	0	0	0	1	0	0	0	0	53	0	0	0	0	○	
Prince Akihito, Katsusuke Meguro. 1975. Pandaka trimaculata, a New Gobid Fish, <i>Glossogobius aureus</i> , with Notes on Related Species of the Genus. 魚類学雑誌. 22(2): 63-67	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Prince Akihito, Katsusuke Meguro. 1975. Description of a New Gobid Fish, <i>Glossogobius aureus</i> , with Notes on Related Species of the Genus. 魚類学雑誌. 22(3): 127-142	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Rahman, M. H. and K. Tachihara. 2005. Age and Growth of <i>Sillago aeolus</i> in Okinawa Island, Japan. Journal of Oceanography, 61: 569-573	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	○	
Ryohei Tatsumi, Miwako Shikina, Kiyoshi Soyan, Koichi Ikeda, Tomohiro Takatani, Osamu Arakawa. 2013. Maturation-associated changes in the internal distribution of tetrodotoxin in the female goby <i>Yongeichthys criniger</i> . Toxicol. 63: 64-69	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○	
Sadao IKEHARA, Takeya ABE, Matsu SHIMOJANA, Yoshiharu YONASHIRO, Susumu MIYAGI. 1976. Nest site of Noguchi-eri or Okinawa Woodpecker, <i>Sapheopipo noguchii</i> . 沖縄生物学会誌. (14): 55-60	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Seiji MATSUMOTO, Haruhiko FUJIMOTO, Kenji TAKEHARA, Fumiyasu SATO, Mutsumi NISHIDA, Masanori KOHDA. 2007. ECOLOGY AND MORPH TRAITS OF THE SWAMP EEL, <i>MONOPTERUS ALBUS</i> (SYNBRANCHIFORMES: SYNBRANCHIDAE) ON THE RYUKYU ISLANDS, JAPAN. 関西自然保護機構会誌. 29(1): 5-18	0	0	0	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
Shimose, T. and K. Tachihara. 2005. Age, growth and maturation of the blackspot snapper <i>Lutjanus fulviflammus</i> around Okinawa Island, Japan. Fisheries Science. 71: 48-55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	○	
Shin-ichiro Oka, Katsunori Tachihara. 2001. Estimation of spawning sites in the spotted flagtail, <i>Kuhlia marginata</i> , based on sperm motility. Ichthyological Research. 48: 425-427	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Shin-ichiro Oka, Katsunori Tachihara. 2008. Migratory history of the spotted flagtail, <i>Kuhlia marginata</i> . Environmental Biology of Fishes. 81: 321-327	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Suzuki, T. & H. Senou. 2013. Review of the sand-diving goby genus <i>Parcaenaria</i> (Perciformes: Gobiidae), with descriptions of two new species from the Ryukyu Islands. Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology, supplement, 7: 53-66	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
T. Ishikawa, K. Tachihara. 2011. Reproductive biology, growth, and age composition of non-native Indian glassy fish <i>Parambassis ranga</i> (Hamilton, 1822) in Haebaru Reservoir, Okinawa-jima Island, southern Japan. Journal of Applied Ichthyology. 28: 1-7	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Taiki Ishihara, Katsunori Tachihara. 2008. Reproduction and early development of a freshwater pipefish <i>Microphis leiaspis</i> in Okinawa-jima Island, Japan. Ichthyological Research. 55(4): 349-355	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Taiki Ishihara, Katsunori Tachihara. 2009. The maturity and breeding season of the bellybarred pipefish <i>Hippocampus spicifer</i> , in Okinawa-jima Island. rivers. Ichthyological Research. 56(4): 388-393	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	○	
Takuro Shibuno, Yohei Nakamura, Masahiro Horinouchi, Mitsuhiro Sano. 2008. Habitat use patterns of fishes across the mangrove-seagrass-coral reef seascapes at Ishigaki Island, southern Japan. Ichthyological Research. 55: 218-237	0	0	0	0	2	0	0	0	0	54	0	0	0	0	○	
Tatsuya Kawakami, Katsunori Tachihara. 2010. Occurrence and body size changes of drifting land-locked Ryukyu-ayu <i>Plecoglossus altivelis ryukyuensis</i> larvae in the San-numata River, Okinawa-jima Island, Japan. Ichthyological Research. 57(2): 204-208	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
Tetsuo Yoshino, Hidenori Yoshigou. 1998. First records of two freshwater pipefishes of the genus <i>Microphis</i> (Synbranchiformes: Synbranchidae) from Japan. Ichthyological Research. 45(2): 201-204	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
Tetsuo Yoshino, Hidenori Yoshigou, Hiroshi Senou. 2002. <i>Mesopristes iravi</i> , a new terapontid fish (Perciformes: Terapontidae) from rivers of Iriomote Island, the Ryukyu Islands. Ichthyological Research. 49: 234-239	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	○
Tetsuo Yoshino, Hirokazu Kishimoto. 2008. <i>Plosotus japonicus</i> , a New Eeltail Catfish (Siluriformes: Plosotidae) from Japan. Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology, supplement, 2: 1-11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	○	○
Tetsuo YOSHINO. 1976. Five Unrecorded Fishes from Japan, Collected from Sesoko Island, Okinawa. 沖縄生物学会誌. (14): 33-40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	○	

表4-5-1(4). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数													地域			
	哺 乳 類	鳥 類	両 生 類	爬 虫 類	淡 水 魚	植 物	チ ヨ ウ 類	ト ン ボ 類	淡 水 陸 生 貝 類	淡 水 甲 殻 類	海 水 魚	海 水 貝 類	海 藻 草 類	海 水 甲 殻 類	サン ゴ	本 島	八 重 山
安部真理子、萩原隼人、早川英毅、渡辺尚樹、高島道雄。2006. ミサンゴの多様性に関する研究。琉球大学21世紀プログラム「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析」平成17年度成果発表会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	○
安部直哉、河野裕美、真野徹。1986. 仲の神島で繁殖するセグロアシザシの個体数と離(幼鳥)数の推定。山鳥島研究報、18(1): 28-40	1	32	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
伊藤信義。1986. 日本におけるクロトキの生息記録。34: 127-143	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
伊波善男。1990. エリクスの植物: 382p	0	0	0	0	0	2,885	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
伊波善男。全沖縄県立高等学校の校庭の植物目録	0	0	0	0	0	4,600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
伊波善男。2007. 第3章 都市の中の自然 蔓草類。沖縄市史 第4巻 自然・地理・考古編 自然編: 290-300	0	0	0	0	0	1,511	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
伊波善男。2007. 第3章 都市の中の自然 植物の種類。沖縄市史 第4巻 自然・地理・考古編 自然編: 251-281	0	0	0	0	0	1,903	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
伊波善男、伊礼洋子・池田直樹・兼城洋洋・渡嘉敷玲子。1986. 山谷の植物。沖縄市自然調査報告書、1: 52	0	0	0	0	0	150	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
伊澤雅子、前田喜四雄。1998. 西表島で採集されたアブロコウリ <i>Pipistrellus abramus</i> の記録。沖縄島嶼研究、16: 17-18	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
井口修、西平守孝。1994. 沖縄島から新たに記録されたシモフリオマキナエ <i>Uca triangularis</i> 。沖縄生物学会誌、(32): 39-42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○	
井川桃子。2015. 単体サンゴとホムシムの共生系における生態と生活史: 日本国学会第62回全国大会講演要旨	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○	
一般財団法人自然環境研究センター。2018. 平成29年度 クロワカゲマド牛糞の生態状況把握等業務報告書: 116p	0	0	0	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
宇都宮妙子。2000. 南西諸島の両生類調査記3. 沖縄島・宮古島・与論島・奄美大島・徳之島の両生類について、両生類誌、4: 23-27	0	0	25	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
宇都宮妙子。2000. 南西諸島の両生類調査記4. 奄美大島・徳之島・沖縄島・西表島の両生類について、両生類誌、5: 12-16	0	0	13	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
宇都宮妙子。2001. 南西諸島の両生類調査記5. 奄美大島・徳之島・沖縄島の両生類について、両生類誌、6: 7-12	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
宇都宮妙子。2001. 南西諸島の両生類調査記6. 徳之島・沖縄島・奄美大島の両生類について、両生類誌、7: 49-53	0	0	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
宇都宮妙子。2002. 南西諸島の両生類調査記7. 奄美大島・沖縄島の両生類について、両生類誌、8: 35-38	0	0	18	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
宇都宮妙子。2002. 南西諸島の両生類調査記8. 奄美大島・沖縄島の両生類について、両生類誌、9: 33-37	0	0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
宇都宮妙子。2003. 南西諸島の両生類調査記9. 沖縄島・奄美大島・徳之島・石垣島・西表島の両生類について、両生類誌、10: 8-18	0	0	17	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
宇都宮妙子。1999. 南西諸島の両生類調査記2. 沖縄島と渡嘉敷島の両生類について、両生類誌、3: 15-20	0	0	18	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
羽地邦雄、砂川栄喜、池長裕史。2011. 沖縄県多良間島におけるナンキンオシ <i>Nettapus coromandelianus</i> の観察記録。日本鳥学会誌、60: 246-249	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
鶴岡貢行。1983. 沖縄島 八重山におけるトンボ類採集記録。琉球の昆虫、(10): 74-78	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
浦添市史編集委員会。1986. 浦添市の植物。浦添市史、第6巻 資料編5 (自然・考古・産業・歌謡)	7	23	0	0	0	0	0	50	0	27	0	0	0	0	0	0	○
延原肇・宮良全修・佐久本敏。1984. 西表島南風見田浜の砂浜群落の変化。沖縄生物学会誌、(22): 103-114	0	0	0	0	0	0	139	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
延原肇・佐久本敏・宮良全修。1983. 沖縄の砂浜群落の変化。沖縄生物学会誌、(21): 4-51	0	0	0	0	0	0	234	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
延原肇・佐久本敏・宮良全修・玉城常雄。1981. 沖縄の砂浜群落の成立要因。沖縄生物学会誌、(19): 1-16	0	0	0	0	0	0	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
塙野眞之。未発表データ	0	0	0	0	0	0	815	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
奥土春喜、二ライ社。2000. 南大東島の自然: 1-135	0	193	0	0	0	0	0	11	16	0	0	0	0	0	0	0	○
横川浩治。2000. 沖縄に生息するティラピア。伊豆海洋公園通過、11(5): 2-5	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
横田昌嗣、阿部萬志、佐藤宣子。2016. 宮古諸島から新たに見つかったミヅ管束植物。宮古島市総合博物館紀要、(20): 121-128	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
翁長修。東江林、上間久美子、宮城ゆかり、島袋俊夫、津波剛子。1984. 人工放棄ダムにおける植物の生態分布。沖縄生 物教育研究会誌、(17): 33-34	0	0	0	0	0	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
向野幹人。2006. 南大東島におけるコモシヒメハネビロトンボ類の記録。琉球の昆虫、(30): 55-56	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○
向原一郎、松崎草平、宮本正。2014. 海洋公園におけるアサギマダラのマーク記録。琉球の昆虫、(23): 1-19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○	
岡村純。2003. 2005年5月 石垣島におけるアサギマダラのマーク記録。琉球の昆虫、(23): 83	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○
岡村純。2003. ハマヤマトシジミの採集記録 1986~2003年。琉球の昆虫、(23): 82	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	○
岡村純。2004. 黒島におけるアサギマダラのマーク記録。琉球の昆虫、(24): 68	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○
岡村純。1994. コウモリ種を伴う良部島から記録。沖縄生物教育研究会誌、(26): 9-11	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
岡村純。2005. 宮古における野生化シシャクの分布状況 平良市大野山林の野生化シシャクを捕獲しなくていいのか? - 平良市総合博物館紀要、(10): 99-104	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
岡田博、穀谷一。岡本素治。2007. <i>Caryatia tenuifolia</i> (Wight & Arn.) Gagnep., ブドウ科についての分類学的記述。Acta phytotaxonomica et geobotanica, 58(1): 51-55	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
岡宗理子。2004. オオミズナギドリの繁殖地と繁殖個体数規模および海域、表面水温との関係。Journal of the Yamashina Institute for Ornithology, 35: 164-188	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
沖縄開発庁。1980. 第1章 地上動物調査(1)主に陸上脊椎動物及び大型土壤動物)。尖閣諸島調査報告書(学術調査編): 1-45	4	54	0	6	0	0	0	0	30	0	0	7	0	0	0	0	○
沖縄開発庁。1980. 第2章 地上動物調査(2)主に哺乳動物)。尖閣諸島調査報告書(学術調査編): 46-86	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	○
沖縄開発庁。1980. 第3章 水中動物調査(海岸動物及び底生動物)。尖閣諸島調査報告書(学術調査編): 87-117	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	156	0	2	0	○	
沖縄開発庁・沖縄総合開発事業局。2000. 中城湾港(泡瀬地区)公有水面埋立事業に係る環境影響評価書: 5巻	0	366	0	0	0	502	0	0	0	0	0	60	740	0	181	○	
沖縄県。2013. 1.1 サンゴ類調査結果。平成24年度 赤土等流出防止海域モニタリング調査委託業務報告書: 1.1-1 ~1.1-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	○	
沖縄県。2013. 2013.1.1 永久コドラー調査。平成24年度 赤土等流出防止海域モニタリング調査委託業務報告書: 14-17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	○
沖縄県。2012. 沖縄県指定ナービング島鳥保護区指定計画書: 1-8	0	7	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
沖縄県。沖縄県自然環境再生行動計画動植物分布データ	372	2,340	399	489	154	1,326	0	0	0	0	34	0	0	0	0	0	○
沖縄県。1982. 沖縄県自然環境保全地帯 指定候補地学術調査報告書 知花グスク 斎場御嶽とその周辺地域: 130p	1	5	2	6	0	0	19	1	11	0	0	0	0	0	0	0	○
沖縄県。2016. 4. 宮古島城公園整備事業～計画段階環境配慮書～、第5章: 1-100	0	25	2	14	0	2	0	0	0	3	1	0	0	27	0	0	○
沖縄県。2011. 県道平和の道(仮称)整備事業に係る環境影響評価書: 6章	116	355	20	64	0	783	0	0	87	6	8	297	238	430	0	0	○
沖縄県。2015. 石垣新川河川環境構造調査業務報告書(その2)。資料編2: 1-60	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
沖縄県。2015. 多目的型河川改修モデル事業委託報告書	9	108	14	16	30	0	0	46	30	18	18	19	184	17	0	0	○
沖縄県。2015. 平成26年度自然保護再生指針(仮称)実事業委託業務: 213p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	4	210	0	222	0	0	○
沖縄県。2016. 平成27年度沖縄県環境構造調査結果報告書	0	0	0	0	0	39	0	0	17	3	44	66	44	0	81	0	○
沖縄県。2002. 与那空港張架準備事業に係る環境影響評価書: 第6章	25	164	0	15	2	709	0	0	2	1	89	180	134	32	195	0	○
沖縄県ダム事務所。2006. 儀似川・聯合川・泡瀬川の水害防除工事環境影響評価書: 第6章	2	49	5	35	19	1,298	2	22	55	57	4	25	68	53	0	0	○
沖縄県開発建設部・河川課。2006. 奥川及び源川川における河川生態調査業務委託報告書: 1-105	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	○
沖縄県開発建設部・河川課。2005. 奥川及び源川川生態調査業務委託報告書: 1-126	0	0	0	4	70	171	0	0	1	11	0	1	0	1	0	0	○
沖縄県環境保全自然保護課。2016. 生物多样性おきなわフランクトン2015年度調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
沖縄県環境保全自然保護課。2017. 生物多样性おきなわフランクトンH29年度調査	73	851	133	217	279	495	390	356	222	303	519	5,753	2,357	4,180	0	0	○
沖縄県環境保全自然保護課。2018. 生物多样性おきなわフランクトンH30年度調査	60	629	147	197	161	0	164	174	62	236	173	3,470	1,562	2,210	0	0	○
沖縄県環境保全自然保護課。2																	

表4-5-1(5). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数													地域			
	哺 乳 類	鳥 類	両 生 類	爬 虫 類	淡 水 魚	植 物	チ ヨ ウ 類	ト ン ボ 類	淡 水 陸 生 物	淡 水 甲 殻 類	海 水 魚	海 水 貝 類	海 藻 草 類	海 水 甲 殻 類	サン ゴ	本 島	八 重 山
沖縄県教育委員会、1997. クジマガホタル生息実態緊急調査報告書. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第37集: 61p	0	20	9	1	0	0	0	14	67	0	0	33	0	0	0		
沖縄県教育委員会、1981. ケナガスミ実態調査報告書. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第22集: 65p	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
沖縄県教育委員会、1977. ケラマジカ実態調査報告Ⅰ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第11集: 148p	0	0	0	0	0	0	2,057	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
沖縄県教育委員会、1978. ケラマジカ実態調査報告Ⅱ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第12集: 209p	0	0	0	0	0	0	877	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
沖縄県教育委員会、1979. ケラマジカ実態調査報告Ⅳ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第17集: 148p	0	41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
沖縄県教育委員会、1996. ケラマジカ実態調査報告Ⅴ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第35集: 201p	58	0	0	0	0	160	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
沖縄県教育委員会、1992. ダイトワオコワツリ保護対策緊急調査報告書. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第31集: 269p	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
沖縄県教育委員会、1976. ノグチグラ実態調査速報(II). 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第5集: 48p	0	4	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
沖縄県教育委員会、2003. リュウキウヤマガメ・セママルハゴメ生息実態調査報告書. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第41集: 99p	0	0	0	121	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
沖縄県教育委員会、1975. 塩川動態調査報告予報Ⅰ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第2集: 78p	0	0	0	0	0	1,606	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
沖縄県教育委員会、1976. 塩川動態調査報告Ⅱ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第6集: 91p	2	12	0	6	11	0	21	7	0	17	5	2	0	7	0	○	
沖縄県教育委員会、1977. 堀川動態調査報告Ⅲ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第7集: 51p	0	0	0	0	2	0	0	0	0	46	0	0	0	0	0	○	
沖縄県教育委員会、1978. 沖縄県社寺・御嶽林木調査報告Ⅰ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第15集: 120p	0	0	0	0	0	0	2,621	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
沖縄県教育委員会、1979. 沖縄県社寺・御嶽林木調査報告Ⅱ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第18集: 210p	0	0	0	0	0	8,823	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
沖縄県教育委員会、1981. 沖縄県社寺・御嶽林木調査報告Ⅳ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第21集: 316p	0	0	0	0	0	2,616	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
沖縄県教育委員会、1978. 沖縄県洞穴実態調査報告Ⅰ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第14集: 137p	7	0	14	24	0	1,174	0	0	72	0	0	14	0	0	0	○	
沖縄県教育委員会、1979. 沖縄県洞穴実態調査報告Ⅱ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第16集: 156p	5	0	7	14	0	0	0	0	37	0	0	0	0	0	0	○	
沖縄県教育委員会、1976. 鹿佐次郎のヒルギ林実態調査報告. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第7集: 60p	0	0	0	0	0	2,571	0	0	0	2	0	0	0	0	0	○	
沖縄県教育委員会、1977. 鹿佐次郎のヒルギ林実態調査報告Ⅱ. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第10集: 88p	0	0	0	0	0	400	0	0	0	8	0	0	0	64	0	○	
沖縄県教育委員会、1975. 指定候補未満水系林荒木の岩礁海岸植物群落. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第4集: 22p	0	0	0	0	0	74	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
沖縄県教育委員会、1985. 西表島等天然記念物緊急調査Ⅲ 西表島天然記念物緊急調査報告書Ⅲ 動物. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第25集: 88p	8	94	40	114	0	0	2	0	127	0	0	0	0	4	0	○	
沖縄県教育委員会、2009. 天然記念物緊急調査報告書(サンゴ). 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第45集: 142p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	73	○	
沖縄県教育委員会、1975. 与那国島周辺のイタヤ林について. 沖縄県天然記念物調査シリーズ、第3集: 73p	0	0	0	0	0	5,944	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
沖縄県水産海洋研究センター・石垣支所. 八重山海域におけるシロクマララの分布: <a href="http://fra-seika.fra.afric.go.jp/~dbmgr/cgi-bin/search/search_detail.cgi?RESULT_ID=3359&amp;YEAR=2011">http://fra-seika.fra.afric.go.jp/~dbmgr/cgi-bin/search/search_detail.cgi?RESULT_ID=3359&amp;YEAR=2011</a>	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	○	
沖縄県土木建築部河川課、2004. 2級水系河川整備基本方針及び整備計画策定業務(石綿新川川)報告書	0	144	0	0	34	610	0	33	19	22	20	15	0	51	0	○	
沖縄県土木建築部河川課、1997. 安里川(水系)河川環境管理基本計画案(環境資料編): 1-211	0	88	0	0	9	121	0	0	0	0	21	0	0	0	0	○	
沖縄県土木建築部河川課、1999. 国頭川(水系)河川整備基本計画案(環境資料編): 2編	0	123	0	0	32	1,061	0	12	16	9	41	36	0	138	0	○	
沖縄県土木建築部河川課、2001. 中部地区河川整備基本方針及び整備計画策定業務報告書【第一編比謝川水系編】: 1-49	0	33	32	6	128	593	0	215	63	75	66	40	2	98	0	○	
沖縄県土木建築部河川課、2015. 田原川環境調査業務委託(H27)報告書	0	101	0	0	22	96	0	25	14	20	12	37	0	40	0	○	
沖縄県土木建築部河川課、2016. 田原川環境調査業務委託(H28)報告書	6	80	4	15	0	76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
沖縄県土木建築部河川課、2001. 南南地区河川整備基本方針・整備計画策定業務(安謝川). 第7編	0	69	0	0	7	101	0	3	17	4	11	18	0	28	0	○	
沖縄県土木建築部河川課、2001. 南南地区河川整備基本方針・整備計画策定業務(名麗川). 第7編	4	126	15	21	11	25	0	12	7	30	19	14	0	30	0	○	
沖縄県土木建築部河川課、2002. 北中部地区河川整備基本方針(幸地川)IV川環境編	0	0	0	0	0	91	171	0	17	9	42	34	40	0	17	○	
沖縄県土木建築部河川課、2002. 北部・中部地区河川整備基本方針(石川川)IV川環境編	0	59	0	0	22	198	0	15	4	17	58	23	0	28	0	○	
沖縄県土木建築部河川課、2002. 北部・中部地区河川整備基本方針(天保川)IV川環境編	0	0	0	0	53	392	0	47	32	7	23	14	0	17	0	○	
沖縄県土木建築部河川課、2002. 北部地区河川整備基本方針及び整備計画策定業務(我國祖河川)報告書	0	36	0	0	46	147	0	8	4	7	25	19	0	30	0	○	
沖縄県土木建築部河川課、2002. 北部地区河川整備基本方針及び整備計画策定業務(汀間川)報告書	0	30	0	0	56	142	0	13	9	35	53	28	0	91	0	○	
沖縄県土木建築部河川課、2002. 北部地区河川整備基本方針及び整備計画策定業務(高名川)報告書	0	26	0	0	27	89	0	5	5	27	27	23	0	53	0	○	
沖縄県土木建築部河川課、2002. 北部地区河川整備基本方針及び整備計画策定業務(那霸川)報告書	0	24	0	0	42	159	0	9	7	47	17	25	0	37	0	○	
沖縄県土木建築部空港課、1993. 北大東空港環境影響評価調査協議図書	21	384	28	35	0	283	114	56	0	0	0	0	0	14	94		
沖縄県土木建築部都市計画課、2011. 主要地方道南風原知念線(地域高規格道路 南部東道路)整備事業に係る環境影響評価書: 6章	137	896	68	95	27	805	0	20	287	15	2	25	1,775	4	0	○	
沖縄県土木建築部都市計画課、1998. 一般国道331号豊見城系満ババイア建設事業: 102-140	5	299	9	16	1	0	3	4	0	0	31	20	0	56	0	○	
沖縄県土木建築部都市計画課、1996. 沖縄市モノレール事業に係る環境影響評価書(5章): 102-145	0	1,872	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
沖縄県土木建築部都市計画課、1993. 環境影響評価書 津嘉山北上地区画整理事業: 237-264	2	12	4	2	0	253	22	8	0	0	0	0	0	0	0	○	
沖縄県土木建築部南部土木事務所、2006. 平成17年度 国場川河川整備計画調査業務委託報告書: 1-45	0	99	0	0	32	197	0	15	18	5	24	14	0	29	0	○	
沖縄県土木建築部八重山土木事務所、2012. 台船泊港環境調査業務委託(那古川)報告書	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
沖縄県土木建築部八重山土木事務所、2012. 平成23年度白浜橋環境調査業務委託(竹富町白浜地内)報告書. 第3章	15	87	0	19	57	431	83	60	49	58	163	130	0	208	0	○	
沖縄県土木建築部八重山土木事務所、2017. H26沿岸環境保全措置委託報告書, 第2章	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
沖縄県土木建築部八重山土木事務所、2015. 小糸川河川環境調査業務委託報告書, 第4章	0	24	0	0	0	150	0	0	0	5	24	55	0	25	2	○	
沖縄県土木建築部八重山土木事務所、2009. 台石垣空港(仮称)環境調査業務委託報告書: 90p	0	284	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
沖縄県土木建築部八重山土木事務所、2011. 台空港環境調査業務委託報告書: 0	0	0	0	0	51	0	0	32	17	34	106	54	0	79	0	○	
沖縄県土木建築部八重山土木事務所、2013. 船泊港環境調査業務委託報告書: 第3章	0	30	0	0	0	142	0	0	0	8	95	116	0	22	65	○	
沖縄県土木建築部八重山土木事務所、2013. 平成25年度白浜橋環境調査業務委託(竹富町白浜地内)報告書. 第3章	0	23	0	0	0	266	0	0	0	5	37	50	0	16	38	○	
沖縄県八重山支厅土木建築課、1999. バンナ公園自然生態調査業務委託報告書	30	0	20	27	5	1,591	154	75	0	19	0	0	0	0	0	○	
沖縄県八重山支厅土木建築課、2014. 浦内橋環境調査業務(その2)報告書	5	26	8	9	9	0	14	1	0	10	126	73	33	113	0	○	
沖縄県八重山支厅土木建築課、2014. 浦内橋環境調査業務(その2)報告書	9	131	11	20	19	206	38	19	8	17	283	178	60	271	0	○	
沖縄県八重山支厅土木建築課、2005. 浦内橋環境調査業務委託報告書: 12p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2	0	1	0	○	
沖縄県八重山支厅土木建築課、2006. 浦内橋環境調査業務委託報告書: 16p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	2	0	1	0	○	
沖縄県八重山支厅土木建築課、2006. 大浜海岸環境調査業務委託報告書: 0	0	68	0	0	6	104	0	0	0	3	150	268	146	132	52	○	
沖縄県八重山支厅土木建築課、1999. 平成11年度「前良橋環境調査」報告書	7	48	7	11	3	227	39	10	9	8	78	49	0	48	0	○	
沖縄県八重山支厅土木建築課、2003. 平成13年度台石垣環境調査業務委託報告書	0	156	0	0	13	116	0	0	0	5	183	436	117	201	50	○	
沖縄県八重山支厅土木建築課、2005. 平成14年度台石垣伊原間瀬(野呂水)環境調査業務委託報告書: 109p	5	535	28	38	14	109	44	31	19	7	7	14	0	19	0	○	
沖縄県八重山支厅土木建築課、2005. 平成17年度台石垣伊原間瀬(野呂水)環境調査業務委託(その2)報告書: 67p	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
沖縄県八重山支厅土木建築課、2006. 平成17年度台石垣伊原間瀬(野呂水)環境調査業務委託(その3)報告書	6	49	11														

表4-5-1(6). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数												地域			
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	海水甲殻類	海水魚	海藻類	海水甲殻類			
沖縄総合事務局北都タム事務所, 2002. 貝類・甲殻類・大型水生昆虫類・魚類・潮間帶生物編. 沖縄本島北部地域における生物調査データ, 第3巻	0	0	0	0	668	0	0	457	445	970	203	242	0	521	0 ○	
沖縄総合事務局北都タム事務所, 1997. 大保ダム建設発生土の処分候補地に係る生物環境調査データ(陸域・海域): 49-60	0	0	52	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
沖縄総合事務局北都タム事務所, 1998. 大保川生物環境調査データ: 253p	0	0	13	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
沖縄総合事務局北都タム事務所, 2002. 哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・陸上昆虫類編. 沖縄本島北部地域における生物調査データ, 第2巻	179	881	280	316	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
沖縄防衛局, いであ株式会社, 2014. 「シユワフ(12-4) 水域生物等調査」調査報告書 : 3-183~3-302	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	297	○	
沖縄防衛局, 2014. シュワフ(H24)水域生物等調査報告書: 518p	142	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
沖縄防衛局, 2015. シュワフ(H25)水域生物等調査報告書: 717p	125	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
沖縄防衛局, 2016. シュワフ(H26)水域生物等調査報告書	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
沖縄防衛局, 2011. 普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	81	0	0	0	○	
沖縄防衛局, 2012. 普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価書 参考資料(平成 21 年度～平成 22 年度調査): 第2章	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,403	○	
沖縄防衛局, 2011. 普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価書, 資料編: 6巻	1,813	128	9	26	27	908	16	32	66	57	31	328	1,809	375	789 ○	
沖縄防衛局, 2012. 普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境影響評価書の補正後の環境影響評価書: 第3章	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	239	○	
恩納村, 2005. サンゴ礁の状況. 恩納村オニコト対策ネットワーク	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	○	
恩納村村長協同組合, 2010. 恩納村オニコト対策報告書: 4-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	○	
下謝名松栄, 1973. 八重山群島の石灰岩層の動物相調査報告. 沖縄生物影響研究会誌, (5): 1-26	5	0	3	3	0	0	0	0	26	1	0	1	0	2	○	
下謝名松栄, 1979. 沖縄島および周辺離島の洞窟動物. 沖縄県洞穴実態調査報告書 II: 97-153	0	0	7	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
下瀬環, 立原一應, 2005. 沖縄島沿岸におけるセイコロホシエイ稚魚の出現と形態. 沖縄生物学会誌, (43): 35-43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	○	
加藤信一郎, 1991. 盛夏にオゴマダラなどの異常集団を見る. 琉球の昆虫, (14): 31-32	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	○	
加藤信一郎, 1987. 八重山群島で6月に採集したチヨワ・琉球の昆虫, (11): 41-43	0	0	0	0	0	0	118	0	0	0	0	0	0	0	○	
河内紀浩, 佐々木健志, 2002. 沖縄島北部森林帯における移入食肉類(シャワマングース・ノネコ・ノイズ)の分布及び食性について. 沖縄生物学会誌, (40): 41-50	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
河野裕美, 水谷晃, 村越未來, 丹尾岳斗, 小菅丈治, 2012. 仲ノ神島海鳥集団繁殖地のオカラヤカリ類. 沖縄生物学会誌, (50): 49-59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	○	
河野裕美, 水谷晃. 2009. 琉球列島南部西表島周辺で保護回収された3羽のヒメクロウミツバメOceanodroma monorhis. 沖縄生物学会誌, (47): 33-39	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
河野裕美, 安部直哉, 真野徹, 1986. 仲の神島の海鳥類. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology, 18: 1-27	0	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
河野裕美, 水谷晃. 2015. 仲ノ神島および西表島におけるオジロワシの初越夏と繁殖海鳥類への影響. Strix: journal of field ornithology; 野外鳥類学論文集, 31: 125-134	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
河野裕美, 大田英利. 1991. 海鳥繁殖地の種類: 八重山諸島・仲の神島の爬虫両生類相. 沖縄島嶼研究, (9): 73-89	0	6	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
花原努, 2017. 大瀬内村におけるシリケイモリの繁殖期と市場の利用. 沖縄生物学会誌, (55): 1-10	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
花崎勝司, 1994. 沖縄島崎本部沿岸における魚類相. 沖縄生物学会誌, (32): 17-25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	238	0	0	0	0	○	
花崎勝司, 2005. 沖縄島北部における魚類相: 地内海. 沖縄生物学会誌, (43): 75-87	0	0	0	0	1	0	0	0	0	193	0	0	0	0	○	
海老沢朝彦, 杉山昭博, 1993. 名戸島保護水面管理事業及び沿整藻場調査結果. 平成3年度沖縄県水産試験場事業報告書: 233-254	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
海老沢朝彦, 杉山昭博, 1992. 名戸島保護水面管理事業報告書. 平成2年度沖縄県水産試験場事業報告書: 222-243	0	0	0	0	0	0	0	0	0	161	0	0	0	0	○	
海老沢朝彦, 杉山昭博, 1991. 名戸島保護水面調査結果. 平成元年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	169	0	0	0	0	○	
外間現誠, 末吉幸満, 仲原伸, 1973. 本部半島の森林植生. 沖縄県林業試験場研究報告, 16: 72-180	0	0	0	0	0	0	2,035	0	0	0	0	0	0	0	○	
角田羊平, 青柳光, 德山孟伸, 才木美智, 笹井隆秀, 戸守田, 前之園唯史, 2016. 宮古島および伊良部島における稀少なヘビ2種: ヤコビギ(アサキシマヘビ)の観察例. Akamata, 26: 25-30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
角田羊平, 木寺洋子, 2010. 沖縄島やんばる地帯で目撃されたワシガルの一行報告. Akamata, 21: 27-28	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
株式会社 販敷環境. 2010. 産業廃棄物焼却溶融資源化施設の整備事業に係る環境影響評価書: 277-427	63	98	41	40	18	230	49	41	39	10	3	2	257	5	0 ○	
株式会社ニューリック, 2011. 平成23年度 カンムリゾウ生息状況等調査業務報告書: 99p	0	152	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
株式会社ナレックス研究所, 2012. 平成23年度国指定冲縄島鳥獣保護区における保全事業検討調査業務報告書: 337p	14	392	0	0	12	0	0	0	18	12	120	132	0	279	0 ○	
株式会社沖縄環境研究所, 2011. 平成22年度平成保山ガリバナ生態調査業務報告書: 37p	0	0	0	0	0	317	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
株式会社ナレックス科学コサルタント, 2016. 平成27年度西表石垣国立公園西表島横断ゼミタリング手法検討業務報告書: 56p	0	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
乾儀大, 桑原景, 錦木賀与, 川瀬成吾, 2013. 沖縄県八重山諸島で確認されたチヨワ類、陸性水魚類、鳥類。近畿大学農学部紀要, 46: 277-298	0	106	0	0	19	0	0	0	0	5	0	0	0	0	○	
乾儀大, 桑原景, 錦木賀与, 川瀬成吾, 2013. 沖縄県八重山諸島で記録されたチヨワ類、陸性水魚類、鳥類。近畿大学農学部紀要, 46: 1-6	0	0	0	0	0	0	144	0	0	0	0	0	0	0	○	
環境省, 2009. マングース捕獲事業	762	2,462	3,292	595	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
環境省, 2018. 国指定仲の神島鳥獣保護区 仲の神島特別保護地区計画書【指定】(環境省案): 1-10	1	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
環境省, 2015. 第 6 回 第 7 回自然環境保全基礎調査 (植生調査)	0	0	0	0	0	8,799	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○	
環境省, 第2-5回自然環境保全基礎調査, 動植物分布調査	103	0	367	719	59	0	0	0	0	0	3	0	0	0	○ ○	
環境省, 2004. 第6回自然環境保全基礎調査鳥類繁殖分布調査	0	1,362	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○	
環境省, 沖縄島東部自然保護事務所, 2005. 平成16年度カンムリワシ生息状況等調査業務報告書(グリーンワーカー事業): 68p	0	134	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○	
環境省沖縄地区自然保護事務所, 株式会社南西環境研究所, 2002. 平成13年度 やんばる地域希少生物保全対策事業報告書: 21p	194	132	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所, 財团法人自然研究センター, 2006. 平成17年度沖縄県八重山地域における特定外来生物防除業務(オオヒカリガエル)調査報告書: 63p	0	0	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所, 財团法人自然研究センター, 2008. 平成19年度沖縄県八重山地域におけるオオヒカリガエル等外来生物防除事業報告書: 98p	28	0	169	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所, 2008. 平成19年度石西礁湖サンゴ群集変動調査報告書: 141p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	119	0	0	0	45	○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所, 2007. 平成18年度石西礁湖サンゴ群集変動調査報告書: 145p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	216	0	26	0	228	○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所, 2008. 平成19年度石西礁湖サンゴ群集変動調査報告書: 163p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	353	0	84	0	228	○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所, 2009. 平成20年度宮古諸島における淡水性甲殻類等の現状把握調査業務報告書: 39p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0	○ ○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所, 2011. 平成22年度石西礁湖サンゴ礁保全総合調査業務報告書: 1-281	0	0	0	0	0	0	0	0	0	921	0	0	0	416	○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所, 2012. 平成23年度西表石垣国立公園川平石崎海岸公園地区利用整検討業務報告書: 49p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	604	0	0	0	0	○ ○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所, 2012. 平成23年度西表石垣国立公園川平湾適正利用推進検討業務報告書: 78p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	466	107	50	31	248	○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所, 2013. 平成24年度石西礁湖サンゴ群集モニタリング調査等業務報告書: 1-148	0	0	0	0	0	0	0	0	0	437	6	10	0	207	○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所, 2014. 平成25年度 石垣島におけるシロアゴガエル対策手法検討業務報告書: 99p	0	0	68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○	
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所, 2016. 平成27年度石西礁湖サンゴ群集モニタリング調査等業務報告書: 1-73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	14	0	231	○ ○
環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所, 2017. 平成28年度 石垣島におけるカンムリワシ生息状況等調査業務報告書: 75p	0	88	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○	
環境省九州地方環境事務所, 那覇自然環境事務所, 2014. 平成25年度 国指定大東諸島鳥獣保護区における保全事業検討調査業務報告書: 119p	0	0	0	0	0	430	0	0	0	0	0	544	0	0	93	○ ○
環境省九州地方環境事務所, 那覇自然環境事務所, 2009. 平成20年度石西礁湖サンゴ礁保全総合調査業務報告書: 390p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	182	0	32	0	207	○ ○	

表 4-5-1 (7). 生物分布情報に関する収集文献リスト

表4-5-1(8). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類別データ数													地域		
	哺 乳 類	鳥 類	両 生 類	爬 虫 類	淡 水 魚	植 物	チ ヨ ウ 類	ト ン ボ 類	淡 水 陸 生 貝 類	淡 水 甲 殻 類	海 水 魚	海 水 貝 類	海 水 草 類	海 水 甲 殻 類	サン ゴ	
吉郷英範, 吉野哲夫. 1999. 西表島で採集された日本初記録のオクロトメイ(新称) <i>Himantura fai</i> , 魚類学雑誌, 46(1): 39-43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	○ ○
吉郷英範, 市川真幸, 吉野哲夫. 2004. 沖縄島で採集された日本初記録のハゼ科魚類ヨミノハゼ(新称). I. O. P., DIVING NEWS. 15(11)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○
吉郷英範, 市川真幸, 中村慎吾. 2005. 比和町立自然科學博物館魚類収蔵標本目録(IV). 比和町立自然科學博物館標本資料報告, (5): 1-51	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0	567	0	0	0	0	○ ○
吉郷英範, 中村慎吾. 2008. 庄原市立比和自然科學博物館魚類収蔵標本総目録. 庄原市立比和自然科學博物館標本資料報告, 8: 1-112	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	532	0	0	0	0	○ ○
吉郷英範, 中村慎吾. 2002. 比和町立自然科學博物館魚類収蔵標本目録II. 比和町立自然科學博物館標本資料報告, (3): 85-136	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	351	0	0	0	0	○ ○
吉郷英範, 中村慎吾. 2003. 比和町立自然科學博物館魚類収蔵標本目録III. 比和町立自然科學博物館標本資料報告, (4): 31-75	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0	468	0	0	0	0	○ ○
吉郷英範, 田村常雄. 沖縄島都市部におけるタガモドキの記録. 比較科学, 206: 46-47	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
吉郷英範, 内藤順一, 中村慎吾. 2001. 比和町立自然科學博物館魚類収蔵標本目録. 比和町立自然科學博物館標本資料報告, (2): 119-168	0	0	0	0	60	0	0	0	0	0	445	0	0	0	0	○ ○
吉郷英範, 上井朋子, 吉野哲夫. 2008. 日本記録のカワハギ科魚類コクテンハギ <i>Pseudomonacanthus macrurus</i> , 魚類学雑誌, 56(1): 59-62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	○
吉郷英範, 太田裕, 吉野哲夫. 2006. 日本初記録のネズッコ科魚類クシビゲヌメリ(新称) <i>Eleutherochir maccaddeni</i> . 魚類学雑誌, 52(2): 189-193	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	○
吉郷英範. 2001. フィシモジ, 微徵の追記. 比較科学, 201: 41-42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○
吉郷英範. 2004. 南西東島で確認されたタグブームと浅い潮下帶の魚類. 比較科学博物館研究報告, 43: 1-51	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	456	0	0	0	0	○ ○
吉郷英範. 2007. 日本の陸水域で出現するサメとエイ. 比較科学, 223: 21-35	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	○ ○
吉郷英範, 与那国島(琉球列島)の陸生魚類. 165-179	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	67	0	0	0	0	○ ○
吉郷英範. 2007. 琉球列島久米島の陸生魚類. 比較科学博物館研究報告, 48: 25-51	0	0	0	0	47	0	0	0	0	0	98	0	0	0	0	○ ○
吉行 琢子. 1990. 日本の哺乳動物カラクシカラウモリ類(2). 日本の生物, 4(8): 74-78	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
吉行 琢子. 1990. 日本の哺乳動物カラクシカラウモリ類(2). 日本の生物, 4(10): 74-77	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
吉村光, 北村嘉知, 花島昌記, 横田昌嗣, 朝田哲郎. 2016. 琉球列島固有種アカボシタツナミソウ(シソ科)の渓流環境への適応と地形変異. 沖縄生物学会誌, (54): 1-15	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
吉田弘明, 木村 浩之. 2015. 徳之島および沖縄島から得られたハタ科魚類ジャノメヌマサラ <i>Grammistops ocellatus</i> Schultz, 1953. Nature of Kagoshima, 41: 53-55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○ ○
吉田直史, 玉城不二美. 渡辺輝. 2007. 沖縄県校級・嘉手納海域における魚類中の重金属及び有機塩素系化合物含有量について. 沖縄県衛生環境研究会報, 41: 199-207	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	238	0	0	0	0	○ ○
吉野哲夫, 昆 健志. 1998. 日本初記録のキヌネアマダイ科魚類アカオビサンコアマダイ <i>Hoplistilus marcosi</i> . 魚類学雑誌, 45: 111-114	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○ ○
吉野元, Kyle N Armstrong, 田村常雄. 2009. 沖縄県の久米島・渡嘉敷島・伊平屋島における洞窟橋小型コウモリ類. 東洋蝙蝠研究所紀要, (8): 28-32	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
吉野元, 田村常雄. 2009. 沖縄島南部の出産・育成洞周辺におけるオキナワコキクランコウモリの選択的な環境利用. 東洋蝙蝠研究所紀要, (8): 33-36	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
吉野智彦, 小高信弘, 斎藤恭子, 寿澤空見子, 植野道章, 渋川清彦. 2014. 沖縄島内で採集された鳥類から得られた寄生蝶虫類の記録. 沖縄生物学会誌, (52): 1-9	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
久貝勝盛, 岡徹. 1982. STERNA Linnaeus, ANOUS stephensi of the MIYAKO ISLANDS(宮古群島のアサシン類). Nature of Kagoshima, 41: 15-18	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
久貝勝盛, 仲地邦博, 金子進, 砂川友宏, 砂川栄喜, 山本亮. 2010. 宮古島の鳥類相. 宮古島市総合博物館紀要, (14): 91-114	0	222	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
久貝勝盛, 仲地邦博, 砂川友宏, 金子進. 2011. 日本における秋のアカハラカタワリの現状・宮古島を中心にして. 宮古島市総合博物館紀要, (15): 1-19	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
久貝勝盛, 高原建一, 澄瀬波住. 1995. 久米島におけるフンタカ類とハヤブサ類. 沖縄県立博物館紀要, 21: 159-168	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
久貝勝盛. 1997. 伊良部の島. 平良市総合博物館紀要, (4): 35-56	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
久貝勝盛. 1998. 下地町と那覇湾一帯の鳥類相. 平良市総合博物館紀要, (3): 85-103	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
久貝勝盛. 1998. 多良間島・水納島の鳥類. 平良市総合博物館紀要, (5): 39-68	0	29	0	0	0	0	184	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
久貝勝盛. 1995. 池田島の鳥. 平良市総合博物館紀要, (2): 79-86	0	153	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
久貝勝盛. 2001. 末間島の鳥. 平良市総合博物館紀要, (7): 125-156	0	160	0	0	0	0	232	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
久場安次. 1987. 沖縄本島における淡水紅藻について. 沖縄生物教育研究会誌, (20): 2-7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
久場安次. 1987. 植生. 宜野湾市社会教育委員会社会教育課(編). 宜野湾市文化財調査報告書第9集: 56	0	0	0	0	0	0	526	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
久場安次. 1974. 石垣島海藻相の調査. 沖縄生物教育研究会誌, (7): 2-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
久場安次. 1984. 大山・宇治海岸沿岸における海藻. 沖縄生物教育研究会誌, (17): 3-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
久米島ホタルの会. 2010. 平成21年度キナリザサヘビ生息環境等調査業務報告書: 95p	0	0	24	16	22	0	0	5	3	6	0	0	0	0	0	○ ○
久米島ホタルの会. 2011. 平成22年度キナリザサヘビ生息環境等調査業務報告書: 71p	0	0	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
久保弘文. 2002. 宜野湾市の貝類. 宜野湾市史第9卷資料8自然: 659-742	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	78	0	0	418	0	○ ○
久保弘文. 2014. 第3章 恩納村の動物. 恩納村の貝類. 恩納村誌 第1巻 自然編. (1): 245-340	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	570	0	0	1,771	0	○ ○
久保弘文. 1991. 第一章 海産動植物 第五節中城海域の貝類. 中城村史第二巻 資料編1地理・自然・政治行政・産業経済・移民. (2): 186-196	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	○ ○
久保田康裕. 未公開データ	0	0	0	0	0	1,960	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
久保田信子, 大城直雅, 烟越兼治. 2003. 沖縄島のノコギリガキ(二枚貝綱、カキ目、イタボガキ科)とカイヤドリヒカラグラフ(ヒトコロ虫綱、軟ククゲ目、マツバククゲ科)の共生の初期記録. 沖縄生物学会誌, (41): 51-54	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○ ○
久保田信子, 小林垂倫, 久保田信子, 大城直雅, 烟越兼治. 2005. 沖縄島およびその周囲の離島におけるカイヤドリヒカラグラフ(ヒトコロ虫綱、軟ククゲ目)の地理的分布. 沖縄生物学会誌, (43): 65-70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	0	0	0	0	○ ○
久保田信子, 水野信彦. 1998. 渡嘉敷川河口で見られたオオノガキ(ワナギ目、ツバキ科)の死亡個体. 南紀生物学, 40(2): 199-200	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
宮原一, 吉野哲夫, 仲谷一宏. 2005. 西表島での分布が確認された日本初記録のテンシクタイ科魚類フタシシアカビレイシモチ ( <i>Apogon rhodopterus</i> ). 魚類学雑誌, 52: 147-151	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	○ ○
宮原一, 齐藤武とセイ・伊佐夜子・古吉子・渡慶次教子. 1968. 沖縄南部の植生. 琉球大学生クラブ誌, 10: 48-58	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○ ○
宮城康一・新城和治・島袋謙・日越国昭・宮城朝章・真島喜丈子・新島義龍・天賀敏男・新納義馬. 1988. と那覇岳天然保護区域の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第30集. 国頭郡天然記念物緊急調査会議III: 59-84	0	0	0	0	0	1,953	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
宮城康一・島袋敬一・横田昌嗣. 1986. イオリオモテヤマネコの糞調査地高慶・古見地点の植生変化1. 沖縄島嶼研究. 4: 9-26	0	0	0	0	0	1,555	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
宮城康一・島袋謙. 1981. 名護市の主な御厨の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第21集. 沖縄県社寺・御厨林調査報告IV: 11-26	0	0	0	0	0	1,303	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
宮城康一・島袋謙. 1981. 沖縄県社寺・御厨林調査報告IV: 伊江村の主な御厨の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第21集. 沖縄県天然記念物緊急調査報告書II: 1-20	0	0	0	0	0	431	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
宮城康一・島袋謙. 2011. 2010年沖縄県で見られた迷蝶. 琉球の昆虫. (35): 1-4	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
宮城秋乃. 青柳克. 2011. 2010年沖縄県で見られた迷蝶. 琉球の昆虫. (32): 129	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
宮城朝章. 1979. 沖縄県社寺・御厨林調査報告II: 那覇市内の主な社寺・御厨の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第18集: 145-168	0	0	0	0	0	1,287	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○
宮城朝章・真志喜丈子・新島義龍・島袋謙・新城和治・日越国昭・宮城朝章. 1988. 大宜御厨のビロウ林. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第30集. 国頭郡天然記念物緊急調査III: 96-116	0	0	0	0	0	110	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○ ○

表4-5-1(9). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数											地域	
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	海水甲殻類	海水魚	海藻類	
宮城邦治, 当山昌直. 1988. 沖縄島北部と那覇市及びその周辺地域の哺乳類・爬虫類・両生類調査結果(中間報告). 特殊鳥類等生息環境調査中間報告書: 91-105	5	0	18	5	0	0	0	0	0	0	0	0	○
宮島仁, 高原建二, 田仲謙介. 2015. 沖縄県におけるプロントスキ <i>Plegadis falcinellus</i> の観察記録. 日本鳥学会誌. 64: 267-270	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
宮島仁, 山川正邦, 田仲謙介. 2012. 沖縄県国頭郡金武町におけるヨーロッパムナゴ <i>Pluvialis apricaria</i> の日本初記録. 日本国鳥学会誌. 61: 310-313	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
宮脇昭. 1989. 沖縄・小笠原・日本総生息. 10: 580p	0	0	0	0	0	15,493	0	0	0	0	0	0	○ ○
宮脇昭, 中村幸人・村上雄秀・琢越優美子・鈴木邦雄・鈴木伸一・仲田栄二. 1983. 西表島沿岸部の植生学的研究. 横浜国立大学環境科学研究所センター紀要. 9(1): 91-137	0	0	0	0	0	1,086	0	0	0	0	0	0	○
宮脇昭・鈴木利隆・鈴木伸一・中村幸人・村上雄秀・琢越優美子・仲田栄二. 1983. 日本におけるマングローブの植生学的研究 1. 西表島のマンガリーフ帯. 横浜国立大学環境科学研究所センター紀要. 9(1): 77-89	0	0	0	0	0	356	0	0	0	0	0	0	○
橋本岳真, 西島信吾. 1987. マドモチワニナ <i>Terebralia sulcata</i> (Born) の後期発生と成長. 沖縄生物学会誌. (25): 53-56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	○
玉城俊一. 1972. 八重山の鳥類調査報告(1). 沖縄鳥類教育研究会誌. (1): 13-17	0	169	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
玉城常雄. 1978. (続)石垣島の秋期における鳥類と渡りの動向. 沖縄生物教育研究会誌. (11): 49-58	0	189	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
玉城常雄. 1982. 石垣市街地と/orノ岳の鳥相およびその生態. 沖縄生物教育研究会誌. (15): 25-31	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
玉城常雄. 1977. 石垣島の秋期における鳥類と渡りの動向. 沖縄生物教育研究会誌. (10): 23-37	0	145	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
玉城常雄. 1979. 与那国島の鳥類(1). 沖縄生物教育研究会誌. (12): 15-23	0	191	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
金城 潤昭. 本永 文彦, 木村 基文. 1999. 沖縄島におけるシロガフライゴの観察. 日本文学会誌. 65: 19-25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36	0	0	○
金城 潤昭. 1998. 沖縄島の海岸帯に着底するシロガフライゴ <i>Cheroerdon schoenleinii</i> 仔稚魚の形態および成長にともなう分布と食性的変化. 日本文学会誌. 64: 427-434	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
金城幸一, 佐藤栄三郎, 大城洋平. 2006. 沖縄県のサンゴ礁海域における栄養塩環境について. 沖縄県衛生環境研究所報. (40): 107-113	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
金城幸一. 1993. 沖縄本島南部に侵入したシロガシラ <i>Pycnonotus sinensis</i> の分布域の拡大と生態的特性. 九州病害虫研究会報. 39: 119-123	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
金城潤昭, 亀江洋博, 七条祐哉. 立津茂, 宮平和法, 仲本光男. 1995. 宮古島ミナミクロダイ放流調査. 平成5年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	0	0	0
金城潤昭, 七条祐哉. 1995. 宮古島の碎波帯におけるミナミクロダイ稚魚の分布. 平成5年度沖縄県水産試験場事業報告書. 183-187	0	0	0	0	1	0	0	0	0	40	0	0	0
金城潤昭, 中村博幸, 仲本光男. 1998. 名瀬湾保護水面管理事業. 平成8年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	0	0	0
金城潤昭, 仲本光男. 渡辺利明. 1997. 名瀬保護水面管理事業. 平成9年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	114	0	0	0
金城潤昭, 仲本光男. 1999. 名瀬保護水面管理事業. 平成9年度沖縄県水産試験場事業報告書. 218-224	0	0	0	0	0	0	0	0	0	161	0	0	0
金城潤昭, 仲本光男. 1996. 名瀬湾保護水面管理事業. 平成6年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0
金城道昭, 仲本光男. 1994. 温暖の鳥類. 特殊鳥類等生息環境調査VI-沖縄本島湿地編-	0	647	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
金城優子, 金城嵐太. 2009. テナハモ子の幼虫を見つけた. 琉球の昆虫. (33): 55	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	○
金城和三、前田喜四郎. 1999. 沖縄島で採集されたヤマコウモリ <i>Nyctalus aviator</i> の記録. 沖縄生物学会誌. (37): 61-64	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
胸井智幸. 2004. クシモトサンゴヤドカリはクリヨサンゴヤドカリの幼若個体. 沖縄生物学会誌. (42): 25-38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
貝具川伸. 2002. 中部北環境設置組合ごみ処理施設建設事業に係る環境影響評価書: 5章	6	49	7	10	7	545	54	39	14	16	0	15	18
栗栖和信. 2016. 沖縄本島におけるマルバネルリマダラ(フィリピン垂鱗) <i>Euploea euniceakudu</i> の記録. 琉球の昆虫. (40): 103	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	○
栗田和伸, 角田羊平. 2010. 沖縄島におけるオキナワリタケの分布状況. Akamata. 21: 39-43	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	○
桑原崇, 皆我那離子, 木下裕太, 烏居憲重, 鈴木賀與, 前羽尚親. 2011. 沖縄県八重山諸島で記録された両生類・爬虫類. 近畿大学農学部紀要. (44): 163-169	0	0	17	28	0	0	0	0	0	0	0	0	○
原佳弘. 2014. 久米島町奥武島で未記録種を採集. 琉球の昆虫. (38): 59	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	○
原戸鉄二郎. 2014. 第3回 応納村の動物. 応納村の鳥類. 応納村誌 第1巻 自然編. 1: 491-507	0	184	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
原戸鉄二郎. 1986. リュウキュウツバメ <i>Hirundo tahitica namiyei</i> のモビング行動(予報). 沖縄生物学会誌. (24): 35-38	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
原田英司. 1972. 南西諸島で観察されたテッポウ電ビ類とハゼ類の同居関係について. 沖縄生物学会誌. 9(11): 1-8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
原本正. 1986. キカクシラコモリによる出産育児の勤勉性. 台湾古生物博物報告. (21): 37-50	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
戸田守, 角田羊平. 前之園史, 岩永節子. 2006. 渡嘉敷村前島の両生爬虫類相. 沖縄生物学会誌. (44): 53-63	0	0	7	33	0	0	0	0	0	0	0	0	○
戸田守, 山本麗子, 角田羊平. 2003. 伊是名村の眞志川島および慶那島の両生爬虫類相. 沖縄生物学会誌. (41): 33-41	0	0	1	22	0	0	0	0	0	0	0	0	○
戸田守, 小島光明, 前田真希, 正井佐知, 坂田やす. 2015. 沖縄島北部におけるオキナワリタケの交尾の観察例. Akamata. 25: 17-20	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○
戸田守, 庄司直樹. 2015. 伊江島から2番目となるオキナワリタケの標本について. Akamata. 25: 31-34	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○
戸田守. 2008. オキナワリタケとミナミヤマリの識別点について(予報). Akamata. 19: 23-30	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	○
後藤健志, 田村常雄, 佐々木健志. 2014. 第3章 応納村の動物. 応納村の陸棲哺乳類. 応納村誌 第1巻 自然編. (1): 519-537	29	41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
向井貴洋, 杉本真奈美. 2006. 日本産トビハゼのミトコンドリアDNA多型に基づく遺伝的集団構造の解析. 魚類学雑誌. 53(2): 151-158	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	○
向井貴洋, 西田睦. 2004. 日本産ミズハゼにおけるミトコンドリアDNAの系統と地理的分化. 魚類学雑誌. 51(2): 157-161	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	○
向山満. 1990. 森林接合モリを探して. 採集と飼育. 52(11): 476-481	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
幸地良仁. 大城勝. 1987. 大マダラの羽色相とアラッククの食害による影響. 沖縄生物教育研究会誌. (20): 8-23	0	0	0	0	56	0	0	0	0	6	0	0	○
幸地良仁. 2000. 沖縄県内における淡水魚類とその生息環境の現状. 特殊鳥類等生息環境調査XI(改訂版) 濕地(水辺環境)総括編 -沖縄県内の水辺環境に生息する生物種の概要-: 79-101	0	0	0	0	43	0	0	0	0	0	0	0	○
幸地良仁. 1991. 99% 沖縄島における陸水産移入動物の現状と問題点. 南西諸島自然保護特別事業調査報告書. 4: 55-65	0	0	0	0	209	0	0	0	0	14	0	0	○
幸地良仁. 1995. 沖縄島の河川の環境の現状と問題点. 沖縄生物学会誌. (33): 66-77	0	0	0	0	22	0	0	0	0	11	0	0	○
幸地良仁. 1998. 大城ダムの魚類相とアラッククの食害による影響. 沖縄生物教育研究会誌. (21): 45-57	0	0	0	0	18	0	0	0	0	14	0	0	○
幸地良仁. 1965. 西表島から採集した異色体形のコカリボアについて. 沖縄生物学会誌. (24): 50-51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	○
荒尾一樹. 2007. 南大東島の水辺の魚類. 神奈川県自然保護全般報告. 17: 25-27	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	○
荒尾一樹. 2004. 西表島昌久小浜島で採集された陸水域の魚類. 南紀生物誌. 46(2): 173-176	0	0	0	0	9	0	0	0	0	8	0	0	○
斎藤昂男, 西田昌彦. 1990. 沖縄島北部におけるハブの密度探査. 沖縄生物学会誌. (28): 43-54	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	○
高橋真弓. 1988. 1979年春 久米島の蝶. 琉球の昆虫. (12): 24-26	0	0	0	0	0	0	83	0	0	0	0	0	○
高橋祐次. 岩竹貴久. 2012. 沖縄島へのオカシゴンジの侵入とダンゴムシの分布. 沖縄生物学会誌. (50): 83-91	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高江賢文. 2009. 新規造成地に生えた雑草の生長と組成について. 沖縄県農業研究センター研究報告. 3: 21-27	0	0	0	0	85	0	0	0	0	0	0	0	○
高田未来美. 立原一恵. 2006. 沖縄島地川系水系におけるギンバ <i>Carassius auratus dordorii</i> の性比と倍数性. 沖縄生物学会誌. (44): 27-34	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	○
高木昌晶. 2000. 南大東島に生息するモズの羽色および形態の記載. 岛内の分布状況と繁殖生態. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 32: 12-23	0	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高良鉄夫. 東清二. 1968. 西表島の蝶相について. 沖縄生物学会誌. 5(7): 15-24	0	0	0	0	0	0	191	0	0	0	0	0	○
高良鉄夫. 1979. 沖縄における未記録種および稀有種. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 11: 132-135	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高良鉄夫. 1969. 尖閣列島の海鳥について. 球磨大学農学部学術報告. 16: 1-12	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高良鉄夫. 1969. 八重山群島(琉球海)ヘビに関する若干の知見. 民衆南島種類誌編. 3(2, 3): 19-21	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高良鉄夫. 1954. 尖閣列島の動物相について. 球磨大学農学部学術報告. 57: 7-26	0	11	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○
国土交通省. 河川環境データベース(河川水辺の国勢調査). <a href="http://mizukoku.nillm.go.jp/ksnkyo/">http://mizukoku.nillm.go.jp/ksnkyo/</a>	411	# # #	3,807	583	1,026	0	710	1,464	919	737	179	250	0 310
国立科学博物館. 2013. 自然史標本情報検索	7	228	0	2	1,218	5,349	0	0	0	0	3,410	0	0 535
国立大学法人琉球大学. 2014. 平成25年度 国指定大東諸島鳥獣保護区における保全事業鳥獣の生息状況把握調査業務報告書: 137p	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	○
黒住貞二. 1981. 慶良間列島島間味村の陸産貝類相. 沖縄生物学会誌. (19): 47-51	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	2	0
黒住貞二. 1972. 琉球の春の鳥類調査(1972). 山鳥類研究報告. 6: 551-568	0	226	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
今井秀行. 2008. 石垣島で採集された日本初記録のドガツモキドギキ(二枚貝科: イシガイ科). 沖縄生物学会誌. (46): 65-70	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	○

表4-5-1(10). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数														地域		
	哺 乳 類	鳥 類	両 生 類	爬 虫 類	淡 水 魚	植 物	チ ヨ ウ 類	ト ン ボ 類	淡 水 陸 生 貝 類	淡 水 甲 殻 類	海 水 魚	海 水 貝 類	海 藻 草 類	海 水 甲 殻 類	サン ゴ	本 島	八 重 山
今泉吉典. 1970. 日本哺乳動物図説. 1: 197-280	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
昆健志, 吉野哲夫. 1999. イサリワオ科魚類ロケットイサリワオ(新称) <i>Antemarius analis</i> の日本からの記録および命名者の取り扱い. 魚類学雑誌. 46: 101-103	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○
昆健志, 桜井雄, 吉野哲夫. 1998. 冲縄島中城村浜漁港における台風13号による打ち上げ魚類. 冲縄生物学会誌. (36): 37-50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0	0	0	0	0	○
昆健志, 桜井雄・武井直行. 2003. 沖縄県名護市慈久地先で確認されたハゼ亜目魚類トカゲハゼ <i>Scartelaos histophorus</i> . 冲縄生物学会誌. (41): 25-32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○
佐々木ミチ, 立原一憲. 2001. 冲縄島残波におけるデバスメダイ <i>Chromis viridis</i> の繁殖生態. 冲縄生物学会誌. (39): 37-47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○
佐々木健志. 2004. 西原町の昆虫・クロモ類および琉球構内の哺乳類. 西原町史付属刊行物 西原町の自然・人と自然の関わり: 35-60	0	0	0	0	0	0	65	19	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐々木健志. 2007. 第2章 残された自然 冲縄市哺乳類. 冲縄市史 第4巻 自然・地理・考古編 自然編: 76-90	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐々木健志. 1995. 冲縄島から採集されたタイフンスジオ <i>Elapha taeniura taeniura</i> (有鱗目: ナミヘビ科) の幼蛇. 冲縄生物学会誌. (33): 65-67	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐藤一郎・仲田栄二・幸喜善福. 1975. 冲縄における緑化材料としての在来草種の適性に関する基礎的研究(I) 緑化材料として可能性のある在来草種の検討. 球球大学農学部学術報告. 22: 745-760	0	0	0	0	0	209	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐藤文保. 1995. 久米島の小動物. 久米島総合調査報告書: 26-64	0	0	0	0	55	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	○
佐藤寛之, 吉野哲夫, 太田英利. 1997. 冲縄県内の島嶼におけるスッポン ( <i>Pelodiscus sinensis</i> ) (爬虫綱、カメ目) の起源と分布の現状について. 冲縄生物学会誌. (35): 19-26	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐藤文保. 2009. カラシエンドコ <i>Celtis bioidii</i> Pamp. var. <i>insularis</i> Hatusima, nom. nud. の果実と花の宮古島での記録. 宮古島市総合博物館紀要. (13): 97-100	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐藤文保. 2007. 第3章 市中の自然 比屋川の水生昆虫と水生小動物. 冲縄市史 第4巻 自然・地理・考古編 自然編: 309-324	0	0	4	0	6	0	0	27	0	3	0	0	0	0	0	0	○
佐藤文保. 1988. アサギマダラ <i>Parantica sita</i> Kollar. の幼虫の冲縄島北部での記録. 球球の昆虫. (12): 60-62	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐藤文保. 1968. オキナワサラサヤマ <i>Oligoasphaera kuniyamensis</i> (Ishida) の若虫(ヤコ)発見場所について. 球球の昆虫. (12): 96-99	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐藤文保. 1988. カラヌシムナ <i>Chlorogomphus brunneus brunneus</i> Oguma の産卵場所と産卵行動の観察の一例. 球球の昆虫. (12): 58-59	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐藤文保. 1988. 伊是名島の昆虫の記録. 球球の昆虫. (12): 27-28	0	0	0	0	0	0	13	7	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐藤文保. 1988. 冲縄市立慶山ダムの昆虫(1). 球球の昆虫. (12): 91-93	0	0	0	0	0	0	0	18	14	0	0	0	0	0	0	0	○
佐藤文保. 1988. 冲縄市立博士博物館で展示・保存された昆虫の採集目録. 球球の昆虫. (13): 102-115	0	0	0	0	0	0	0	97	51	0	0	0	0	0	0	0	○
佐藤文保. 1988. 冲縄島のトンボの記録(2). 球球の昆虫. (12): 74-79	0	0	0	0	0	0	0	121	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐藤文保. 1988. 冲縄島のトンボの記録(2). 球球の昆虫. (13): 1-100	0	0	0	0	0	0	0	851	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐藤文保. 2000. 冲縄島の河川環境下水生昆虫 特殊鳥類等生息環境調査XII(改訂版) 濡地(水辺環境)総括編 -冲縄県内の水辺環境に生息する生物種の概要-: 131-208	0	37	41	9	87	0	0	267	63	84	0	15	0	14	0	○	
佐藤文保. 1988. 冲縄島の蝶の採集目録. 球球の昆虫. (12): 80-85	0	0	0	0	0	0	133	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐藤文保. 2002. 宜野湾市の昆虫・爬虫類. 宜野湾市史第9巻資料編自然: 441-452	0	0	0	0	0	0	0	473	274	0	0	0	0	0	0	0	○
佐藤文保. 2002. 宜野湾市(西原)の昆虫・爬虫類. 宜野湾市史第9巻資料編自然: 393-440	0	0	158	205	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐藤文保. 2014. 久米島で再捕獲. 宮崎県蔵王町から183km移動したアサギマダラの記録. 球球の昆虫. (38): 49	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐藤文保. 1995. 久米島の小動物. 久米島総合調査報告書 自然・歴史・民俗・考古・美術工芸・建築 1994年: 26-64	0	189	38	39	0	0	220	167	54	82	0	12	0	11	0	○	
佐藤文保. 2012. 久米島ホタル館周辺のチヨウ類. 久米島博物館紀要. (12): 1-18	0	0	0	0	0	0	133	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐藤文保. 1988. 具志川島の水生昆虫の記録. 球球の昆虫. (12): 1-23	0	0	0	0	0	0	39	23	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐藤文保. 2007. 第2章 残された自然 沖縄市全域の昆虫の記録. 冲縄市史 第4巻 自然・地理・考古編 自然編: 195-244	0	0	0	0	0	0	249	139	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐伯留史, 西垣季治. 前之園准他. 2010. 西表島と石垣島より採集されたハマベンケイガニ(二甲殻門: 十脚目: 短尾下目: ベンケイガニ科)の記録. 冲縄生物学会誌. (48): 35-43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	○
佐敷町史編集委員会. 1989. 三佐敷町の陸棲動物 蝶の日周活動. 佐敷町史 三 自然: 375-381	0	0	0	0	0	0	0	75	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐敷町史編集委員会. 1989. 三佐敷町の陸棲動物 林内落葉上の陸棲貝類の死骸. 佐敷町史 三 自然: 335-345	0	0	0	0	0	0	0	0	48	0	0	0	0	0	0	0	○
佐敷町史編集委員会. 1989. IV佐敷町の水陸動植物 佐敷町森林(生物)(甲殻類・魚類). 佐敷町史 三 自然: 556-567	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	75	0	29	0	0	○
佐敷町史編集委員会. 1989. IV佐敷町の水陸動植物 佐敷町沿岸魚類. 佐敷町史 三 自然: 457-493	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
佐敷町史編集委員会. 1989. IV佐敷町の水陸動植物 佐敷町森林(生物)(甲殻類・魚類). 佐敷町史 三 自然: 495-500	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	22	0	0	0	11	0	○
佐敷町史編集委員会. 1989. IV佐敷町の水陸動植物 佐敷町内汽水域内汽水域(甲殻類・魚類). 佐敷町史 三 自然: 501-506	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	2	22	0	0	12	0	○
佐野千彦, 望月賀二. 1984. 日本ホキ類の学名検討. 魚類学雑誌. 31(2): 136-149	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	○
砂川博秋, 鶴川正道. 2008. 宮古島におけるクロマダラテツジシミの斑紋異型について. 宮古島市総合博物館紀要. (12): 81-85	0	0	0	0	0	0	0	61	0	0	0	0	0	0	0	0	○
砂川博秋. 2008. クロマダラテツジシミの斑紋異型について. 宮古島市総合博物館紀要. (12): 86-87	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
砂川博秋. 2007. 宮古島と来間島のチヨウ-1999年～2006年の調査-. 宮古島市総合博物館紀要. (11): 79-88	0	0	0	0	0	0	204	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
斎藤俊郎, 岸本浩和. 2003. 西表島産ツムギハゼの成長にともなう毒性と食性の変化. 東海大学紀要海洋学部. 56: 27-37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	○
斎藤敏郎, 今給黎盛行, 岸本浩和. 2002. ツムギハゼ愛精卵および親魚の毒性和海・人・自然(東海大博研報). 4: 79-85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	○
鈴井貴洋. 2002. ヤエヤマホガリエルの9月初旬の観察例. 蝶虫両面類会報. 1: 5-6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
鈴谷誠一. 2014. トカラガゼ. 冲縄島中城湾における泥質干潟生態系の全貌. 角鶴学雑誌. 61: 109-114	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	○
鈴谷誠一, 鹿谷法一. 1993. オシマネキ <i>Uca arcuata</i> の沖縄島からの記録. 冲縄生物学会誌. (31): 41-45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	○
財团法人 日本野鳥の会. 2001. 野鳥調査の方法と記録の仕方. 野鳥調査手帳. 93p	0	191	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
財团法人沖縄県環境科学センター. 2000. 平成11年度西表島立公園施設地区維持管理状況等調査業務報告書: 102p	0	0	0	46	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
財团法人海中公園センター. 1999. 平成10年度生態系多様性地域調査-西表島立公園海中公園地区)報告書: 97p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	191	12	79	0	196	○	
財团法人自然環境研究センター. 2009. 平成22年度度シガキニイニ生息確認調査業務報告書: 58p	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
財团法人日本野鳥の会. 1993. 平成4年版 環境干託調査特殊鳥類調査: 60p	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
坂口清志, 波多智成. 2006. 沖縄の漁港におけるフジソウの付着成長. <i>Sessile Organisms</i> . 23(1): 17-23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○
井井邦秀, 木崎清志. 2011. 沖縄島と鹿児島県で採集された日本初記録のトカゴウイライ科魚類ミナミギンゾウワニ(新称) <i>Hypoatherina temminckii</i> . 魚類学雑誌. 58(1): 87-91	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	○
三井耕治, 池田貞雄. 1983. オキナワトゲヌズミ <i>Tokudaija osimensis muenninki</i> (Johnson) の日周活動. 冲縄生物学会誌. (21): 7-12	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
三井耕治, 池田貞雄. 1979. 与那覇島とその周辺におけるネズミ類・食虫類の分布. 冲縄生物学会誌. (17): 7-13	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
三井耕治, 山田裕治, 野村浩貴, 清津光雄. 2013. トカラ海・鹿児島海・宮崎海. 清野謙. 2013. 火力・原子力発電所の環境影響評価に係る海域生態系予測予測手法の提案. 海生研研報. (17): 1-56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	○
三毛武志. 2014. アオタマホドキの食草バイメタツリラ. 球球の昆虫. (38): 57	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
三島冬嗣. 1968. 改訂4版日本鳥類目録以後の知見. <i>Journal of the Yamashina Institute for Ornithology</i> . 5: 397-410	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
山岸豊. 2010. サンゴのミニタリング記録: 第4回コドート調査. ニライ地区のサンゴを見守る会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○
山崎敬. 1993. 沖縄島のナス属の1新種オキナワヒナナビトリショウワニ. 植物																	

表4-5-1(11). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類別データ数													地域		
	哺 乳 類	鳥 類	両 生 類	爬 虫 類	淡 水 魚	植 物	チ ヨ ウ 類	ト ン ボ 類	次 水 陸 生 物	淡 水 陸 生 貝 類	淡 水 甲 殻 類	海 水 貝 類	海 水 甲 殻 類	サン ゴ	本 島	八 重 山
山崎仁也, 横田昌嗣, 知念美香, 仲宗根忠樹, 比嘉清文, 加島幹男., 2016. 鶴間島・新城(上地・下地)島・黒島の植物相(FlORA)., 鶴間島・新城島・黒島総合調査報告書, 沖縄県立博物館・美術館, 別刷; ; 13-67	0	0	0	0	0	1,246	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
山崎仁也, 松村雅史, 吉田和久, 力身恭二, 目黒賀見., 2016., 鶴間島・新城(上地)島・黒島の動物相(FAUNA)~昆虫相を中心とした~., 鶴間島・新城島・黒島総合調査報告書, 沖縄県立博物館・美術館, 別刷; ; 69-79	6	0	0	8	0	0	34	1	0	1	0	0	0	8	0	○
姉崎信. 2015. 大東諸島北大東島で 2013 年 7 月に確認した鳥類. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology, 46: 127-146	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
指田奈奈子. 未公開データ	0	0	0	0	0	131	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
糸満市土地開発公社. 1995.糸満市南浜地先公有水面理立事業に係る環境影響評価書. (5号): 1-168	5	313	9	16	1	270	3	4	0	0	44	2	173	18	64	○
寺田考紀, 西村昌彦, 香村昂男. 2011. 沖縄県産アカマタの繁殖に関する資源. 沖縄県衛生環境研究報. 45: 95~102	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
寺田考紀. 2011. 沖縄島に生息するタイフハラブ・サキシマハブ・タイワンシヌジの生態状況と対策. 爬虫両棲類学会誌. 2: 161-168	0	0	0	57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
寺田仁志, 川西基博, 杉村康司. 2016. 沖縄県伊是名島の大島化・大規模化した「ウコンインシマツ」群落を含む隆起サンゴ礁上生息について. 鹿児島県立博物館研究報告. (35): 91-104	0	0	0	0	0	175	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
寺田仁志, 大屋哲. 2016. 沖縄島久高島の隆起珊瑚礁上生息について. 鹿児島県立博物館研究報告. (31): 5-30	0	0	0	0	0	563	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
持田浩治. 2015. 慶良間諸島島外地島におけるオカラハビの初分布記録. Akamata, 25: 35	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
鹿谷麻太. 2000. 沖縄島東海岸の砂浜潮間帯におけるナミコガノイ Donax cuneatus の加入と繁殖パターン. 沖縄生 物学会誌. (38): 33-40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	○
鹿野雄一. 中島淳, 水谷宏, 仲里裕伸, 仲里長浩, 措善綱, 黄亮亮, 西田伸, 橋口康之. 2012. 西表島におけるドジョウの危機的生態状況と適応的特異性. 魚類学雑誌. 59(1): 37-43	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
綾原士郎. 1973. 埼玉諸島におけるクロコビワリマキマイ Satsuma (coniglobus) yaeyamaensis (Pilsbry) の特異な分布について. 沖縄生物学会誌. 10(12): 61-62	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	○
酒井治己, 佐藤光昭. 1982. 琉球列島の河川から得られた日本初記録の魚類5種と2番めの記録のハゼ科魚類3種. 北 海道大学水産學部研究彙報. 33: 79-88	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	○
酒井治己, 中村守洋. 1979. 石垣島の溪流から得られたボウズハゼ科の新種. 魚類学雑誌. 26(1): 43-54	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
酒井理. 2015. 沖縄島周辺におけるオガサワラヤマリの新たな分布地と花外蜜巣からの採蜜行動. Akamata, 25: 5-8	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
秋田雄一, 海老沢明彦. 2013. フエキタイ科魚類の生態的特性の経年変化. 平成24年度沖縄県水産海洋研究センター事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	0	0	0	0	○
所崎聰, 所崎香織. 砂川栄喜. 2002. 沖縄県におけるバライロムクドリ Sturnus roseus の初記録. 日本鳥学会誌. 51: 122-124	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
諸喜田茂充. 藤田喜久, 長井隆, 伊藤西, 川原剛, 野原斉., 2003. 石垣島名戸川マングローブ域と流入河川における甲殻類の生息分布と現存量. 平成14年度内閣府委託調査研究マンゴロープに関する調査研究報告書. 97-111	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	117	0	○
諸喜田茂充. 1971. オカガニの放卵習性について. 沖縄生物学会誌. 7(9): 27-32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	3	0	○
諸喜田茂充. 2002. 宜野湾市の中核種. 宜野湾市史第9巻資料編8自然: 629-658	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34	0	0	0	116	0	○
諸喜田茂充. 伊野波盛仁. 1971. 沖縄産アコの種生産に関する研究. 1. 昭和44年度琉球水産研究所事業報告書: 70-74	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
諸喜田茂充. 西島信昇. 1975. 沖縄アコの産卵生態-アコ保護の必要性-. 沖縄生物学会誌. (13): 12-17	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
諸喜田茂充. 1966. 三ナミティガビの生態及び幼生変態について. 沖縄生物学会誌. 3(5): 13-21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	○
諸喜田茂充. 藤田喜久・長井隆・川原剛. 2004. 西原町の甲殻類と魚類. 西原町史付属刊行物. 西原町の自然 ~動物・人と自然の関わり~: 61-78	0	0	0	0	75	0	0	0	0	26	28	0	0	30	0	○
勝山修二. 2006. 沖縄本島でトックリス Carex rhynchachaeum を見出す. 植物地理・分類研究. 54: 154-156	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
勝連盛輝. 寺田考紀. 鶴田恭久. 2006. 沖縄本島南部で捕獲された外来種サキシマハブの計測値. 沖縄県衛生環境研究所報. 40: 187-191	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
勝連盛輝. 西村豊修. 香村昂男. 1996. 沖縄諸島において本来の分布地とは異なる地域で採集されたヘビ. 沖縄生物学会誌. (34): 1-7	0	0	0	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
小笠原皓. 池原貞雄. 1977. ノグチグラの生態、行動学的観察及びその保護. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 9: 143-158	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
小原祐二. 2016. 野外におけるオキナワミナミサワガニによるシケンシヨリの摂食例. Akamata, 26: 1-2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
小高信彦. 佐藤大樹. 外村雅大. 桑木楓. 山下香苗. 菊尾博文. 2006. ノグチグラ Sapheciopis noguchi の營巢木内部における硬さ変異. 九州森林研究. 59: 194-196	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
小高信彦. 潘志正. 2004. ヤンバルクイナのコードキル. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 35: 143-144	0	113	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
小崎沙織. 2010. 酸性化海水がサンゴの石灰化および骨格の微量元素比に与える影響. 東京大学大学院新領域創成科研究科. 環境学系研究系自然環境学専攻. 地球海洋環境学分野. 2009 年度. 修士論文: 1-45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	○
小枝圭太. 藤井琢磨. 吉野哲夫. 2014. 沖縄島で採集された日本初記録のヒカリキンメタイ科オホカリキンメ Photolepharon palpebratum. 魚類学雑誌. 61: 27-31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○
小枝圭太. 吉野哲夫. 立原一惠. 2012. 沖縄島から採集されたツマクロハタタンボ Pempheris japonica の初記録およ び南限記載とその稚魚の成長過程. 日本生物地理学会誌. 67: 65-73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	○
小松恵. 1985. 沖縄島 石垣島 西表島のテングハゼの記録. 球螺の昆虫. (10): 73	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○
小針統. 杉本智鶴. 宮原明彦. 河合渓. 西村知. 2012. 奄美大島役勝川におけるリュウキュウアユ仔魚の群環境. 水産増殖. 60(1): 53-58	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
小菅丈治. 佐々木健志. 2002. アオグハシリゴモによるタイワンサワガニの捕食. 沖縄生物学会誌. (40): 51-52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	○
小菅丈治. 和田惠次. 1992. 沖縄島中城城から記録されたナガクスクオガニ(新称) Macrophthalmus quadratus (スナガニ科): 日本新記録. 沖縄生物学会誌. (30): 61-64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○
小菅丈治. 久保弘文. 西村聰昭. 2003. ユムシ類の巣孔に埋む二枚貝ナタマケボリガニの琉球列島における分布と生息. 沖縄生物学会誌. (41): 7-13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	○
小菅丈治. 2005. クラビライシ類に着生するイトカゲイ科の一種 Epitonium ulu Pilsbry の与那国島からの記録. ちりばん. 35(4): 119-120	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○
小菅丈治. 2000. タイワンベニケイゴによるタママイマイ捕食の一例. 沖縄生物学会誌. (38): 73-74	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	○
小菅丈治. 1992. 沖縄島羽内海に生息するチゴガニの成長と性別. 沖縄生物学会誌. (48): 101-106	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	○
小菅丈治. 2010. 脊椎動物におけるヤシマヤマガニの成長と性別. 沖縄生物学会誌. (37): 21-27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	○
小菅丈治. 2011. 西表島後奥川におけるヤシガニの分布. 沖縄生物学会誌. (49): 1-7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0
小菅丈治. 2014. 石垣島におけるカワラブノ(甲殻亜門: 十脚目: 短尾下目: カクレガニ科)のカワラガイ(軟体動物門: 二枚貝科: ザルガイ科)への寄生状況. 沖縄生物学会誌. (52): 59-64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6	0	○
小菅丈治. 2009. 石垣島におけるハサミカクレガニの生態 -特に複数の動物門に属する無脊椎動物の巣孔内に生息する習性-. 沖縄生物学会誌. (47): 3-9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○
小菅丈治. 2005. 石垣島におけるミナミナカオガニサカニに着生するオサガニヤドリガイの個体数と殻長組成の季節変 化. 沖縄生物学会誌. (43): 21-25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	○
小菅丈治. 2006. 石垣島宮良川河口に出現したキバウミニア. 沖縄生物学会誌. (44): 35-37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○
小菅丈治. 2002. 与那国島に移入された陸貝類. 沖縄生物学会誌. (40): 53-55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 原口大. 2012. 2004年沖縄島南部におけるタオオタコラウを再確認(2012年3月). 球螺の昆虫. (36): 60	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 原口大. 2015. 沖縄島南端永久手堅マダラタオオタコラウを再確認(2012年3月). 球螺の昆虫. (39): 213	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 砂川博秋. 2015. 10日間で個体数が激減した宮古島のジャコウアゲハ. 球螺の昆虫. (39): 214	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 長田勝. 2014. 沖縄島恩納村のチゴハチ. 球螺の昆虫. (38): 206-219	0	0	0	0	0	0	0	640	0	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 長田勝. 岩原二. 2016. 蒲原村長田山上流域で確認したトント. 球螺の昆虫. (40): 8-10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 長田勝. 岩原二. 2012. 蒲原村のコロハチワコの記録. 球螺の昆虫. (36): 62-65	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 長田勝. 2012. 長良間諸島阿嘉島と慶留間島のトンボ. 球螺の昆虫. (36): 32-34	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 比嘉実野. 2015. 沖縄諸島伊平屋島のトンボ. 球螺の昆虫. (39): 62-65	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 長田勝. 2014. 第3章 インナウの動物. インナウの昆蟲. インナウ村誌 第1巻 自然編: 341-426	0	0	0	0	0	0	0	0	230	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 2004. 沖縄島のトンボ類の記録. 球螺の昆虫. (24): 41	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	○</td

表4-5-1(3). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数														地域
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チヨウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻類	海水甲殻類	サンゴ
Tetsuro ISHIKAWA, Katsunori TACHIHARA. 2008. Age, growth and maturation of the redbelly tilapia <i>Tilapia zillii</i> introduced into the Haeburu Reservoir on Okinawa-jima Island. <i>Fisheries Science</i> , 74(3): 527-532	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Tetsuro Ishikawa, Katsunori Tachihara. 2010. Life history of the nonnative convict cichlid <i>Amatitlania nigrofasciata</i> in the Haeburu Reservoir on Okinawa-jima Island, Japan. <i>Environmental Biology of Fishes</i> , 88: 283-292	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Tetsuro Ishikawa, Tamaki Shimose, Katsunori Tachihara. 2013. Life history of an invasive and unexploited population of Nile tilapia ( <i>Oreochromis niloticus</i> ) and geographical variation across its native and non-native ranges. <i>Environmental Biology of Fishes</i> , 96: 603-616	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Uehara, M and K. Tachihara. 2015. Reproductive traits of the western, Pacific gizzard shad <i>Nematalosa come</i> : implications for conservation and management in a population at its distributional margin. <i>Environmental Biology of Fishes</i> , 98: 1-10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
Uehara, M, and K. Tachihara. 2012. Reproductive biology of Japanese gizzard shad ( <i>Nematalosa japonica</i> ) in coastal waters around Okinawa Island, Ryukyu Archipelago, southwestern Japan. <i>Ichthyological Research</i> , 59: 314-322	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
Uehara, M., F. Kashiwagi, H. Imai and K. Tachihara. 2011. Biological traits of naturally induced hybrid individuals of two gizzard shads, <i>Nematalosa come</i> and <i>N. japonica</i> , in coastal waters around Okinawa Island, Ryukyu Archipelago, southwestern Japan. <i>Ichthyological Research</i> , 58: 344-349	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
Worawit Maneepitaksanti, Kazuya Nagasawa. 2012. Monogeneans of <i>Cichlidogyrus</i> Paperina, 1960 (Dactylogyridae), gill parasites of tilapias, from Okinawa Prefecture, Japan. <i>Biogeography</i> , 14: 111-119	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Yuichi Kano, Shin Nishida, Jun Nakajima. 2012. Waterfalls drive parallel evolution in a freshwater goby. <i>Ecology and Evolution</i> , 2: 1805-1817	0	0	0	0	104	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
Yukio Iwatsuki, Masayuki Kume, Tetsuo Yoshino. 2010. A New Species, <i>Acanthopagrus pacificus</i> from the Western Pacific (Pisces, Sparidae). <i>Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology</i> , 36(4): 115-130	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0
Aleluia Taisei, 須田彰一郎. 2015. 沖縄島沿岸の底生珪藻の出現記録. <i>沖縄生物学会誌</i> , (53): 23-30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68	0	0	0
Atsushi Nanami, Moritaka Nishihira. 2002. The structures and dynamics of fish communities in an Okinawan coral reef: effects of coral-based habitat structures at sites with rocky and sandy sea bottoms. <i>Environmental biology of fishes</i> , 63: 353-372	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	191	0	0	0	0
Beringer, G. 1976. Additions to the List of Okinawa Birds. <i>Japanese Journal of Ornithology</i> , 25: 116-117	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Brazil, M. and P. Snetsinger. 1991. The Little Gull <i>Larus minutus</i> in Japan. <i>Journal of the Yamashina Institute for Ornithology</i> , 20: 80-82	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Brazil, M., H. Ikenaga. 1987. The Amami Woodcock <i>Scotopelia mira</i> : its identity and identification. <i>Forktail</i> , 3: 3-16	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Cogswell, H. 1948. Summer Observations of Birds of Okinawa, Ryukyu Islands. <i>Condor</i> , 50: 16-25	0	120	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ezaki, Y and Z. Miyara. 1995. Wintering of Oriental White Storks in Yonaguni Island, the Westernmost Japan. <i>Journal of the Yamashina Institute for Ornithology</i> , 27: 92-97	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Katsunori TACHIHARA, Kohei NAKAO, Keishi TOKUNAGA, Yuko TSUHAKO, Mikumi TAKADA, Tamaki SHIMOSE. 2003. Ichthyofauna in Mangrove Estuaries of the Okinawa, Miyako, Ishigaki and Iriomote Islands during August from 2000 to 2002. <i>Bulletin of the Society of Sea Water Science, Japan</i> , 57: 481-490	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0	0	0	0
Kohno H, Abe N, Mano T. 1986. Chick mortality of the Sooty Tern <i>Sterna fuscata</i> caused by Typhoon-8211 on Nakamokami-shima, South Ryukyu, Japan. <i>Journal of the Yamashina Institute for Ornithology</i> , 18: 41-50	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
McCosker John E, Hatooka Kiyotaka, Sasaki Kunio and Moyer Jack T. 1984. Japanese moray eels of the genus <i>Ophichthus</i> . <i>Japanese journal of ichthyology</i> , 31(3): 261-267	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
McWhirter, D. 1985. Records of Pectoral Sandpiper ( <i>Calidris melanotos</i> ) for Okinawa Prefecture. <i>Strix</i> , 4: 57-60	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
McWhirter, D. 1985. 沖縄における鳥類の繁殖観察. <i>Japanese Journal of Ornithology</i> , 33: 123-125	0	74	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Nakamura, Y., & Tsuchiya, M. 2008. Spatial and temporal patterns of seagrass habitat use by fishes at the Ryukyu Islands, Japan. <i>Estuarine, Coastal and Shelf Science</i> , 76(2): 345-356	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0
Nanjo, K., Kohno, H. & Sano, M. 2008. Food habits of fishes in the mangrove estuary of Urauchi River, Iriomote Island, southern Japan. <i>Fisheries Science</i> , 74: 1024-1033	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	65	0	0	0	0
Naomasa Kawashima, Jack T. Moyer. 1982. 琉球諸島から得られたオキスズメダイ <i>Pristotis jerdoni</i> とコハクズメダイ <i>Pomacentrus vaillant</i> . <i>魚類学雑誌</i> , 29: 260-266	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
NPO法人コラル沖縄. 2009. 中城港湾泡瀬地区第1区域内サンゴ移植報告について: 1-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
NPO法人ホタルとサンゴの島から. 2014. 平成25年度キクザツサヘビ生息環境等調査業務報告書: 63p	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	90	0	0	0	0
NPO法人ホタルとサンゴの島から. 2015. 平成26年度キクザツサヘビ生息環境等調査業務報告書: 73p	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	94	0	0	0	0
TETSUJI NAKABO. 1983. REVISION OF THE DRAGONETS (PISCES: CALLIONYMIDAE) FOUND IN THE WATERS OF JAPAN. <i>PUBLICATIONS OF THE SETO MARINE BIOLOGICAL LABORATORY</i> , 27(4-6): 193-259	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0
Tetsuo Takara, Nagahisa Kuroda. 1969. 琉球における未記録種および稀種. <i>Journal of the Yamashina Institute for Ornithology</i> , 5: 547-562	0	145	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Wild Bird Society of Japan. 1986. <i>Strix Field Note</i> . <i>Strix</i> , 5: 89-98	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Wild Bird Society of Japan. 1987. <i>Strix Field Note</i> . <i>Strix</i> , 6: 110-118	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Wild Bird Society of Japan. 1989. <i>Strix Field Note</i> . <i>Strix</i> , 8: 347-349	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Wild Bird Society of Japan. 1990. <i>Strix Field Note</i> . <i>Strix</i> , 9: 265-268	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Wild Bird Society of Japan. 1991. <i>Strix Field Note</i> . <i>Strix</i> , 10: 315-318	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Wild Bird Society of Japan. 1993. <i>Strix Field Note</i> . <i>Strix</i> , 12: 259-264	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Wild Bird Society of Japan. 1994. <i>Strix Field Note</i> . <i>Strix</i> , 13: 265-274	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Wild Bird Society of Japan. 1996. 野鳥情報・観察記録 1994.8-1995.7. <i>Strix</i> , 14: 205-211	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
WWFJ. 2009. 南西諸島生物多様性評価プロジェクト フィールド調査報告書: 1-242	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	43	0
Yamashina, Y. and T. Mano. 1981. A New Species of Rail from Okinawa Island. <i>Journal of the Yamashina Institute for Ornithology</i> , 13: 147-152	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Yossi Loya, 沢井一彦. 2008. クサビライクササンゴの性転換. 球磨大学21世紀COEプログラム「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解釈」平成19年度成果発表会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
Yukio Iwatsuki, Seishi Kimura, Tetsuo Yoshino. 2007. A review of the Gerres subfuscatus complex from the Indo-West Pacific, with three new species (Perciformes: Gerreidae). <i>Ichthyological research</i> , 54: 168-185	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
いであ株式会社. 2011. 平成22年度慶良間地域周辺海域海草分布調査業務報告書: 49p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0	0	0
カラ・カラスト地域学調査委員会. 2007. カラ・カラスト地域における絶滅危惧種コウモリ類の生育実態調査(2007年6月)報告: 42742	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
タグラス・マックイター、池長裕史, 五百沢日丸, 庄山守, 高原建二. 1996. 最近の生息状況と参考記録を含めた沖縄県産鳥類目録. 沖縄県立博物館紀要, 22: 33-152	0	373	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
チーム美らサンゴ. 2010. 万座周辺のサンゴ観察報告書(万座、21年9月): 1-9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
ヤマハリゾート株式会社. 1997. (仮称)いわむらぶしゴルフ場開発計画に係る環境影響評価書 評価書: 750p	16	75	9	13	0	1,807	130	43	0	0	118	23	460	0	183
安座間安史, 高原健二, 島袋徳正. 1989. 特殊鳥類等生息調査及びノグチゲラの営巣木調査、特殊鳥類等生息環境調査Ⅱ中間報告書: 99-122	0	103	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安座間安史, 島袋徳正. 1996. 大林国道(沖縄島ヤンバル地域)における側溝落下動物一斉調査-側溝設置状況からみた小動物の落下状況の分析- 沖縄生物教育研究会誌. (28): 3-12	0	0	24	15	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
安座間安史, 島袋徳正, 高原健二. 1990. 別府喜ダム・照首山周辺のノグチゲラ生息環境調査、特殊鳥類等生息環境調査Ⅲ中間報告書: 110-124	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安座間安史, 島袋徳正. 1984. ノグチゲラの育雛活動について. 沖縄生物学会誌. (22): 79-90	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
安田 富士郎, 富永 義昭. 1970. 三宅島および沖縄本島から得られたキンチャクダイ類の二新種. 魚類学雑誌. 17: 141-151	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

表4-5-1(12). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文獻名	分類群別データ数												地域		
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	
小浜継雄. 2015. 沖縄諸島伊平屋島・野南島のチョウ2014年9月の記録. 琉球の昆虫. (39): 206-207	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	
小浜継雄. 2016. 沖縄諸島宮城島でコアカトントボを目撃. 琉球の昆虫. (40): 12	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 2014. 沖縄諸島水納島で確認したチョウ(2013年). 琉球の昆虫. (38): 63-65	0	0	0	0	0	0	60	0	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 2014. 沖縄島恩納村でスマカネを採集. 琉球の昆虫. (38): 165	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 2016. 沖縄島糸満市でスマカネを目撃. 琉球の昆虫. (40): 12-13	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 2012. 久米島で2011年9月に採集したアジアイトトンボ. 琉球の昆虫. (36): 36	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
小浜継雄. 2016. 宮古諸島伊良部島のトンボ1995年8月の記録. 琉球の昆虫. (40): 3	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	
小浜継雄. 2008. 廉良間諸島間味島のトンボ. 琉球の昆虫. (32): 20-22	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	
小浜継雄. 1999. 黒島でマリスアルマダラを採集. 琉球の昆虫. (20): 53	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 2007. 座間味島のオオシカラトンボの記録. 琉球の昆虫. (31): 89	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
小浜継雄. 1999. 那覇市でシグロカマドマダラを採集. 琉球の昆虫. (20): 50	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 2016. 那覇市金城タムでシガカラトントボを目撃. 琉球の昆虫. (40): 11-12	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 1988. 南大東島のトンボ. 琉球の昆虫. (13): 132-133	0	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	
小浜継雄. 2012. 八重山諸島ナナギ地島. 琉球の昆虫. (36): 57-58	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 2003. 八重山諸島黒島のトンボ類. 琉球の昆虫. (23): 81	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 2016. 八重山諸島小浜島のトンボ1999年の記録. 琉球の昆虫. (40): 2	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 2012. 八重山諸島小浜島ホンボ2011年6月の記録. 琉球の昆虫. (36): 30-32	0	0	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 2016. 八重山諸島波照間島のトンボ1996年6月の記録. 琉球の昆虫. (40): 1	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	○
小浜継雄. 1978. リュウキウハグロトンボの飛活動と生息行動. 沖縄生物学会誌. (16): 23-27	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
小柳誠一, 田村常雄, 道明子, 長岡浩子, 前田喜四郎. 2013. 石垣島における洞穴横コモリ類三種の季節的ねぐらの分布-2001年から2004年の記録. 東洋編撰研究会研究. (9): 1-19	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
小林綾, 井澤雅子, 佐藤哲郎. 2010. オガシラヤマヨリのケットにおける採査実行. Akamata. 21: 1-6	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
松井安俊, 松井英子. 1991. 冬の沖縄. 石垣・竹富・石垣島でのアカタバの生態調査から. 琉球の昆虫. (14): 1-3	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	○
松井晋吾, 小林さやか, 高木昌典. 2011. 南大東島におけるスコモリモミ Larus saundersi の記録. 日本鳥学会誌. 60: 262-265	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
松井晋吾, 池田広志, 成瀬寅, 清沼清, 高木昌典. 2007. 南大東島における淡水産コヒビ類3種の初記録. 沖縄生物学会誌. (45): 33-37	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	
松浦啓一. 1988-1989. 北太平洋から初記録のカブハギ科魚類セッパリハギ(新称). 魚類学雑誌. 35: 482-483	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○
松川康夫, 中田義, 市川史, 下田徹. 1999. 沖縄におけるトンボ科の核酸北. 中央水産研究所研究報告. (14): 1-8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	○
松本廣輔. 2014. 沖縄本島北部におけるホリイコシジミの記録. 琉球の昆虫. (38): 51-52	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	○
松本重雄. 2015. 海上を飛ぶカラスランボを目撃. 琉球の昆虫. (39): 68	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
松本瑠偉, 内田聰三, 戸田実, 仲田一. 2006. オメジロザメ Carcarhinus leucas の日本の周辺海域および淡水域からの記録. 魚類学雑誌. 53(2): 181-187	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎, 佐田聰美, 岩崎幹人. 2007. 南大東島でアシアイトンボを採集. 琉球の昆虫. (31): 88	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	
焼田理一郎, 小浜継雄. 2007. 沖縄島アシアイトンボ類分布資料. 琉球の昆虫. (21): 1-22	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎, 小浜継雄. 1999. 沖縄島アシアイトンボ類分布資料・補遺. 琉球の昆虫. (20): 25-35	0	0	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎, 小浜継雄. 2007. 糸満市(沖縄島)でコフキントボを探集. 琉球の昆虫. (31): 85	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎, 渡邊翼一. 2007. 沖縄島におけるオメジロアシアイトンボ同色型♀の記録・採集例. 琉球の昆虫. (31): 83	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎, 片野茂樹. 2011. 沖縄島におけるオメジロアシアイトンボ. 琉球の昆虫. (27): 23	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	
焼田理一郎, 矢野一郎. 2005. 渡名喜島のトンボの記録. 琉球の昆虫. (27): 23	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎, 伊原一郎. 2007. 沖縄島におけるオメジロアシアイトンボ同色型♀の再捕獲データ. 琉球の昆虫. (38): 43	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2003. オキナワトンボ(アシアイ)の記録. 琉球の昆虫. (22): 55	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2006. オキナワトンボの羽翅膜異常について. 琉球の昆虫. (28): 1-14	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 1993. コモンヒメハネビロトンボの12月の記録. 琉球の昆虫. (15): 28	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2003. ヒメトントボの卵型の記録. 琉球の昆虫. (23): 49	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 1998. 伊平屋島7月のトンボ. 琉球の昆虫. (18): 36-37	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	
焼田理一郎. 2003. 伊平屋島のリュウキウハヌリコントンボの記録. 琉球の昆虫. (23): 49	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
焼田理一郎. 2011. 沖縄県の離島において自記記録しかなかったトンボの採集記録. 琉球の昆虫. (35): 71	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 1998. 沖縄島、名護市でマニモントントボ採集. 琉球の昆虫. (19): 43	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2007. 沖縄島・伊平屋島でアオモントントボ同色型♀を採集. 琉球の昆虫. (31): 87	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2012. 沖縄島で確認されたアシアイトンボについて(2011年). 琉球の昆虫. (36): 37	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2013. 沖縄島で確認されたアシアイトンボについて(2012年). 琉球の昆虫. (37): 32	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2014. 沖縄島で確認されたアシアイトンボについて(2013年). 琉球の昆虫. (38): 162	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2017. 沖縄島で確認されたアシアイトンボについて(2016年). 琉球の昆虫. (41): 163	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2011. 沖縄県の離島において自記記録しかなかったトンボの採集記録. 琉球の昆虫. (35): 71	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 1998. 沖縄島、名護市でマニモントントボ定着か?. 琉球の昆虫. (31): 82	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2014. 沖縄島のウミアカントボの記録. 琉球の昆虫. (38): 163	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2012. 沖縄島のウミアカントボの記録. 琉球の昆虫. (36): 39	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2010. 恵納村でオキナワサラサヤマンを採集. 琉球の昆虫. (34): 42	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2011. 恵納村でオキナワサラサヤマンを採集. 琉球の昆虫. (35): 69	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2011. 恵納村でオキナワサラサヤマンを採集. 琉球の昆虫. (35): 70	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2004. 小浜島で採集したトンボ. 琉球の昆虫. (24): 71	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 1998. 石垣島及西表島のヒツジアカシマギマダラの記録. 琉球の昆虫. (18): 38	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2009. 石垣島及与那国島のアカントボ属トントボの記録(2008年). 琉球の昆虫. (33): 14	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2007. 那覇市でコフキントボの記録. 琉球の昆虫. (31): 87	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2014. 那覇市でホリイコシミを確認. 琉球の昆虫. (38): 53	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 1999. 那覇市の目立すトンボ新記録の記録. 琉球の昆虫. (20): 51	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	
焼田理一郎. 2004. 南風原町でコフキントボを採集. 琉球の昆虫. (25): 51	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2009. 波照間島のトンボの記録. 琉球の昆虫. (33): 11-13	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2016. 本郷町・南城市でアカントボを採集. 琉球の昆虫. (40): 15	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2003. 与那国島でコモントントボを採集. 琉球の昆虫. (22): 37	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 1993. 与那国島の2月の蝶類採集記録. 琉球の昆虫. (15): 27	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2003. 与那国島のヒメキントボについて. 琉球の昆虫. (22): 36-37	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	○
焼田理一郎. 2003. 波照間島のトンボの記録. 琉球の昆虫. (34): 44	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	○
上間行悟, 仲宗根由英. 1988. 与那国海におけるオカヤドカリタガの生態調査. 沖縄生物研究会															

表4-5-1(13). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数													地域			
	哺 乳 類	鳥 類	両 生 類	爬 虫 類	淡 水 魚	植 物	チ ヨ ウ 類	トン ボ 類	淡 水 陸 生 貝 類	淡 水 甲 殻 類	海 水 魚	海 水 貝 類	海 藻 草 類	海 水 甲 殻 類	サン ゴ	本 島	八 重 山
新城和治・島袋勝・古城朝喜・斎藤義郎・佐久本敬・1984. 沖縄島の植物. 日本国勢会沖縄大会沖縄の生物編委員会(編), 全国大会記念誌, 沖縄の生物: 167-189	0	0	0	0	0	1,505	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新城和治・日越国昭・1988. 那覇市小禄金城公園(予定地)の植物. 沖縄県立博物館紀要, 14: 31-50	0	0	0	0	0	105	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新倉三作雄・中村一恵・1987. 日本におけるカガシラギ科の分布と生息状況. Strix, 6: 50-65	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新田宗仁・2002. 宜野湾市の鳥類. 宜野湾市史第9巻資料編8自然: 357-392	0	447	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新田敦子・2006. 2005年秋、渡嘉敷島でアスオアガコガラナミシミを確認. 琉球の昆虫, (29): 34-35	0	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新田敦子・2014. 2013年、本部町水納島でアリイコジミを採集. 琉球の昆虫, (38): 53	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新田敦子・2006. モクセンナでウラニマシコロコワが発生. 琉球の昆虫, (29): 33	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新田敦子・2011. 沖縄県離島の蝶々. 見え書き. 琉球の昆虫, (35): 15-17	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新田敦子・2009. 座間味島でクロセセヒを撮影. 琉球の昆虫, (33): 54-55	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新田敦子・2006. 比地川瀬城でのリリウキユウアシジ. 琉球の昆虫, (29): 35-36	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新納義馬・1985. ヤンパリネガコガラ生息地の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第26集, 西表島等天然記念物緊急調査IV, ヤンパリネガコガラ実態調査報告書: 1-21-26	0	0	0	0	0	237	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新納義馬・1964. 嘉津宇良と安岳の植生. 沖縄農業, 3(1): 87-93	0	0	0	0	0	164	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新納義馬・1981. 佐敷町の主な御嶽及び浜所の植生. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第21集, 沖縄県社寺・御嶽林調査報告書IV: 27-46	0	0	0	0	0	825	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新納義馬・1975. 西表島東部の植生. 浅海における海中の生態系に関する研究調査報告書: 31-72	0	0	0	0	0	1,150	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新納義馬・1991. 第二章陸生植物 第一部中城村の植生. 中城村史第二巻 資料編1(地理・自然・政治行政・産業経済・移民): (2): 197-209	0	0	0	0	0	1,133	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新納義馬・1965. 小辺牛の植生. 沖縄生物学会誌, 2(3): 32-42	0	0	0	0	0	97	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新納義馬・新城和治・宮城康一・日越国昭・1985. 沖縄県指定天然記念物「万座毛石灰岩植物群落」調査報告. 恩納村文化財調査報告書, 第6集: 64	0	0	0	0	0	893	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新敏夫・1970. 八重山群島の植生. 遺伝, 27: 2-9	0	0	0	0	0	5,745	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新里和・新井光孝・山盛直・1993. 西表島における牧草地の植生と採食植物. 琉球大学農学部学術報告, 40: 153-165	0	0	0	0	0	439	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新里和・高岡建二・2002. 伊江島の植物図鑑	0	0	0	0	0	166	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新里和・比嘉寿・1976. 北泊山の植物. 沖縄生物学会誌, 14: 99-110	0	0	0	0	0	373	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
新里和・津崎安喜・1979. 名護市の御嶽林. 名護市教育委員会社会教育課(編), 名護市天然記念物調査報告書: 179p	0	0	0	0	0	1,940	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
森井謙三・1975. 台湾・沖縄における翼手類の採集. 哺乳類動物学雑誌, 6(3): 121-126	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
森岳, 天野雅男, 太田英利・1984. 八重山諸島・新城島のトカゲ類の分布に関する新知見. 沖縄生物学会誌, (22): 117-118	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
森田尚介・越野一志・山野仁志・2014. 渡嘉敷島におけるブロンズトキの記録. Bird Research, 10: S23-S24	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
深尾隆三・1990-1991. 沖縄豪雨ケヤギボク類とその生息場所. 37: 116-126	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	○
真志嘉丈子・新納義馬・1988. 安波のサキマスクオノキ群落. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第30集, 国頭郡天然記念物緊急調査III: 85-95	0	0	0	0	0	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
真野徹・2009. 日本国におけるツバメ Hirundo rustica の換羽. 日本国鳥類識認協会誌, 21: 22-30	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
神谷洋江・1980. 佐敷町佐祖崎におけるハマジンコウザウの観察. 沖縄生物教育研究会誌, (13): 10-16	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
神田猛・上原聰・渡野拓郎・2009. 八重山諸島石垣島の陸水域鳥類相. 宮崎大学農学部研究報告, 55: 13-24	0	0	0	0	0	126	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
神奈川県立野生の森・地球博物館・魚類写真資料データベース	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,233	0	0	0	0	0	○
渡辺豊大・井口亮・2008. 達雄サゴニと共に生息する褐虫藻の分子系統学的研究に関するレビュー(北西太平洋を中心). 日本サンゴ礁学会誌, 10: 13-23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	○
水産無脊椎動物研究所・水産無脊椎動物図鑑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	○
水谷晃・河野裕美・2008. 琉球列島八重山諸島における2001年繁殖期のエリグロアシサシとベニアシサシの現状. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology, 39: 101-111	0	174	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
水谷晃・村越未来・唐真盈・木村貢史・北野忠志・河野裕美・2010. 西表島西部の湿地環境における水鳥類相とその季節の消長. 沖縄生物学会誌, (48): 121-139	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
水谷晃・丹尾益斗・小菅丈治・河野裕美・2012. 堀間島におけるオナオカオカラヤドカリの宿主利用 一特に大型個体とチヨウセンサザエの殻との関係-. 沖縄生物学会誌, (50): 73-81	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	○
高岡建二・嘉屋千利子・前原一統・松田哲哉・佐久勇介・松田史郎・1999. 久米島から最近新たに記録された鳥類. 沖縄県立博物館紀要, 25: 95-115	0	252	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・久見勝盛・瀬名波任・1995. 久米島の鳥類について. 久米島総合調査報告書: 65-95	0	174	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・久見勝盛・瀬名波任・1995. 最近(1994年4月~1995年3月)沖縄諸島で保護及び目撃された興味深い鳥類について. 沖縄県立博物館紀要, 21: 209-211	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・久見勝盛・瀬名波任・1995. 那覇市天久で観察された鳥類(1). 沖縄県立博物館紀要, 21: 79-99	0	71	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・久見勝盛・大城竜信・1996. 最近(1995年4月~1996年3月)で目撃された興味深い鳥類について. 沖縄県立博物館紀要, 22: 173-178	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・砂川栄喜・比嘉邦昭・宮城国太郎・高岡淳司・金城輝男・仲井地博・長嶺隆・2008. 沖縄県内における2003年から2004年までの稀な鳥類の飛来記録と希少な繁殖記録について. 南島文化, 30: 127-144	0	85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・師崎悟・高木昌興・奥村春夫・金城雅之・1999. 南大東島で最近新たに記録された鳥類について. 沖縄県立博物館紀要, 25: 75-93	0	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・池澤幸男・兼城克男・1995. 豊良間諸島の鳥類. 沖縄県立博物館紀要, 21: 101-128	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・池長祐史・金城道男・渡久地豊・金城輝雄・庄山伸・2000. 沖縄県内において野外観察や傷病鳥の保護及び博物館標本等により確認された興味深い鳥類の記録について. 沖縄県立博物館紀要, 26: 27-46	0	76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・中村和雄・吉古修・2004. 伊平屋島及び伊是名島における鳥類記録について. 沖縄県立博物館紀要, 30: 1-25	0	292	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・中村和雄・吉古修・2009. 東国島の鳥類・地域研究. 5: 103-118	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・中村和雄・2001. 南大東島の環境評定: 南大東島の鳥類とその保全. 沖縄県立大学地域研究所評定, 22: 25-28	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・渡久地政武・1997. 沖縄南部の市街地で繁殖する鳥類. 沖縄県立博物館紀要, 23: 33-54	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・鳥屋修・1998. 加治真市・1998. 渡照簡易で記録された鳥類とその方言名について. 渡照簡易総合調査報告書: 65-86	0	109	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・高良淳子・安和守浩・天野洋祐・2009. ミツユビカセミCeyx erithacusの国内初記録. Japanese Journal of Ornithology, 58: 208-211	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・安座間宏史・1996. 大宜味村(沖縄島)の鳥類相とその生息状況について. 大宜味村の自然: 421-514	0	1,717	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・2002. 沖縄島で留鳥として生息する希少な3種類の繁殖記録について. 沖縄県立博物館紀要, 28: 1-11	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・2001. 沖縄島中南部の市街地で繁殖したトミトリ・リュウキュウサギマダラの2種について. 沖縄県立博物館紀要, 27: 45-50	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・1994. 宜野湾市伊佐・大山・宇地泊周辺地域の鳥類と哺乳類. 沖縄県立博物館紀要, 20: 67-96	0	205	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・1994. 最近沖縄で目撃及び保護された興味深い鳥類. 沖縄県立博物館紀要, 20: 141-146	0	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・2004. 小浜島における鳥類の記録について. 小浜島総合調査報告書: 35-59	0	170	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・2001. 那覇市久那新都心開発地域の鳥類. 沖縄県立大学地域研究所年報, 15: 67-90	0	109	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
高岡建二・1993. 渡照簡易の鳥類と哺乳類. 沖縄県立博物館紀要, (19): 1-16	7	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
杉本雅志・杉本まゆみ・2012. ランタナの花を食べるオオタマハドモド: 琉球の昆虫: (36): 140	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
杉本雅志・2004. 2003年カワカミヨコロコの確認データ. 琉球の昆虫: (24):																	

表4-5-1(14). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数											地域				
	哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	海水甲殻類	海水貝類	海藻草類	海水甲殻類	サンゴ	本島	八重山
西垣孝利, 佐伯智史, 成瀬貴. 2011. 石垣島より採集された日本初記録のケファサシハラガニ属(新称)(甲殻亜門:十脚目:短尾下目:モクズガニ科)2種の記録. 沖縄生物学会誌. (49): 85-93	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	○	○
西原町歴史編纂委員会. 1989. 西原の民俗. 西原町史. 第4巻(資料編): 1203p	0	0	0	0	17	0	0	0	19	2	4	1	0	1	0	○
西川昭一, 中島祐一, 長田智史, 酒井一彦. 2007. 琉球列島における幼生保護型サンゴ <i>Seriatopora hystrix</i> の遺伝的集団構造. 琉球大学21世紀プロジェクト「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析」平成18年度成果発表会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○
西村昌彦. 2010. 沖縄県内の市町村が運用するハブ捕獲器の捕獲成績 3 -市町村ごと及び具志川市(現うるま市)における1台ごとのハブとアカマタの捕獲結果-. 沖縄県衛生環境研究報. 44: 37-44	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
西村昌彦, 赤嶺博行. 2002. 沖縄県南部において1976年に達し後定着した侵入種サキシマハブの分散範囲 -2002年時点の予備的な調査の結果. 沖縄県衛生環境研究所報. 36: 89-92	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
西村昌彦. 2010. 沖縄県内の市町村が運用するハブ捕獲器の捕獲成績 4 -浦添市, 具志川市(現うるま市), 北中城村, 中城村におけるハブの捕獲地-. 沖縄県衛生環境研究報. 44: 103-105	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
西村昌彦. 1999. 沖縄県内の市町村が運用するハブ捕獲器の捕獲成績 1 -1998年の資料を中心とした予報-. 沖縄県衛生環境研究所報. 33: 133-138	0	0	0	53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
西村昌彦. 1990. 琉球列島におけるハブの社会行動の目撃例1. 沖縄生物学会誌. (27): 47-51	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
西田正賢. 2006. 沖縄県宮古島列島で集めた蝶類. 琉球の昆虫. (29): 36-34	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	○
西田睦. 1986. 日本・琉球列島におけるアユの分子、形態および繁殖形質の地理的変異. 魚類学雑誌. 33(3): 232-248	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
西田睦. 1988. 琉球列島より得られたアユの新垂鱈. 魚類学雑誌. 35(3): 236-242	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
西平守季. 2007. 沖縄島南部貝志頭浜海岸の礁池における移殖サンゴ片の生存と成長. 名松大学総合研究. (11): 37-46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	○	
西平守季. 1985. ヒメイワガニによるヤマトシオガモの捕食. 沖縄生物学会誌. (23): 39-40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○
西平守季. 1986. 潮間帯に生息した赤土のアマツリナによる除去について. 沖縄生物学会誌. (24): 69-70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	○
西里公作, 垣花武志, 洲津理惠, 木永明, 下地瑞恵, 宮古島の湊水域環境保全を目指した研究 -湊水域に生息する生物の保全を目指して-	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
青木一幸. 2014. オアシジアガハ異常型との那国島での記録. 琉球の昆虫. (38): 56	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	○
青木一幸. 2009. アカスジハヤコトボとの那国島での記録. 琉球の昆虫. (33): 11	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	○
青木一幸. 2012. リュウキウムラサキの渡嘉敷島での記録. 琉球の昆虫. (36): 50	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○
青柳克. 2015. 沖縄諸島・粟国島の水生昆虫(トコボ・カムシ・コウチュウ). 琉球の昆虫. (41): 158	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○
青柳克. 2011. 沖縄島近隣島嶼(屋我地島・瀬底島・伊計島・浜比嘉島)の水生昆虫類. 琉球の昆虫. (35): 101-109	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	○
青柳克. 2013. 座間味島の水生昆虫(トコボ・カムシ・コウチュウ). 琉球の昆虫. (37): 18-22	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	○
青柳克. 2012. 渡名喜島から初記録のトコボ・チワウ・斑点の昆虫. (36): 41-42	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	○
青柳克. 2013. 渡名喜島の水生昆虫(トコボ・カムシ・コウチュウ). 琉球の昆虫. (37): 23-29	0	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0	○
青柳克. 2015. 鹿嶺島諸島のシロカミムシの初記録. Akamata. 25: 28-30	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
青柳克. 2006. 沖縄島南部城におけるリュウキウムラサキの繁殖記録. 沖縄生物学会誌. (53): 85-87	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
青柳克. 2016. 多良間島からのミナミシマガメの初記録. Akamata. 26: 33-34	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
青柳兵司. 1942. 琉球糸満港内の珊瑚礁洲に見られる小潮渦水の魚相に就て附一部ハゼ科魚類の雌雄性徵. 動物學雑誌. 54(4): 144-149	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	○
齊藤基樹. 2006. イワカツシミの成虫の側面深い生態. 琉球の昆虫. (28): 47	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○
齊藤基樹. 2006. シルビアシミの軽微な異常型. 琉球の昆虫. (28): 46	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○
齊藤文保. 2006. 伊平屋島の小動物(2001~2005年の目撲記録). 琉球の昆虫. (29): 1-14	0	0	0	0	0	0	89	12	0	0	0	0	0	0	0	○
齊藤文保. 2006. 渡名喜島の小動物(2001~2005年の目撲記録). 琉球の昆虫. (29): 15-32	0	0	0	0	0	0	217	39	0	0	0	0	0	0	0	○
石垣市建設部・都市建設課. 2017. 平成28年度平久保半島工コード整備調査事業に係る環境基礎調査業務委託報告書	22	88	8	27	23	233	0	29	8	47	4	9	0	33	0	○
石川市教育委员会. 2005. 石川市の植物	0	0	0	0	422	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
石川哲郎, 阿部伸太郎, 早瀬川直允, 高柳清明, 三原正法. 新川義江. 2012. 沖縄島南部における粘着トラップを用いた外來種グリーンアーネルの防除および混生される小型脊椎動物への影響評価. 沖縄生物学会誌. (50): 37-47	0	0	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
石川哲郎, 阿部伸太郎, 早瀬川直允, 高柳清明, 三原正法. 新川義江. 2012. 沖縄島南部における粘着トラップを用いた外來種グリーンアーネルの防除および混生される小型脊椎動物への影響評価. 沖縄生物学会誌. (50): 37-47	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
石田仁. 1985. ハシゴトカラによるソテツの種子散布の観察. 沖縄生物学会誌. (23): 29-32	0	3	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
石田久美子. 伊藤雅子. 上田惠介. 2002. 超熱帯マングローブ林でのシメシを核とした混群形成. <i>Strix</i> . 20: 153-158	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
赤嶺博行, 西村昌彦. 1998. 沖縄島の本部半島東部におけるヘビの自撃と捕獲の頻度 -ハブの低頻度と移入種の定着の可能性-. 沖縄生物学会誌. (36): 51-58	0	0	0	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
雪野出, 鈴木淳, 高橋和也, 塚原育, Janice M. Lough, 中森亨, 中野義勝. 1999. 琉球列島瀬底島産のハマサンゴ骨格を用いた水温復元・水温指標としてのMg/Sr比. 海的研究. 8(6): 399-409	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○
雪野出. 2000. 琉球列島における高解像度サンゴ骨格記録に基づく環境復元. 博士論文. 328-332	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○
千木良芳範(沖縄県教育文化庁). 2009. 稚牛岳宇摩と安岳の自然・名護市動植物総合調査報告書2005-2008: 135-171	0	0	132	111	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
千木良芳範. 島袋盛和. 1980. 漢那郡におけるボウボウの刺繍の落葉について. 沖縄生物学会誌. (18): 45-49	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
千木良芳範. 島袋盛和. 1982. 自駆観察によるスマガエル個体群の季節的消長. 沖縄生物学会誌. (20): 11-15	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
千木良芳範. 島袋盛和. 2007. 第4章 土地と自然 地域の中の自然. 沖縄市史 第4巻 自然・地理・考古編 自然編: 335-339	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
千木良芳範. 2007. 第2章 残された自然 沖縄市の両生爬虫類. 沖縄市史 第4巻 自然・地理・考古編 自然編: 101-120	0	0	185	265	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
千木良芳範. 2014. 第3章 稚牛村の動物 エンタの両生爬虫類. 恩納村の両生爬虫類. 恩納村誌 第1巻 自然編: 453-490	0	0	140	169	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
千木良芳範. 2007. 第3章 市街中の自然 移入動物の話. 沖縄市史 第4巻 自然・地理・考古編 自然編: 325-333	0	0	0	52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
千木良芳範. 1999. 南風原町の哺乳類. 南風原町史 第2巻 自然・地理・資料編: 143-149	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
千木良芳範. 1989. 与那国島の陸上脊椎動物. 沖縄県立博物館総合調査報告書 南那国島: 25-38	28	2	2	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
千木良芳範. 1988. 多良間島の両生爬虫類について -サキシマダラの採集例とスマガエルの移入-. 沖縄県立博物館紀要. 14: 51-56	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
尖閣諸島文献史料叢書編纂会. 2011. 対米協会助成シリーズ42 尖閣研究: 1-279	4	21	0	6	0	21	0	0	3	0	0	0	0	1	0	○
川口四郎, 益田樹理, 丸山哲哉. 1978. 進達さんごキクメイシモドキ <i>Coleus crispatus</i> の造骨組織の電子顕微鏡的研究. 動物学雑誌. 87(4): 515-515	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
川上勲. 1996. 宮古の自然'95. 平良市総合博物館紀要. (3): 71-83	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○
川上勲. 1994. 宮古島群のカクマケン類について. 平良市総合博物館紀要. (1): 81-87	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○
川上勲. 1999. 宮古島の自然'98. 平良市総合博物館紀要. (6): 79-90	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
川上和人, 田中聰. 2004. 沖縄県小浜島の路上におけるギヤサキの待ち伏せ型採食行動. 小浜島総合調査報告書: 61-64	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
浅見哲司. 1987. 石垣島採集記録(1984年3月). 琉球の昆虫. (11): 44-46	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	○
船越公威. 大沢夕志. 大沢啓子. 2006. 沖縄島周辺島嶼のオリオオコモリ <i>Pteropus dasymallus inopinatus</i> の分布. 特に与論島における生息確認と若干の生態的知見について. 哺乳類科学. 46(1): 39-34	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
前田喜四郎. 丸山勝彦. 1993. ヤエヤマオコモリの宮古島からの記録. 沖縄生物学会誌. (31): 63-65	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
前田喜四郎. 松本真哉. 2004. 南西諸島志布島大富第一洞におけるカグラコモリ. <i>Hipposideros turpis Bangs</i> . 1901. 最近10年間の個体数変化. 沖縄生物学会誌. (42): 57-60	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
前田喜四郎. 赤澤泰、松村澄子. 2001. 南西諸島志布島におけるカワセミ類の生態実態およびコモリの新記録. 東洋編集研究所紀要. (1): 1-9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
前田喜四郎. 1996. 日本産翼手目(コウモリ類)の分類レビューより解説. 哺乳類科学. (36): 1-23	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
前田喜四郎. 1984. 日本産翼手目の採集記録(1). 哺乳類科学. (49): 55-78	11	0	0	0												

表4-5-1(15). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数														地域	
	哺 乳 類	鳥 類	両 生 類	爬 虫 類	淡 水 魚	植 物	チ ヨ ウ 類	ト ン ボ 類	淡 水 陸 生 貝 類	淡 水 甲 殻 類	海 水 魚	海 水 貝 類	海 水 藻 類	サン ゴ		
南浦豊光, 1973. 知念地区の鱗生. 沖縄生物教育研究会誌. 5: 29-47	0	0	0	0	0	1,258	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
倉田尚, 1966. 八重山群島西表島の貝類. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 4: 358-370	0	73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
増永元, 太田英利, 戸田光彦, 中島朋明, 鏑雅哉, 松本千枝子, 2005. 鶴間島におけるオオヒキガエルの侵入と生息状況. 爬虫両棲類学会報. 2: 173-179	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
増野高司, 佐々木健志, 安川謙一郎, 1998. 沖縄島から採集されたクサガメ <i>Chinemys reevesii</i> (カメ目: バタグールガメ科). 沖縄生物学会誌. (36): 33-36	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
村越吉廣, 1978. ヒメシカゴの発生. 沖縄生物学会誌. (16): 29-34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	○
村山望, 2016. 東村でウミアカントボを確認. 瑞球の昆虫. (40): 13	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○
多和田真眞, 1933. 美東植物目録. 美東小学校植物調査報告書. 40	0	0	0	0	0	2,174	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
太田英利, 山下晶子, 1985. オンナタカヤマモリ <i>Gehyra mutilata</i> (Wiegmann) の波照間島からの記録. 沖縄生物学会誌. (23): 33-34	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
太田英利, 藤井亮, 同本卓, 定田努, 2004. 八重山諸島波照間島の外来爬虫類に関する新知見およびこれまでに同島から報告された爬虫類の記録に関するコメント. 爬虫両棲類学会報. 2: 128-137	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
太田英利, 1981. 波照間島の爬虫両棲類相. 爬虫両棲類学雑誌. 9(2): 54-60	0	0	5	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
太田英利, 1983. 八重山群島の爬虫両生類相. 1. 沖縄生物学会誌. (21): 13-19	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
太田格, 工藤利洋, 2007. 名瀬湾周辺における沿岸性水産重要魚類の分布. 平成17年度沖縄県水産試験場事業報告書: 181-193	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	541	0	0	0	○
大宜味村教育委員会, 1995. 大宜味村の自然: 1-555	0	600	0	0	0	0	0	0	669	0	0	39	0	0	0	○
大見辰辰男, 2000. 沖縄県赤土汚染定点調査海城における白化後のサンゴ被害状況. みどりいし. (11): 15-18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	○
大城勝, 山城篤, 金城直樹, 宮城智浩, 1997. 羽地内海海岸におけるトビイロゼラ類の生態分布とすみ分け調査. 沖縄生物教育研究会会誌. (29): 23-30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
大城勝, 前田歩, 宮城美加代, 金城美善, 辻忍名清美, 大綿安子, 我那覇安江, 島袋牧, 稲福さゆり, 稲福美奈子, 岐原一美, 前田喜美子, 1989. 鰯波川の魚類調査 I-河口閉塞と河川魚類の減少について. 沖縄生物教育研究会誌. (22): 23-31	0	0	0	0	68	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	○
大城恒弘, 西島信昇, 1978. 海におけるヨシノボリ(ハイゼ科)稚魚の生態. 沖縄生物学会誌. (16): 17-22	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
大城恒弘, 大城勝, 西島信昇, 1976. 球琉列島産イソギンボタル類22種の産卵場所と卵について. 沖縄生物学会誌. (14): 67-70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56	0	0	0	0	○
大西敏一, 真木広造, 2004. 沖縄県と那国島におけるカンムリオウチュウ <i>Dicrurus hottentottus</i> の日本初記録. 日本鳥学会誌. 53: 47-48	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
大沢邦子, 遠原建二, 山城正邦, 四方正良, 大沢タ志, 2013. 粟国島ニオケルクビオワコウモリ <i>Pteropus dasymallus Temminck, 1825</i> (翼手目: オオコウモリ科) の初記録. Fauna Ryukyuiana. 4: 5-7	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
大谷力, 2004. 沖縄県石垣島におけるヤマカラの観察記録. 日本鳥学会誌. 53: 104-105	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
大鷲行, 1994. サンゴ礁域内海と洋牧場開発推進調査. 平成4年度沖縄県水産試験場事業報告書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	○
大鍋吉雄, 中玉利澄男, 高嶺英信, 1984. 国頭村大林園道の道路側溝に落した土壤動物相(予報). 沖縄生物学会誌. (22): 71-78	0	0	7	4	0	0	0	0	61	0	0	0	0	0	0	○
大鍋吉雄, 1980. 沖縄本島中部(中城湾沿岸を中心とする) 動物相概観-1975年3月調査より-. 沖縄大学紀要. 1: 137-181	0	3	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
大鍋吉雄, 1975. 本部半島 動物相の第一次調査報告-主として昆虫及び他の陸生小動物-. 沖大論衡: 81-96	0	0	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
大鍋徹, 2001. 沖縄島北部古生層石灰岩地の植生と植物層	0	0	0	0	0	1,350	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
大澤正幸, 長井隆, 成瀬賛, 2011. 球琉列島から採集されたカスリベンケイガニ(新称). 沖縄生物学会誌. (49): 37-47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	○
大澤正幸, 藤田喜久, 2005. 沖縄島からのヤエヤマヒメオカガニの報告およびその生息場所について. 沖縄生物学会誌. (43): 59-63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
沢田幸雄, 新井良一, 河原宗明, 1972. 八重山群島より採集されたコパンハゼ属の一種, <i>Gobiodon okinawae</i> について. 魚類学雑誌. 19: 57-62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	○
沢田勇, 沖縄地方におけるウミガモの条虫相. 学会(一般公演 生態 要旨)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
沢田勇, 1989. 稚虫相からみたコツウモリ. 遺伝. 43(10): 78-85	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
柳原哲雄, 2003. 沖縄島におけるアシサシ類の繁殖状況調査. 第18回(平成15年度)TaKaRa/ハーモニストファンド活動報告書: 77-89	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
柳原大輔, 広瀬裕一, 2016. 沖縄島残波の漁池に出現する後鰓類の季節変動. 沖縄生物学会誌. (54): 17-25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37	0	0	0	○
知念盛俊, 1966. 第2回八重山生物データ調査報告書鹿児島の部. 沖縄生物教育研究会誌. (1): 141-154	0	0	0	0	0	0	0	0	31	0	0	2	0	0	0	○
知念盛俊, 1991. 第三章陸性動物 中城跡と周辺の陸生貝類. 中城村史第二巻 資料編1(地理・自然・政治行政・産業・移住・移民). (2): 238-243	0	0	0	0	0	0	0	0	29	0	0	1	0	0	0	○
知念盛俊, 1965. 沖縄産貝類の採集と標本の作り方(I). 沖縄生物学会誌. 2(4): 77-88	0	0	0	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	0	○
知念盛俊, 1979. 尾間列島の陸生貝類. 沖縄生物学会誌. (17): 19-27	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	2	0	0	0	○
知念盛俊, 治井正一・儀間一恵. 2004. 西原町の陸・淡水貝類. 西原町市付属刊行物 西原町の自然 ~動物・人との関わり~: 79-90	0	0	0	0	0	0	0	0	189	0	0	5	0	0	0	○
池原直樹, 1993. 嘉手納米軍基地墳墓周辺の植物. 沖縄生物教育研究会誌. 25: 29-41	0	0	0	0	0	4,180	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
池原直樹, 1996. 金武町岸壁植物調査報告書: 45p	0	0	0	0	0	572	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
池原直樹, 安藤琢磨, 岩城健介, 1978. 尾間列島・南小島を訪ねて. 沖縄生物学会誌. (16): 39-44	0	10	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
池原直樹, 1989. 沖縄島北端地域におけるゴブゲラ、ヤンバルクイナの生息分布について-総括-. 特殊鳥類等生息環境調査 II 中間報告書: 183-188	0	173	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
池原直樹, 1988. 沖縄島北部那霸屋及びその周辺地域の鳥類調査結果. 特殊鳥類等生息環境調査 II 中間報告書: 63-76	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
池長裕史, 川上和人, 柳澤紀夫, 2014. II. 日本鳥類目録改訂で「検討中」とした種および垂種について. 日本鳥学会誌. 63: 134-149	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
池長裕史, 川上和人, 柳澤紀夫, 2014. I. 日本鳥類目録改訂第7版で新たに掲載された種および垂種の記録等について. 日本鳥学会誌. 63: 96-149	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
池田根輝, 2005. 水中コンクリートによるサンゴの移植工法の開発. ハザマ研究年報. 37: 1-6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○
池田善英, 1986. 北大東島で冬期に観察された鳥類. Journal of the Yamashina Institute for Ornithology. 18: 68-70	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
竹中践, 藤原琢磨, 戸田守, 2015. 小浜島におけるサキシマカナヘビの標本採集およびその他の爬虫類・両生類の記録. Akamata. 25: 36-40	0	0	3	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
竹島大彦, 吉野哲夫, 1996. 沖縄島に孵化したナマズ目魚類 <i>Liposarcus disjunctus</i> の報告. 沖縄生物学会誌. (34): 35-41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	○
竹内信彦, 原村隆司, 2015. ヤエヤマヒバによるオオハナサキガエルの捕食例. Akamata. 25: 15-16	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
竹内信彦, 原村隆司, 2016. 河口で発見されたオオヒキガエルの幼生. Akamata. 26: 8-10	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
中須賀常雄, 1976. マングローブに関する研究 IV-(3) 宮古・八重山群島におけるマングローブの分布状況. 琉球大学農学部学術報告. 23: 339-364	0	0	0	0	0	131	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
中須賀常雄・坂内さおり, 2003. マングローブの分布と植生に関する研究 マヤシキ林の林分構造. 平成14年度内閣府委託事業マングローブに関する調査研究報告書: 5-16	0	0	0	0	0	82	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
中須賀常雄・大山保表・春木雅寛, 1974. マングローブに関する研究 I. 日本におけるマングローブの分布. 日本生態学会誌. 24: 237-246	0	0	0	0	0	152	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
中須賀常雄・馬場繁幸・伊藤和昌, 1982. 沖縄の海岸林に関する研究(II)西表島船泊浦の海岸林. 琉球大学農学部学術報告. 29: 231-239	0	0	0	0	0	88	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
中西苗栄, 2009. 石垣島の海藻場で確認されたアオウミガメの食み跡. 沖縄生物学会誌. (47): 19-23	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
中西希, 伊澤雅子, 2014. イリオモテヤマネコの山地部における繁殖情報. 沖縄生物学会誌. (52): 45-51	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
中川尚史, 鈴原永輝, 畠村均, 1983. イシガキガクラコウモリの姿形問題から島の記録. 沖縄生物学会誌. (21): 3-5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
中村泰之, 2010. ニミエコガエルによるオオナガアオガエルの捕食例. Akamata. 21: 7-8	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
中村渉平, 2010. ウミショウヅラ藻場の消失に伴う魚類群集構造の変化. 西表島研究. 18: 22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	103	0	0	0	○
中島誠成, 戸田光彦, 青木正成, 鏑雅哉, 2005. 西表島におけるオオヒキガエル対策事業について. 爬虫両棲類学会報. 2: 179-186	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
中藤実美・佐藤紀男・加藤雅容, 2002. <i>Thelypteris angustifrons</i> 倍数体複合群(ヒメシダ科)の細胞分類学的解析. Acta phytotaxonomica et geobotanica. 53(1): 63-76	0	0														

表 4-5-1 (16). 生物分布情報に関する収集文献リスト

表4-5-1(17). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数													地域		
	哺 乳 類	鳥 類	両 生 類	爬 虫 類	淡 水 魚	植 物	チ ヨ ウ 類	トン ボ 類	淡 水 陸 生 貝 類	淡 水 甲 殻 類	海 水 魚	海 水 貝 類	海 藻 草 類	サン ゴ	本 島	八 重 山
長嶺邦雄. 2008. 蝶の幼生期の記録(2007). 琉球の昆虫. (32): 80-87	0	0	0	0	0	0	174	0	0	0	0	0	0	0	0	○
長嶺邦雄. 2009. 蝶の幼生期の記録(2008). 琉球の昆虫. (33): 60-65	0	0	0	0	0	0	104	0	0	0	0	0	0	0	0	○
長嶺邦雄. 2010.蝶の幼生期の記録(2009). 琉球の昆虫. (34): 66-70	0	0	0	0	0	0	169	0	0	0	0	0	0	0	0	○
長嶺邦雄. 2013.蝶の幼生期の記録(2012). 琉球の昆虫. (37): 85-91	0	0	0	0	0	0	140	0	0	0	0	0	0	0	0	○
長嶺邦雄. 2014.蝶の幼生期の記録(2013年). 琉球の昆虫. (38): 119-122	0	0	0	0	0	0	144	0	0	0	0	0	0	0	0	○
長嶺邦雄. 1987. 渡嘉敷島の3月の蝶(1986年). 琉球の昆虫. (11): 37	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	○
長嶺邦雄. 1999. 波照間島で見た蝶・トンボ・セミ(1996年). 琉球の昆虫. (20): 31-32	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	○
長嶺邦雄. 1999. 鳩間島で見たチョウ・トンボ・セミ(1996年). 琉球の昆虫. (20): 30	0	0	0	0	0	0	22	3	0	0	0	0	0	0	0	○
長嶺邦雄. 1988. 与那国島のチョウ・トンボ(1987年8月). 琉球の昆虫. (12): 41-45	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	○
長嶺邦雄. 1970. 黒島の植物. 沖縄生物学会誌. (6:8): 37-39	0	0	0	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	○
長嶺邦雄. 1964. 最近沖縄で記録された蝶数種について. 沖縄生物学会誌. 1(2): 80-82	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	○
長嶺邦雄. 1967. 竹富島のキヤムラジンについて(1). 沖縄生物学会誌. 4(6): 30-34	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	○
長嶺邦雄. 1966. 琉球列島から採集された数種の蝶について. 沖縄生物学会誌. 3(5): 36-37	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	○
鳥羽義久. 2004. 渡嘉敷島のアマミカチホヘビ. 跳虫兩種類会報. 1: 20-21	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
鳥居高志, 塩根嗣理, 加藤恵一, 杉浦幸彦, 黒川忠之, 大野正博, 大城朝一, 新垣敏一. 2011. 河口閉塞による感潮域魚類相への影響. 应用生態学研究. 13(2): 123-139	0	0	0	0	142	0	0	0	0	0	1,158	0	0	0	0	○
津波吉光男・町田數子. 2005. 北台の植物. 北谷町史第1卷通史編.: 83-108	0	0	0	0	0	4,087	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
通事太一郎, 庄山守, 亀崎直樹. 1994. 西表島における爬虫類・鳥類・哺乳類の路上死体の記録. 沖縄生物学会誌. (32): 43-48	0	78	0	71	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
天野千晴・高田元・中村元・佐藤寛一・宮城直樹・立石庸一. 2012. 琉球大学千原構内に生育する野生性緑色植物. 琉球大学教育学部紀要. 8: 333-354	0	0	0	0	0	1,650	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
天野千晴・大城(坂口)由希子・立石庸一・沖縄県の離島・へき地における自然教育のための基礎資料の充実(5)南城市・高島の植物相. 琉球大学教育学部紀要. 81: 355-370	0	0	0	0	0	1,162	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
天野千晴・立石庸一・佐藤寛一・田場義沙基. 2013. 沖縄島の離島・へき地における自然教育のための基礎資料の充実(6)うるま市津堅島の植物相. 琉球大学教育学部紀要. 83: 177-200	0	0	0	0	0	1,010	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
天野鶴夫. 1982. 知花グスクの植物. 沖縄自然研究会(編), 沖縄県自然環境保全地域指定候補地学術調査報告, 知花グスク・斎場御嶽とその周辺地域: 5-17	0	0	0	0	0	195	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
天野鶴夫. 1982. 斎場御嶽及びその周辺の植物. 沖縄自然研究会(編), 沖縄県自然環境保全地域指定候補地学術調査報告, 知花グスク・斎場御嶽とその周辺地域: 77-90	0	0	0	0	0	216	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
田泽利三. 2012. 石垣島での蝶類幼生期の記録. 琉球の昆虫. (36): 51-54	0	0	0	0	0	0	42	0	0	0	0	0	0	0	0	○
田場義沙基, 仲宗根貴道, 清澤昇太, 富永篤. 2013. 流水環境で繁殖するリュウキユウカシガエルの繁殖期の生態調査. 九州両生・爬虫類研究会研究会誌. 4: 68-70	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
田谷由生・曾我部陽子・原田綾華・吉田由也・三日月酉・田和国明・境寛・前潟光弘・桜谷保之. 2013. 沖縄県八重山諸島で記録された蝶類・両生類・爬虫類及び鳥類. 近畿大学農学部紀要. 46: 299-307	0	9	4	7	0	0	198	0	0	0	0	0	0	0	0	○
田中聰, 高原建二. 2003. 先島諸島における野生化したインドクジャクの分布と現状について. 沖縄県立博物館紀要. 29: 19-24	0	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
田中聰, 西平守孝. 1981. キノボリオカゲについての2、3の観察. 沖縄生物学会誌. (19): 33-39	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
田中聰. 2009. ナグニキノボリオカゲの生態について. 与那国島総合調査報告書. 沖縄県立博物館・美術館 別刷: 13-22	0	55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
田中聰. 2004. 小浜島におけるインドクジャクの現状について. 小浜島総合調査報告書: 65-74	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
田中聰. 1994. 潤底島におけるイボイモリとシリケンイモリの生態についての予備的観察. 沖縄生物教育研究会誌. (26): 13-21	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
田中聰. 1994. 潤底島におけるイボイモリとシリケンイモリの生態についての予備的観察. 沖縄生物教育研究会誌. (26): 13-21	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
田中聰. 1986. サキシマカナヘビの休眠調節. 沖縄生物学会誌. (24): 39-41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
田中聰. 2004. 小浜島における両生・虫類の現状について. 小浜島総合調査報告書: 21-33	0	0	12	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
田中聰. 2006. シロアガエルとオオナタケヤマリの記録. 沖縄県立博物館紀要. 32: 1-3	0	0	4	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
渡嘉敷村史編集委員会. 1987. 第一章渡嘉敷島の自然. 第二節淡水動物. 渡嘉敷村史 資料編: 13-42	0	0	0	0	27	0	0	0	10	38	2	3	0	6	0	
渡久山草・川瀬永公・新里季和. 1998. 亜熱帯琉球石灰岩地形の照葉樹林におけるリターの研究. 琉球大学理学部紀要. 66: 39-62	0	0	0	0	0	0	358	0	0	0	0	0	0	0	0	○
渡辺賛一. 2012. 石垣島における蝶類幼生期の記録. 琉球の昆虫. (36): 54-55	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	○
渡辺賛一. 2013. 石垣島でのスナアナエダ飛来と点定観察. 琉球の昆虫. (37): 37-40	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	○
渡辺賛一. 2014. 2013年石垣島で採集されたオナガワキアヌ. 琉球の昆虫. (38): 169	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	○
渡辺賛一. 2015. 2014年1月石垣島のブールで得られたウスバキトンボとヌアナカネのヤコ. 琉球の昆虫. (39): 54-55	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	○
渡辺賛一. 2017. 2016年1月石垣島のブールで得られたウスバキトンボのヤコ. 琉球の昆虫. (41): 166-167	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	○
渡辺賛一. 1977. アサビキマタラセリの生活史. 沖縄生物教育研究会誌. (10): 45-49	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	○
渡辺賛一. 2015. ミナミトガアシ産卵の観察. 琉球の昆虫. (39): 57	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	○
渡辺賛一. 2015. ワタハシメガシワ工の産卵. 琉球の昆虫. (39): 55	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
渡辺賛一. 2017. 沖縄島でワスバキトンボのヤコが越冬した記録. 琉球の昆虫. (41): 164-165	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	○
渡辺賛一. 2012. 西表島でアカシジマコウトボの羽化を確認. 琉球の昆虫. (36): 141	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○
渡辺賛一. 2015. 西表島におけるワカアトコの記録. 琉球の昆虫. (39): 56	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○
渡辺賛一. 2013. 石垣島でアカシジマベッコウトンボを採集. 琉球の昆虫. (37): 34-35	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	○
渡辺清満. 1987. オオゴマズキの越冬の一形態について. 琉球の昆虫. (11): 48	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	○
渡辺邦郎・龍島恵介. 2016. 沖縄県与那国島におけるカワリサンゴワコツワヒトスベリ. <i>Terpisophore paradisei</i> の観察記録. 日本鳥学会誌. 65: 43-45	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
渡邊道夫・小沢正美・山城秀之・磯村尚子・西原ひろ. 2011. 沖縄本島北部大浦湾周辺の自然と環境教育の試み. 平成22年度日本大学総合技術研究会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○
島袋敬一・新城和治・横田昌晶. 1990. 西表島崎山半島(船浮)の植物相. 南西諸島における野生生物の種の保存に不可欠な諸条件に対する研究: 37-80	0	0	0	0	0	912	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
島袋敬一. 2007. クロコミチャコの記録. 琉球の昆虫. (31): 22	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○
島袋敬一. 1985. リュウコウムラサキの幼虫サママイモより採集. 琉球の昆虫. (10): 128	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○
島袋守. 1978. 海洋植物の野外観察資料(1). 沖縄生物教育研究会誌. (11): 59-66	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	○
島袋守. 1986. 座喜味大跡の植物. 国指定天然記念物整備事業報告書. 74-1	0	0	0	0	0	93	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
島袋守. 1986. 八重山に於けるシボウムの分布とその原因1. 沖縄生物教育研究会誌. (1): 161-178	0	0	0	0	0	83	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
島袋伸三・野原朝秀・初島住彦・天野铁夫・新納義馬・新城和治・宮城朝章・真志喜丈子・白越国昭・天嶽敏男・新納義馬. 1988. 田港村の植物群落. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第30集. 国頭郡天無記念物整備調査: 25-58	3	133	0	0	0	657	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
島袋伸三. 1974. 久米朝秀・天野铁夫・新納義馬・新城和治・宮城朝章・真志喜丈子・白越国昭・天嶽敏男・新納義馬. 1988. 田港村の植物群落の指導的工夫-石灰岩地と非石灰岩地の森林の種組成を通して-. 沖縄生物教育研究会誌. (1): 110p	0	0	0	0	0	523	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
島袋伸三. 2003. 植物群落の指導的工夫-石灰岩地と非石灰岩地の森林の種組成を通して-. 沖縄生物教育研究会誌. (35-39): 47	0	129	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
島袋伸三. 1989. 伐採が森林内部へ及ぼす影響(中間報告). 沖縄生物教育研究会誌. (22): 13-21	0	0	0	0	0	423	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
島袋伸三. 1980. 新島義龍・新城和治・宮城朝章・真志喜丈子・白越国昭・天嶽敏男・新納義馬. 1988. 田港村の植物群落. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第30集. 国頭郡天無記念物整備調査: 25-58	0	0	0	0	0	249	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
島袋伸三. 1988. 宮城朝章・佐久久敏. 2007. 第2章 残された自然 沖縄市史 第4巻 自然・地理																

表 4-5-1 (18). 生物分布情報に関する収集文献リスト

分類群別データ数														地域		
哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	淡水魚	植物	チョウ類	トンボ類	淡水陸生貝類	淡水甲殻類	海水魚	海水貝類	海藻類	サンゴ	本島	八重山	
嶋津信彦, 2015. 沖縄島安波川水系ヒシナシ沢におけるアメリカザリガニの単位努力量あたりの採集個体数の休長組成と経年変化. 沖縄生物学会誌. (53): 55-59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	○	
嶋津信彦, 2014. 沖縄島国場川水系朝波川において2013年8月に起きた魚類大量死発生により得られたオオウナギの個体数と全長組成. 沖縄生物学会誌. (52): 69-72	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
嶋津信彦, 2008. 沖縄島比謝川に侵入したオオクチバスの生態学的研究. 人と自然. 19: 35-41	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
東郷誠, 東良誠, 平田義典, 1992. 久米島の両生貝類相. 具賀学報誌VENUS. 50(4): 264-269	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○	
当山昌直, 佐藤文保, 1985. ハーバートカグの伊平屋島からの記録. 沖縄生物学会誌. (23): 25-27	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
当山昌直, 千木良房範, 佐藤文保, 1997. 南風原町の両生類・爬虫類. 南風原町史 第2巻 地理・地質編: 161-174	0	0	18	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
当山昌直, 1980. (特別寄稿)粟国島の陸上脊椎動物. 沖縄県立博物館総合調査報告書1粟国島: 51-55	3	10	2	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
当山昌直, 2004. 西原町の両生類・爬虫類. 西原町史行慶刊行物 西原町の自然～動物・人と自然の関わり～: 19-34	0	0	0	56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
当山昌直, 1981. 源名喜島の陸上脊椎動物. 沖縄県立博物館総合調査報告書2源名喜島: 49-56	3	13	2	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
当山昌直, 1976. 宮古群島の両生爬虫類相(1). 爬虫両棲類学雑誌. 6(3): 64-74	0	0	2	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
当山昌直, 1976. ミヤコトカグの分布の確認. 沖縄生物学会誌. (14): 61-66	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
当山昌直, 1981. 沖縄群島の両生爬虫類相(1). 沖縄県立博物館紀要. 7: 1-8	0	0	20	54	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
当山昌直, 1984. 沖縄群島の両生爬虫類相(Ⅲ)－渡嘉敷島・久米島－. 沖縄県立博物館紀要. 10: 25-36	0	0	7	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
当山昌直, 2009. キクイリハサウヘイ. 琉球大学資料館収蔵タイプ標本目録. (1): 12	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
藤岡三郎, 佐藤耐二, 1980. 尖閣諸島の海底貝類相. 沖縄生物学会誌. (18): 51-58	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
藤吉正明, 北野忠, 岩原健, 北條芳隆, 藤野裕弘, 河野裕美, 2014. 西表島の水田に生息する絶滅危惧植物5種の分布. 沖縄生物学会誌. (52): 21-29	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
藤井喜久, 仲宗根一, 金城孝一, 玉城不二美, 上野大輔. 2012. 久米島簡川および白瀬川における河川環境と河川動物群集の現状. 久米島博物館紀要: 35-88	0	0	1	2	70	0	0	26	25	72	36	24	0	54	0	
藤井喜久, 北村崇明. 2010. 宮古島畠川にて採集されたツノナガヌマエビとニセモクガニ. 宮古島市総合博物館紀要. (14): 115-121	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	3	0	
藤井喜久, 久保弘文. 2013. 宮古島海底マングローブ域で発見されたキバウミニア(軟体動物門: 腹足綱: キバウミニア科). 沖縄生物学会誌. (51): 73-77	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
藤井喜久, 初川博秋. 2008. 多島間島の洞穴性および陸性十脚甲殻類. 宮古島市総合博物館紀要. (12): 53-80	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	10	0	
藤井喜久. 2007. 宮古の滝水に生息する十脚甲殻類. 宮古島市総合博物館紀要. (11): 89-110	0	0	0	0	0	0	0	0	0	69	0	0	0	11	0	
藤井喜久. 2017. 宮古諸島水納島の十脚甲殻類相. 宮古島市総合博物館紀要. (21): 91-110	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	31	0	
藤井喜久. 2009. 宮古島におけるミヤコヤシカの新たな生息地について. 宮古島市総合博物館紀要. (13): 71-76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0	
藤井喜久. 2009. 宮古島のオカガニ類. 宮古島市総合博物館紀要. (13): 53-70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	
藤井喜久. 2009. 宮古島から得られたキボリエビ. 沖縄生物学会誌. (47): 29-31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
藤井祐佑樹. 2009. アオミシギとマササギに見られる採食中の歩行動作. 沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要. 2: 1-4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
藤波不二雄. 1982. 春季の沖縄の野鳥. Strix. 1: 125	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○	
独立行政法人 沖縄科学技術研究基盤整備機構. 2007. 沖縄科学技術大学院大学(仮称)整備事業に係る環境影響評価書: 6章	180	427	26	92	28	1,048	17	73	65	208	144	186	447	641	360	○
読谷村 生活福祉部 健康環境課. 2014. 平成25年度 読谷村井戸(力一)環境調査委託業務 報告書: 460p	0	0	23	91	44	2,855	279	109	70	59	0	24	20	17	0	○
読谷村文化財保護委員会. 1980. 読谷の文化第2集植物編: 79	0	0	0	0	0	75	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
那霸市, 南風原町. 2002. 那霸市・南風原町ごみ処理施設事務組合ごみ処理施設整備事業に係る環境影響評価書. (V): 179-217	2	24	3	4	0	371	12	5	0	0	0	0	0	1	0	○
内閣府沖縄総合事務局国土交通省大阪航空局. 2013. 那覇空港滑走路増設事業に係る環境影響評価書. 第2分冊: 6章	49	1,281	22	58	0	822	123	60	87	0	33	12	0	45	598	○
内閣府沖縄総合事務局国土交通省大阪航空局. 2015. 那覇空港滑走路増設事業に係る事業後調査報告書. 第6章	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	107	○	
南九州大学人間環境学部 遠藤研究室. 2012. 平成23年度 沖縄離島地域における自然の保護活用促進のための調査(ケラマ島生态系調査)業務: 7p	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
南風原町史編集委員会. 2000. 南風原町の植物. 南風原町史編集委員会(編), はえはるの自然と地理, 南風原町史第4巻, 自然地理編: 159-180	0	0	0	0	0	0	1,143	0	0	0	0	0	0	0	0	○
南條純士, 加納光樹, 磯之内正博, 佐野光彦. 2010. 西表島浦内川のマングローブ域における漆の魚類群集構造と環境特性. 東海大学海洋生物学研究室研究報告. 31: 31-41	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	129	0	0	0	0	○
南條純士, 沖野裕美, 中村洋平. 2012. マングローブの生育するエリアと生育しないエリアにおける魚類群集構造と環境量の違い. 西表島研究: 東海大学沖縄地域研究センター所報: 50-62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	201	0	0	0	0	0	○
楠井善久. 2006. 石垣市のテントショコラの観察. 琉球の昆虫. (29): 42	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	○
楠井善久. 2005. 横井陽子. 2005. 伊江島・瀬底島・水納島における4月末日の蝶類の記録. 琉球の昆虫. (26): 39	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	○
楠井善久. 2005. 横井陽子. 2005. 慶留間島と外地島の蝶類. 琉球の昆虫. (26): 40	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	○
楠井善久. 2006. 慶留間島周辺島嶼の蝶類. 琉球の昆虫. (29): 40-41	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○
楠井善久. 2005. 横井陽子. 2005. 渡嘉敷島4月月初の蝶類. 琉球の昆虫. (26): 39-40	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	○
楠井善久. 2006. 渡嘉敷島の早春の採集. 甲虫と蝶. 琉球の昆虫. (28): 55-56	0	0	0	0	0	0	0	72	0	0	0	0	0	0	0	○
楠井善久. 2009. クロマダラソツツジシムの鳴叫島の発生記録. 琉球の昆虫. (33): 58	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○
楠井善久. 2010. ナガミスズ(チーピー)の蝶類. 琉球の昆虫. (34): 60	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	○
楠井善久. 2005. 伊豆平島で2月に目撲した蝶類. 琉球の昆虫. (26): 38	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	○
楠井善久. 2005. 慶留間島で外地島における7月の蝶類記録. 琉球の昆虫. (27): 24	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	○
楠井善久. 2006. 座間島と屋裏島(島)における7月の蝶類の記録. 琉球の昆虫. (28): 41	0	0	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	○
楠井善久. 1991. 沖比嘉島・戦地の蝶類. 琉球の昆虫. (14): 21-22	0	0	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	0	0	○
楠井善久. 2005. 浮原島と南浮原島の蝶の小記録. 琉球の昆虫. (26): 38	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	○
日越園昭. 千木良房範. 1988. 泷野喜川上流における防風林帯の構造について. 沖縄生物教育研究会誌. (21): 58-69	0	0	0	0	0	239	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
日越園昭. 岩袋駿. 1972. 西表島仲間川のカブリバ音落について. 沖縄生物教育研究会誌. (5): 36-44	0	0	0	0	0	393	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
日越園昭. 1968. 今村仁詩と植生. 球磨大学生物クラブ誌. 10: 41-47	0	0	0	0	0	304	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
日越園昭. 1988. 深淵の植生の観察. 沖縄県立博物館総合調査報告書V 深淵: 7-22	0	0	0	0	0	0	0	645	0	0	0	0	0	0	0	○
日越園昭. 1989. 沖縄離島の植生の観察. 沖縄県立博物館総合調査報告書I: 15: 23-35	0	0	0	0	0	0	0	239	0	0	0	0	0	0	0	○
日越園昭. 新城和治. 1987. 那霸市小禄金谷俗稱上の毛の植物. 冲縄県立博物館紀要. 13: 1-16	0	0	0	0	0	96	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
日越園昭. 新城和治・新島義典. 菊城原・島袋聰・宮城城一・真志喜丈子・新納義馬. 1987. 脲連島国頭地域の現存植生図. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第28集. 国頭天然記念物緊急調査会: 12	0	0	0	0	0	2,555	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
日越園昭. 新城和治・新島義典・島袋聰・宮城城一・真志喜丈子・新納義馬. 1988. 「安波のタナカーグミ」の植生落葉. 沖縄県天然記念物調査シリーズ第30集. 国頭天然記念物緊急調査会: 1-24	0	0	0	0	0	190	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
日越園昭. 岩袋駿. 1987. 岩袋正俊, 田島敏歌, 新城和治. 2014. 第2章 恩納村の植物. 恩納村第1巻 自然編: 63-244	0	0	0	0	0	6,103	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
農林水産省. 田んぼの生きもの調査	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
渡戸清峰. 吉野哲夫. 1998. 西部太平洋より得られたウミヘビ科魚類ハクテンウミヘビ属(新称)の2種種(ワナギ目). Bulletin of the Osaka Museum of Natural History. 52: 21-30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	○
戸戸岡清峰. 1996. 大阪市立自然史博物館所蔵海生爬虫類模式標本目録. 大阪市立自然史博物館研究報告. 50: 17-43	0	0	5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
梅垣伸介. 大西敏一. 2012. 沖縄県と那国島におけるテフチャフ <i>Phylloscopus collybita tristis</i> の南西諸島初記録と国内における冬期の記録. 日本鳥学会誌. 61: 151-155	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
臼井和伸. 1999. 1997年10月・久米島の蝶. 琉球の昆虫. (20): 32-33	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	○
臼井和伸. 2014. 沖縄島未記録蝶テフチャフの記録. 琉球の昆虫. (38): 61	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	○
臼井和伸. 2016. 慶良間諸島座間味島ヒメシリビアシミを採集. 琉球の昆虫. (40): 102	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	○
八重山リゾート開発株式会社. 2005. 八重山リゾート開発計画に係る環境影響評価補正計画書	70	107	6	21	15	2,020	76	97	16	21	32	11	283	29	31	○
板谷浩伸. 有智哲. 1995. 沖縄島と那国島におけるテフチャフ <i>Phylloscopus collybita tristis</i> の観察記録. 日本鳥学会誌. 64: 257-260	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
比嘉ヨシ子. 1998. 比嘉島の小動物. 比嘉島環境調査総合調査報告書. 自然・歴史・民俗・考古・美術工芸 1998年: 32-64	0	0	0	0	0	0	0	22	4	19	13	0	0	0	0	○

表 4-5-1 (19). 生物分布情報に関する収集文献リスト

表 4-5-1 (20). 生物分布情報に関する収集文献リスト

表4-5-1(21). 生物分布情報に関する収集文献リスト

文献名	分類群別データ数														地域	
	哺 乳 類	鳥 類	両 生 類	爬 虫 類	淡 水 魚	植 物	チ ヨ ウ 類	ト ン ボ 類	淡 水 陸 生 貝 類	淡 水 甲 殻 類	海 水 魚	海 水 貝 類	海 水 甲 殻 類	サン ゴ		
野林千枝, 1996. 沖縄島でワスコミンダラを採集. 琉球の昆虫. (16): 7	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	○
野林千枝, 1996. 沖縄島でタイワンオアセセリを探集. 琉球の昆虫. (16): 7	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○
野林千枝, 1985. 沖縄島で採集した迷蝶3種. 琉球の昆虫. (10): 124	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	○
野林千枝, 1993. 沖縄島の迷蝶2種. 琉球の昆虫. (15): 29-30	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	○
野林千枝, 2002. 沖縄島南部のフタオチヨウの記録. 琉球の昆虫. (21): 22	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	○
野林千枝, 2006. 嘉数高台公園に掛けたトラップで記録した昆虫類. 琉球の昆虫. (30): 38-39	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	○
野林千枝, 1987. 蝶に関する短報4題. 琉球の昆虫. (11): 49	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	○
矢部勝郎, 服田昌之, 1996. 麗良島列島阿嘉島に帰化したミナミイシガメについて、みどりいし. (7): 25-27	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
矢野晴隆, 上田恵介, 2005. リコウキウアカショウビンによる発泡スチロール製人工巣巣の利用. 日本鳥学会誌. 54: 49-52	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
柳谷和彦, 田中直美, 土屋誠, 1987. 沖縄県米須海岸におけるオカラヤドカリ類の貝殻資源と行動. 沖縄生物学会誌. (25): 43-52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
友利博一, 規原健次, 2009. 宮古諸島の礁石におけるサンゴ礁モニタリング. 宮古島市総合博物館紀要. (13): 77-86	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	○
有限会社海游, 2011. 平成22年度西表石垣国立公園海城公園地区モニタリング業務報告書: 170p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	330	40	64	2	418	○
有限会社海游, 2012. 平成23年度西表石垣国立公園海城公園地区モニタリング業務報告書: 121p	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	554	15	107	0	248	○
与那原正勝, 2014. ホトトギスをレリヤハが供食. 琉球の昆虫. (38): 65-66	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	○
与那原正勝, 1993. 南大東島で採集したチョウヒントボ(1992年). 琉球の昆虫. (15): 26	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	○
与那城義春, 1998. ケジトの繁殖. 沖縄県立博物館紀要. 24: 69-74	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
与那城義春, 1999. メシヨの繁殖. 沖縄県立博物館紀要. 25: 69-74	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
与那城義春, 2000. メシヨの繁殖. 沖縄県立博物館紀要. 26: 21-26	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
与那城義春, 2004. 西原町の哺育類・鳥類. 西原町史付属刊行物 西原町の自然～動物・人と自然の関わり～: 3-18	10	204	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
与那城義春, 2007. 第2章 残された自然 沖縄市の鳥類. 沖縄市史 第4巻 自然・地理・考古編 自然篇: 91-100	0	71	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
与那城義春, 1998. 波照間島鳥類調査報告書: 87-95	0	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
与那城義春, 1971. リコウキウアカトリの活動時間と食性. 沖縄生物学会誌. 7(9): 38-40	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
葉田敬子, 2013. オオキワシイカガエル <i>Odorana ishikawai</i> の体色変異個体. 蜀虫南棲類学会報. 2: 98-99	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
葉田敬子, 2013. ムクダによるクロワカモドキの捕食. 蜀虫南棲類学会報. 2: 99-100	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
立原一憲, 中尾耕平, 德永桂史, 津波古俊子, 高田未来美, 下瀬境. 2003. 沖縄島・宮古島および西表島のマングローブ水域における魚類相. Bulletin of the Society of Sea Water Science, Japan. 57: 481-490	0	0	0	0	47	0	0	0	0	0	258	0	0	0	0	○
立原一憲, 中尾耕平, 德永桂史, 津波古俊子, 2002. マングローブ水域の魚類相 沖縄島慶佐川のマングローブ水域に出現する魚類相. 平成13年度内閣府森野調査研究班. マングローブに関する調査研究報告書: 37-71	0	0	0	0	114	0	0	0	0	0	555	0	0	0	0	○
立原一憲, 球流列島の中型ヨシノリホリ2種: 島嶼の河川で進化してきたヨシノリホリの保全と将来. 魚類学雑誌. 56(1): 70-74	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
立松沙織, 南條楠土, 河野裕美, 2013. マングローブ域における獲獲造成が魚類群集構造に与える影響. 沖縄生物学会誌. (51): 27-40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	68	0	0	0	0	○
立石庸一, 宮城直樹・稻田悟寿, 2011. 沖縄県の離島・へき地における自然教育のための基礎資料の充実(4)本部町水納島の植物相と注目すべき植物. 琉球大学教育学部紀要. 78: 139-156	0	0	0	0	0	344	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
琉球新報, 2012. 佳藻薄付着で死滅 濱底島近海のコモンサンゴ. 琉球新報	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○
琉球政府文化財保護委員会, 1960. 文化財要覧1960年版	0	0	0	0	0	0	337	0	0	0	0	0	0	0	0	○
琉球大学, 2006-2008. イオリモヤマネコ 生息状況等総合調査(第4次)報告書: 178	0	0	0	0	0	0	388	0	0	0	0	0	0	0	0	○
琉球大学, 2014. 西表・石垣沿岸の水深30~55mより発見された大規模なサンゴ群集. プレス発表資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	○
琉球列島鳥類研究会, 環境省沖縄奄美地区自然保护事務所, 2004. 平成15年度大東諸島環境情報収集調査報告書: 69p	51	120	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
兩角健太, 南條楠土, 福岡雅史, 河野裕美, 2012. 西表島内川のマングローブ域に生息するキワミニア <i>Terebraria palaustris</i> の産卵生態. 沖縄生物学会誌. (10): 17-20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○
隣地研究会, 1974. 社会林の研究. 森林: 222p	0	0	0	0	0	825	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
林公義, Randall J.E., 1989-1990. 西部太平洋テンジクダイ科の1新種 <i>Apogon selas</i> . 魚類学雑誌. 36: 399-403	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	○
林公義, 1980-1981. 石垣島より得られた日本初記録のテンジクダイ科魚類3種. 魚類学雑誌. 27: 261-267	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	○
林公義, 1999. 阿嘉島の海水域に生息する甲殻類と魚類. みどりいし. (7): 28-30	0	0	0	0	7	0	0	0	0	13	0	0	0	4	0	○
林野庁, 球林生態系多样性基礎調査	0	0	0	0	0	0	1,862	0	0	0	0	0	0	0	0	○
嶋井久勝, 1966. 琉球列島のカモガエ類. 沖縄生物学会誌. 3(5): 8-10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	○
鈴木寿之, 烏居惠親, 桑原崇, 田中早百合, 田牛博, 前羽光弘, 桜谷保之. 2011. 沖縄県八重山諸島で記録された鳥類. 近畿大学農学部紀要. 44: 151-161	0	135	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
鈴木寿之, 清水宏吉, 吉野哲夫, 細川正富, 吉郷英輔. 1995. 西表島で採集された日本初記録のエリグレハゼ(新称). I.O.P. NEWS. 6(2): 4-6	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
鈴木寿之, 濑能宏, 世古徹. 2011. 沖縄島で採集された日本初記録のサオトメハゼ(新称)(スズキ目ハゼ科). 神奈川県立博物館研究報告. 自然科学. 40: 61-66	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	○
鈴木寿之, 濑能宏, 矢野雄幾, 米沢俊彌, 大迫尚晴. 2009. 琉球列島で採集された日本初記録のハゼ科魚類4種. 大阪市立自然史博物館研究報告. 63: 1-10	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	○
鈴木寿之, 大迫尚晴, 濑能宏. 2008. 日本初記録のハゼ科魚類カブハゼ(新称). 日本生物地理学会報. 63: 81-86	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	○
鈴木寿之. 2004. 西表島内川の魚類とその季節的危機. 理科通信サイエンスネット. 22: 8-11	0	0	0	0	15	0	0	0	0	23	0	0	0	0	0	○
鶴田信寿, 与座(仲木)慶子, 宋間和菜, 傅田哲郎, 立石庸一. 2005. 琉球列島のモタマ類. 分類. 5(1): 9-19	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
鶴島大河・西九裕敏・立原一憲. 2014. 沖縄本島敷干場におけるスナゴハゼ <i>Pseudogobius javanicus</i> とマサゴハゼ <i>P. masago</i> の生息環境. 魚類学雑誌. 60: 59-68	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	○
津田勇, 1994. 日本のカモモリ洞窟魚. 自然研究雑誌. 2(3,4): 53-80	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
津田勇. 2002. 日本産ツバモリの寄生線虫類研究. 球磨産業大学「産業と経済」. 17(5): 81-85	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
深崎安喜. 2000. 宜野湾市植物相. 宜野湾市教育委員会文化課(編). 宜野湾市史第9巻資料編8自然: 255-324	0	0	0	0	0	0	1,839	0	0	0	0	0	0	0	0	○
龍島恵介. 2011. 沖縄本島における <i>Ipomoea</i> 属 2 種の花に対するメシヨの盗蜜行動. Bird Research. 7: S1-S4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
龍島恵介. 2012. 沖縄本島におけるメシヨによるハイビスカス花への盗蜜被害の周年変化. Bird Research. 8: S5-S9	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○
與那嶺盛次. 1980. オトメヒメゴの繁殖生態. 沖縄生物学会誌. (18): 39-43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	○
斎平名里美. 当山昌宜. 安川圭一. 陳邦健, 高橋健, 久賀勝. 1998. 宮古諸島における陸棲爬虫生類の分布について. 平良市総合博物館紀要. (5): 23-38	0	0	131	283	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	○

### ( 3 ) 生物文化に関する参考文献等

第2章－2で解析手法を示した生物文化について、情報源を表4－5－2に示す。合計205冊の字誌、市町村誌、専門書について調査を実施した。

表 4-5-2 (1). 生物文化に関する収集文献リスト

No	関係市町村	文献名称	著者名	発行年	生物文化記載有無
1	石垣市	東の大将の化粧 石垣市立八重山博物館紀要 10	内原節子	1992	○
2		荒川のカンヒザクラ保護増殖事業報告書 石垣市文化財調査報告書第 11 号	石垣市教育委員会	1990	○
3		石垣市史 各論編 民俗 上	石垣市史編集委員会	1994	○
4		石垣市史 各論編 民俗 下	石垣市史編集委員会	2007	○
5		石垣島白保以北の旧村々			
6		石垣島白保における環境学習の実践・暮らしと文化の調査についての 5 年間のとりくみ(2011 年度～ 2015 年度)	盛口満	2016	○
7		石垣島調査報告書(3)－地域研究シリーズ No.33－	石垣繁	2011	
8		石垣仲筋会三十五周年記念誌 ふんぬむとう	石垣仲筋会創立三十五周年記念誌編集委員会	2001	
9		石垣島古郷安良の原風景－その歴史と自然－	石垣市総務部市史編集室	1997	○
10		石垣小学校 100 年誌	石垣小学校創立百周年記念事業期成会	1982	
11		石垣村古謡集・第 1 集	石垣字会古謡編集委員会	1985	
12		伊原間小学校史概説	上里善孝	1991	
13		伊原間村逸話集	上里善孝	1990	○
14		伊原間村誌	伊原間公民館	1993	○
15		伊原間牧祝 石垣市立八重山博物館紀要 7	内原節子	1988	○
16		大川公民館落成記念誌・むゆる	大川公民館建設期成会	1991	
17		大浜村誌	大浜村誌編集委員会	2001	○
18		大浜村の郷土誌	上間貞俊・小底致市	1977	○
19		大浜村民俗誌	大浜老人クラブ長寿会	1976	○
20		大浜の古謡集(ジラバ・ユンタ)	大浜古謡同好会	1976	
21		沖縄民俗 23 号 八重山石垣市宮良・中城村伊集報告	琉球大学民俗研究クラブ	1977	○
22		川平村郷土誌	川平部落会	1950	
23		川平村出身の仲間満慶山一族たち－嘉善姓一門と憲章姓一門の人びと	大浜永亘	2001	
24		川平村の歴史	川平村の歴史編纂委員会	1976	○
25		[川平部落会]郷土史[マイクロフィルム複製本]	川平部落会	1950	
26		サンゴ礁の渚を遊ぶ－石垣島川平湾－	西平守孝	1988	
27		白保(中村征夫写真集)	中村征夫	1990	
28		白保村史	白保村史調査編集委員会	2009	○
29		白保村風土記－逸事・逸話の史実－	崎原久	1994	○
30		白保村歴史と民俗	白保中学校郷土歴史クラブ	1978	
31		白保村歴史と民俗－第 2 集－	白保中学校郷土歴史クラブ	1979	○
32		白保－八重山白保村落調査報告－(琉球大学社会人類学研究会)	琉球大学社会人類学研究会	1977	○
33		白保－歴史・民俗散策－白保とその関連地域－	崎原恒新	1999	○
34		[大浜アカハチ会]設立 50 周年 記念誌	記念事業実行委員会・編集委員会	1999	
35		[大浜アカハチ会]設立 40 周年 記念誌	[大浜アカハチ会]記念事業実行委員会・記念誌部会	2008	○
36		(大浜老人クラブ長寿会)創立 50 周年記念誌	記念誌編集委員会	2001	○
37		高宮良の由来	前花哲雄	2002	
38		田んぼの恵み 八重山のくらし	安渓遊地・盛口満	2010	○
39		登野城村古謡集(第 1 集)	石垣繁	1992	○
40		登野城村の歴史と民俗	牧野清	1975	○

表 4-5-2 (2). 生物文化に関する収集文献リスト

No	関係市町村	文献名称	著者名	発行年	生物文化記載有無
41	石垣市	野底想い出写真集「道」-50 年の歩み-ありし日の記憶	与那原マサエ、前盛ちか子、志喜屋和子、中村学、志喜屋安正	2004	
42		平得公民館建設記念誌	平得公民館建設記念誌編集委員会	1986	
43		ふる里の土 - 石垣島の農民史的自伝	宮良高司・宮良高弘	1985	
44		牧畜人生八十八年白保に生きる	宮良松米寿記念誌編集委員会	1990	○
45		真栄里公民館の歩み	真栄里公民館編集委員/山田善照・細工忠郎・仲山忠亨	1984	
46		(新栄町自治会) みちしるべー創立 10 周年記念誌	記念誌編集委員会	1988	
47		宮良郷友会結成 30 周年記念誌 - メーラ の心を心として歩んだ 30 年の記録 新たなる出発に向けて -	宮良郷友会	1997	
48		宮良村誌	宮良村誌編集委員会	1986	○
49		村むら探訪 - 新川村の移り変わり (石垣市史巡見 vol.7)	石垣市総務部市史編集室	2002	
50		村むら探訪 - 安良の歴史・生活・自然 - (石垣市史巡見 Vol.5)	石垣市総務部市史編集室	1997	
51		村むら探訪 - 伊原間の歴史・史跡・地名・生活 - (石垣市史巡見 Vol.2)	石垣市総務部市史編集室	1994	
52		村むら探訪 - 野底の歴史・史跡・地名・生活 - (石垣市史巡見 Vol.1)	石垣市総務部市史編集室	1993	
53		村むら探訪 - 平得村・真栄里村の移り変わり -	石垣市総務部市史編集室	2004	
54		村むら探訪 - 平久保村の移り変わり (石垣市史巡見 vol.6)	石垣市総務部市史編集室	1993	
55		村むら探訪 - 榛海の歴史・地名・生活・自然 - (石垣市史巡見 Vol.4)	石垣市総務部市史編集室	1999	
56		宮良村古謡誌	宮良村古謡保存会	1979	○
57		八重山石垣市宮良部落報告 沖縄民俗 23 琉球大学	琉球大学民俗研究クラブ	1977	
58		八重山小話 - その自然と言語習俗 -	瀬名波長宣	1973	○
59		八重山生活誌	宮城文	1972	○
60		八重山文化 創刊号 ブザとユカラ人を考える	東京・八重山文化研究会	1975	○
61		八重山文化 7 明治時代の八重山女性の労働と生活	宮城文・三木健	1979	○
62		躍雙鯉(やくそうり) 石垣仲筋会創立五〇周年記念誌	石垣市仲筋会創立 五〇周年記念誌編集委員会	2016	
63	竹富町	新井潔米寿記念 竹富島玻座間村の狂言	与那国秩・高嶺方祐・石垣久雄・古堅博・与那国勝・新井敏弘	2000	
64		新城島 (パナリ)	安里武信	1976	○
65		新城下地島の節祭ジラバ集	野底宗吉	1988	○
66		石垣竹富郷友会史 - 創立 30 周年記念 -	30 周年記念史編纂委員会	1976	
67		石垣竹富郷友会創立 50 周年記念誌 たきどうん	創立 50 周年記念誌編集委員会	1997	
68		石干見-最古の漁法-	田和正孝	2007	
69		伊波普猷氏還暦記念出版『南島論叢』	伊波普猷先生記念論文集編集委員	1970	○
70		西表島総合調査報告書 - 自然・考古・歴史・民俗・美術工芸 -	沖縄県立博物館	2001	○
71		西表島祖納・星立の節祭の芸能	西表民俗芸能保存会	1979	○
72		西表島に生きる - おばあちゃんの自然生活誌 -	山田雪子述、安渓遊地・安渓貴子	1992	
73		西表島の村落と方言	星勲	1982	
74		西表島の伝説	那根亨	1974	
75		西表島の農耕文化 海上の道の発見	安渓遊地	2007	○
76		西表島のマラリア撲滅史	那根亨	1979	
77		西表島の民俗	星勲	1981	○
78		西表島のむかし話	星勲	1980	○
79		西表炭坑覚書	佐藤金市	1980	
80		西表炭坑概史	三木健	1976	

表 4-5-2 (3). 生物文化に関する収集文献リスト

No	関係市町村	文献名称	著者名	発行年	生物文化記載有無
81	竹富町	西表炭坑史料集成	三木健	1985	
82		西表炭坑夫物語	三木健	1990	
83		西表方言集	前大用安	2002	
84		うつぐみの心 竹富島	大塚勝久	1992	
85		うふたき 竹富町立小浜小学校創立百周年記念誌	竹富町立小浜小学校記念誌委員会	1997	○
86		大浜村誌	大浜村誌編集委員会	2001	○
87		沖縄新城島民俗誌 「パナリ」その光と影	植松明石	2017	○
88		沖縄・西表炭坑史(三木健 1996)	三木健	1996	
89		沖縄県天然記念物調査シリーズ第46集 キシノウエトカラゲ生息実態調査報告書	沖縄県教育庁文化財課	2013	○
90		沖縄県、八重山地方における植物の命名、分類、利用—比較民族植物学的考察 リトルワールド研究報告7	山田孝子	1984	○
91		沖縄県、八重山地方における生態と世界観に関する文化人類学的研究	山田孝子	2005	○
92		沖縄の植物と民俗 玉置和夫遺稿集	玉置和夫	1979	○
93		おきなわのふるさと竹富島	上勢頭亨・山城善三	1972	○
94		琉球の方言 10 (法政大学沖縄文化研究所)	加治工眞市	1986	○
95		[沖縄本島在黒島郷友会]創立40周年記念誌	沖縄本島在黒島郷友会	1999	
96		蠟螂の斧 -竹富島の真髓を求めて-	崎山毅	1972	○
97		聞書 西表炭坑(三木健 1982)	三木健	1982	
98		記録されなかったムラの記憶—西表島旧稻葉集落の聞き書き	松村正治	2010	○
99		黒島誌	運道武三	1988	○
100		黒島史 琉球学集説 新聞切抜 50	知念政範	1970	
101		黒島民謡工四	玉代勢泰興	1979	
102		黒島民謡集	黒島民俗芸能保存会	1968	
103		芸能の原風景 -沖縄県竹富島の種子取祭台本集	全国竹富島文化協会	1998	
104		子乞い -八重山・鳩間島生活誌 -	森口豁	1985	
105		子供博物館教室夏期講座「民具づくり」クジィ(トウヅルモドキ)のかご 石垣市立八重山博物館紀要5	内原節子	1986	○
106		小浜島誌 心のふるさと	山城浩	1972	○
107		小浜島総合調査報告書	沖縄県立博物館	2004	○
108		小浜島の歴史と文化	黒島精耕	2000	
109		小浜島民謡集 -小学校80周年中学校25周年創立記念 -	小浜島民謡編集委員会	1975	
110		崎山節のふるさと -西表島の歌と昔話 -	川平永美述、安渓遊地・安渓貴子	1990	○
111		シマ -琉球大学民俗学実習調査報告書-第6号	琉球大学法文学部人間科学科民俗学研究室	2004	○
112		島分け -沖縄鳩間島哀史(「復帰願望」:昭和の中のオキナワ : 森口豁ドキュメンタリー作品集)	森口豁	1983	
113		写真集・西表炭坑	三木健	1986	
114		昭和の竹富	大山正夫	1985	
115		昭和の竹富 続	大山正夫	1991	
116		増補改訂・西表炭坑概史	三木健	1979	
117		創立50周年記念誌 竹富	沖縄竹富郷友会創立50周年記念期成会記念誌部会	2000	
118		創立30周年記念誌 -在沖黒島郷友ときわ会 -	在沖黒島郷友ときわ会編集部会	2002	○
119		創立百周年記念誌 西の子	竹富町立西表小学校記念誌編集委員会	1991	
120		高い島と低い島の交流 -大正期八重山の稻束と灰の物々交換 民族学研究 53-1	安渓遊地	1988	○

表 4-5-2 (4). 生物文化に関する収集文献リスト

No	関係市町村	文献名称	著者名	発行年	生物文化記載有無
121	竹富町	竹富島いまむかし	辻弘	1985	○
122		竹富島誌	上勢頭亨・山城善三	1971	○
123		竹富島誌－歌謡・芸能篇	上勢頭亨	1979	○
124		竹富島誌－民話・民俗篇	上勢頭亨	1976	○
125		竹富島種子取祭国立劇場公演記念誌	竹富島民俗芸能保存会・山城善三・上勢頭亨	1977	○
126		竹富島仲筋村の芸能	玉城憲文	1976	
127		竹富島の集落と民家－景観保全と観光活動に関する報告	九州工科大学環境研究室・都市環境研究室	2000	○
128		竹富島の種子取祭（上）※下なし	竹富島民俗芸能保存会	1975	
129		竹富島の土俗	大真太郎	1974	○
130		竹富町古謡集・第1集	竹富町古謡編集委員会	1981	○
131		竹富町古謡集・第2集	竹富町古謡編集委員会	1997	○
132		竹富町古謡集・第3集	竹富町古謡編集委員会	2000	○
133		竹富町古謡集・第4集	竹富町古謡編集委員会	2002	○
134		竹富町古謡集・第5集	竹富町古謡編集委員会	2005	○
135		竹富町史 第2巻 竹富島	竹富町史編纂委員会	2011	○
136		竹富町史 第3巻 小浜島	竹富町史編纂委員会	2011	○
137		竹富町史 第5巻 新城島	竹富町史編纂委員会	2013	○
138		竹富町史 第6巻 鳩間島	竹富町史編纂委員会	2015	○
139		竹富島の歴史と民俗	亀井秀一	1990	○
140		なごみ [石垣竹富郷友会西会]創立40周年記念誌	石垣竹富郷友会西会	2007	
141	南島流転－西表炭坑の生活－	佐藤金市・三木健	1983		
142		波照間島	加屋本正一	1977	○
143		波照間島－1970年夏沖縄八重山郡－（立命館大学探検部）	立命館大学探検部	1971	
144		波照間島総合調査報告書－自然・歴史・民俗・考古・美術工芸－	沖縄県立博物館	1998	○
145		波照間島調査報告書－地域研究シリーズNo.3－	沖縄国際大学南島文化研究所	1982	
146		波照間島のムシャーマ－南国の豊年祈願と祖先供養の祭典－	ムシャーマ編集委員会	1982	
147		波照間島民俗誌	宮良高弘	1972	○
148		波照間の方言－琉球方言緊急調査第2集－	沖縄県教育委員会	1975	
149		波涛を越えて 鳩間小学校創立百年記念誌	鳩間小学校創立百年記念誌編集委員会	1997	○
150		鳩間島・新城島・黒島総合調査報告書 2016	沖縄県立博物館・美術館 博物館班	2016	○
151		鳩間島誌－沖縄在鳩間郷友会十五周年記念誌	沖縄在鳩間郷友会	1983	○
152		鳩間島追想	小濱光次郎	1996	
153		鳩間島における民族植物学的研究人種の自然誌	山田孝子	1977	○
154		星砂の島第8号 カタツムリの食べ方-竹富島の事例から-	石垣久雄	2005	○
155		南琉球新城島の方言	國學院大學日本文化研究所	1992	
156		民衆史を掘る－西表炭坑紀行	三木健	1983	○
157		もうひとつの沖縄戦－マラリア地獄の波照間島	石原ゼミナール・戦争体験記録研究会	1983	○
158		八重山群島西表島廃村鹿川の生活復原 人類の自然誌	安渓遊地	1977	
159		民衆史を掘る－西表炭坑紀行	三木健	1983	○
160		八重山郡竹富町 鳩間島の民話 沖縄国際大学文学部国文学科平成9年度卒業論文	加治工尚子	1998	

表 4-5-2 (5). 生物文化に関する収集文献リスト

No	関係市町村	文献名称	著者名	発行年月	生物文化記載有無
161	竹富町	八重山群島の伝統的生業に関する生態人類学的研究	伊谷純一郎	1981	○
162		八重山鳩間島民俗誌	大城公男	2011	○
163		八重山民俗誌 下巻 民俗・由来記・雑篇	喜舎場永珣	1977	○
164		竹富島・小浜島の昔話	狩俣恵一・福田晃・真下厚・仲盛長秀・花城正美	1984	
165		与那国農民の生活－西表島との対比から－	安渓遊地	1984	○
166		琉球竹富島の方言	國學院大學日本文化研究所	1990	
167		わが故郷アントウリー－西表・網取村の民俗と古謡－	山田武男著、安渓遊地・安渓貴子	1986	○
168	与那国町	うたいつぐ記憶 与那国・石垣島のくらし	安渓遊地・盛口満	2011	○
169		沖縄県立博物館総合調査報告書VI－与那国島－	沖縄県立博物館	1989	
170		南島の稻作文化－与那国島を中心に－	渡部忠世・生田滋	1984	○
171		民俗文化の現在－沖縄与那国島の民俗へのまなざし	原知章	2002	
172		八重山、与那国島調査報告書(2)－地域研究シリーズ No.35－	沖縄国際大学南島文化研究所	2008	
173		与那国ことば辞典	池間苗	1998	○
174		与那国島誌	池間栄三・新里和盛	1957	○
175		与那国－島の人類生態学	吉川博也	1984	○
176		与那国島図誌	本山桂川	1925	○
177		与那国島の祭事の芸能	与那国町教育委員会	1988	○
178		与那国島の植物	与那国町教育委員会	1995	○
179		与那国島の童謡・子守唄	福里武市	1978	
180		与那国島の民謡とくらし	宮良保全	2007	○
181		与那国の民話	池間龍一	1978	
182		与那国島の民話集	与那国町文化財調査委員会	1978	
183		与那国島の昔話 南島昔話叢書 10	岩瀬博・松浪久子・富里康子・長浜洋子	1983	○
184		与那国島の無形文化財	与那国町文化財調査委員会	1978	○
185		与那国島 人とくらし	新村政二	1994	○
186		与那国町老人クラブ連合会創立 25 周年記念誌	与那国町老人クラブ連合会	1991	○
187	複数の市町村に係わるもの	与那国の文化－沖縄最西端与那国島における伝統文化と外来文化：周辺諸文化との比較研究	植松明石・渡邊欣雄	1980	
188		与那国の歴史	池間栄三	1972 (1957 初版)	○
189		与那国物語	宮城政八郎	1993	
190		よみがえるドゥナン 写真が語る与那国の歴史	米城恵	2015	
191		琉球与那国方言の研究	平山輝男・中本正智	1964	
192		八重山民俗誌 上巻・民俗篇	喜舎場永珣	1977	○
193		沖縄民俗薬用動植物誌	前田光康・野瀬弘美	1989	○
194		沖縄県史研究叢書 18 沖縄の民俗資料(下)	沖縄県教育庁文化財課史料編集班	2018	○
195		海原の里人たち	下嶋哲朗	1982	○
196		沖縄の伝統染織	富山基・大野力	1971	○
197		八重山ことわざ事典	宮城信勇	2008	○
198		石垣市史研究資料 4 八重山の動植物：その来歴・方言名など	石垣市総務部市史編集課	2005	○
199		八重山、竹富町調査報告書(3)－地域研究シリーズ No.29－	沖縄国際大学南島文化研究所	2001	
200		八重山、竹富町調査報告書(4)－地域研究シリーズ No.30－	沖縄国際大学南島文化研究所	2002	

表 4-5-2 (6). 生物文化に関する収集文献リスト

No	関係市町村	文献名称	著者名	発行年月	生物文化記載有無
201	複数の市町村に係わるもの	八重山、与那国島調査報告書(1)－地域研究シリーズ No.34－	沖縄国際大学南島文化研究所	2007	
202		八重山語彙	宮良當壯	1966	
203		琉球の方言 11・12 八重山・与那国島(法政大学沖縄文化研究所)	法政大学沖縄文化研究所	1987	
204		近世八重山の民衆生活史	得能寿美	2007	
205		南島史学 第6号～第10号	南島史学会	1975～1977	

#### ( 4 ) 自然環境の利活用に関する参考文献等

第2章－3で解析手法を示した自然環境の利活用における使用データと参考文献を示す。

1. 林秀美, 2010, 改訂版 沖縄県の山, 株式会社山と渓谷社
2. 沖縄県観光企画課, 2010, 平成21年度 持続可能な観光地づくり支援事業（調査研究）  
実施報告書
3. 沖縄県公式ホームページ, 県知事認定保全利用協定について  
<[https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/hozenriyoukyoutei\\_nitei.html](https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/hozenriyoukyoutei_nitei.html)>
4. 財団法人沖縄観光コンベンションビューロー, 2010, 美ら島－沖縄県観光情報ファイル－, 財団法人沖縄観光コンベンションビューロー

## ( 5 ) 自然環境及び社会環境に関する参考文献等

第2章－4で解析手法を示した自然環境及び社会環境における使用データと参考文献を示す。

### ・生物多様性の情報

- 1.沖縄県環境利用ガイド,1992
- 2.環境省,2008,サンゴ礁分布図システム
- 3.沖縄県環境部自然保護課,2010,平成21年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書
- 4.沖縄県環境部自然保護課,2011,平成22年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書
- 5.沖縄県環境部自然保護課,2012,平成23年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書
- 6.富山義則,2014,沖縄ビーチ大全505
- 7.沖縄県教育委員会,2001,ウミガメ類生息実態調査報告書Ⅲ
- 8.沖縄県環境部環境保全課,2017,平成28年度赤土流出防止海域モニタリング調査委託業務報告書
- 9.沖縄県環境部自然保護課,2018,平成29年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書
- 10.沖縄県環境部自然保護課,2019,平成30年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書
- 11.沖縄県環境部自然保護課,2020,平成31年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書

### ・その他の情報

- 1.環境省,2015,日本のラムサール条約湿地
- 2.国土交通省国土政策局国土情報課,2007,国土数値情報 河川データ
- 3.国土地理院,2014,基盤地図情報(数値標高モデル)10m メッシュ DEM
- 4.環境省自然環境局生物多様性センター,1993,1/50,000 現存植生図
- 5.国土交通省国土政策局国土情報課,2005,国土数値情報 湖沼データ

## ( 6 ) 環境カルテに関する参考文献等

第3章で示した環境カルテにおける使用データと参考文献を示す。

なお、番号は、環境カルテの様式（第3章—2）の項目番号と対応している。

### ・陸域カルテ項目

#### 1-6 市町村名

総務省統計局,平成27年度国勢調査町丁・字等別境界データ

#### 1-7 町丁・字等

総務省統計局,平成27年度国勢調査町丁・字等別境界データ

#### 2-1 地形・地質

##### 2-1-1 地形分類、表層土壤、表層地質

沖縄県企画部土地対策課,1983～1992,土地分類基本調査

##### 2-1-2 特異な地形・地質

沖縄県,1992,沖縄県環境利用ガイド（環境特性地図集）

#### 2-2 植物

##### 2-2-1 現存植生

環境省自然環境局生物多様性センター,2000～2005（一部2006～）,自然環境保全基礎調査（第6回・第7回植生調査）

##### 2-2-2 特定植物群落

環境省自然環境局生物多様性センター,1979、1985～1987、1998～1999,自然環境保全基礎調査（第2～3回・第5回植生調査）

##### 2-2-3 マングローブ林

沖縄県環境部環境再生課,2015,自然環境再生指針（仮称）策定事業委託業務統合報告書（平成24～26年度）

#### 4-1 観光拠点

沖縄県観光商工部観光企画課,2010,平成21年度持続可能な観光地づくり支援事業（調査研究）実施報告書

#### 4-2 保全利用協定

沖縄県公式ホームページ, 県知事認定保全利用協定について

<[https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/hozenriyoukyoutei\\_nintei.html](https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/hozenriyoukyoutei_nintei.html)>

## 5-1 法規制等

### 5-1-1 法規制等

沖縄県企画部土地対策課,2019,土地利用規制現況図

国土交通省国土政策局国土情報課,2015,国土数値情報 烏獣保護区データ

## 5-2 土地利用

### 5-2-1 土地利用の現況

沖縄県企画部土地対策課,2000～2017,土地利用現況図

### 5-2-2 農業振興地域

沖縄県企画部土地対策課,2019,土地利用規制現況図

### 5-2-3 米軍基地

沖縄県環境部環境政策課,2017,米軍基地データ

## 5-3 河川

### 5-3-1 河川の分布

国土交通省国土政策局国土情報課,2008,国土数値情報 河川データ

### 5-3-2 河床勾配と渓流環境

国土交通省国土政策局国土情報課,2008,国土数値情報 河川データ

国土交通省国土政策局国土情報課,2006,国土数値情報 湖沼データ

国土地理院,2014,基盤地図情報（数値標高モデル）10m メッシュ DEM

### 5-3-3 ダム湖、湖沼

国土交通省国土政策局国土情報課,2015,国土数値情報 ダムデータ

## ・海域カルテ項目

### 1-4 総務省統計局,平成 27 年度国勢調査町丁・字等別境界データ

## 2-1 地形・地質・海岸線

### 2-1-1 海底地質分類

環境省,2008,サンゴ礁分布図システム

### 2-2 藻場・干潟・サンゴ礁

#### 2-2-1 生サンゴの被度（礁原）

環境省自然環境局生物多様性センター,1990～1993,自然環境保全基礎調査（第 4 回サンゴ礁調査）

#### 2-2-2 生サンゴの被度（礁縁）

沖縄県環境部自然保護課,2010,平成 21 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

沖縄県環境部自然保護課,2011,平成 22 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

沖縄県環境部自然保護課,2012,平成 23 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

#### 2-2-3 藻場、干潟

環境省自然環境局生物多様性センター,1998~2002,自然環境保全基礎調査（第 5 回藻場調査）

環境省自然環境局生物多様性センター,1990~1993,自然環境保全基礎調査（第 4 回干潟調査）

#### 2-2-4 重要なサンゴ礁海域

沖縄県自然保護課,2006,沖縄のサンゴ礁 – 沖縄県の重要なサンゴ礁海域 –

#### 2-4-2 ウミガメ産卵地

富山義則,2014,沖縄ビーチ大全 505

沖縄県教育委員会,2001,沖縄県天然記念物調査シリーズ第 40 集 ウミガメ類生息実態調査報告書Ⅲ – 八重山諸島における調査結果 –

#### 2-5 SPSS

沖縄県環境部自然保護課,2010,平成 21 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

沖縄県環境部自然保護課,2011,平成 22 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

沖縄県環境部自然保護課,2012,平成 23 年度サンゴ礁資源情報整備事業報告書

沖縄県,2017,平成 28 年度赤土等流出防止海域モニタリング調査委託業務報告書

沖縄県,2018,平成 29 年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書

沖縄県,2019,平成 30 年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書

沖縄県,2020,平成 31 年度生物多様性おきなわブランド発信事業委託業務報告書

#### 4-1 観光拠点

沖縄県観光商工部観光企画課,2010,平成 21 年度持続可能な観光地づくり支援事業（調査研究）実施報告書

財団法人沖縄観光コンベンションビューロー,2010,美ら島 – 沖縄県観光情報ファイル –

#### 4-2 保全利用協定

沖縄県公式ホームページ, 県知事認定保全利用協定について

<[https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/hozenriyoukyoutei\\_nintei.html](https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/hozenriyoukyoutei_nintei.html)>

#### 5-1 法規制等

##### 5-1-1 法規制等

沖縄県企画部土地対策課,2019,土地利用規制現況図

国土交通省国土政策局国土情報課,2015,国土数値情報 鳥獣保護区データ

5-1-2 海岸保全区域

沖縄県企画部土地対策課,2019,土地利用規制現況図

5-2 海域利用

沖縄県農林水産部水産課、2018、平成 30 年 9 月更新 漁業権区域図（GIS データ）

沖縄県農林水産部水産課、2018、漁業権について（漁業権の説明及び免許の状況）

5-3 河川

国土交通省国土政策局国土情報課,2008,国土数値情報 河川データ

## ( 7 ) 用語集に関する参考文献等

第4章－4に示した用語集について、参考文献及び参考ウェブサイトを下記に示す。

- [1] "環境用語集" EIC ネット.  
<http://www.eic.or.jp/>
- [2] "国際保健用語集" 一般社団法人日本国際保健医療学会.  
<https://seesaawiki.jp/w/jaih/>
- [3] "天文学辞典" 公益社団法人日本天文学会.  
<http://astro-dic.jp/>
- [4] "沖縄 21世紀ビジョン" 沖縄県.  
<https://www.pref.okinawa.jp/21vision/index.html>
- [5] "自然環境の保全に関する指針のあらまし" 沖縄県.  
[https://www.pref.okinawa.jp/okinawa\\_kankyo/shizen\\_hogo/hozen\\_chiiiki/shishin/shishin\\_aramashi/aramashi\\_ichizuke.html](https://www.pref.okinawa.jp/okinawa_kankyo/shizen_hogo/hozen_chiiiki/shishin/shishin_aramashi/aramashi_ichizuke.html)
- [6] "改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータおきなわ）第3版-菌類編・植物編-" 沖縄県.  
[https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/okinawa\\_rdb\\_kinrui\\_syokubutu.html](https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/okinawa_rdb_kinrui_syokubutu.html)
- [7] 平成 23 年度サンゴ礁資源情報整備事業サンゴ礁資源調査事業「沖縄島周辺離島地域」「宮古地域」「大東地域」「波照間島地域」報告書. 平成 24 年. 沖縄県.
- [8] 鷺谷いづみ、後藤章 (2018). 新版 絵でわかる生態系のしくみ. 講談社.
- [9] "河床勾配" 国土交通省国土技術政策総合研究所.  
<http://www.nilim.go.jp/>
- [10] "国内に生息・生育する希少種の指定" 環境省.  
<https://www.env.go.jp/nature/kisho/domestic/index.html>
- [11] "外来生物法用語集" 環境省自然環境局.  
<http://www.env.go.jp/nature/intro/1law/yougo.html>
- [12] "侵略的な外来種" 環境省自然環境局.  
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/invasive.html>
- [13] 久保田康裕、楠本聰太郎、藤沼潤一、塩野貴之 (2017). 生物多様性の保全科学 : システム化保全計画の概念と手法の概要. 日本国際学会誌
- [14] "ジオコーディングとは" esri.  
<https://pro.arcgis.com/ja/pro-app/help/data/geocoding/what-is-geocoding-.htm>
- [15] "自然の恵みの価値を計る" 環境省自然環境局.  
<https://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/valuation/service.html>

- [16] “「生物多様性おきなわ戦略」について” 沖縄県.  
[<https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/bd\\_okinawa\\_senryaku.html>](https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/bd_okinawa_senryaku.html)
- [17] “「生物多様性条約」” WWF ジャパン.  
[<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3516.html>](https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3516.html)
- [18] “「生物文化多様性とは」” 第 1 回アジア生物文化多様性国際会議.  
[<http://bcd2016.jp/bcd/index.html>](http://bcd2016.jp/bcd/index.html)
- [19] “「日射観測」” 気象庁高層気象台.  
[<https://www.jma-net.go.jp/kousou/obs\\_third\\_div/rad/rad\\_sol.html>](https://www.jma-net.go.jp/kousou/obs_third_div/rad/rad_sol.html)
- [20] “沖縄県の天然記念物” 琉球大学博物館風樹館.  
[<http://fujukan.lib.u-ryukyu.ac.jp/db\\_gallery/natural.php>](http://fujukan.lib.u-ryukyu.ac.jp/db_gallery/natural.php)
- [21] “平成 24 年版情報通信白書” 総務省.  
[<http://www.soumu.go.jp/johotsusintoeki/whitepaper/ja/h24/html/nc121410.html>](http://www.soumu.go.jp/johotsusintoeki/whitepaper/ja/h24/html/nc121410.html)
- [22] “県知事認定保全利用協定について” 沖縄県.  
[<https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/hozenriyoukyoutei\\_nintei.html>](https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/hozenriyoukyoutei_nintei.html)
- [23] “モニタリングサイト 1000 とは” 環境省生物多様性センター.  
[<http://www.biodic.go.jp/moni1000/moni1000/>](http://www.biodic.go.jp/moni1000/moni1000/)
- [24] “レッドリスト” 環境省.  
[<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/index.html>](https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/index.html)
- [25] “魚類の学名と和名” 国立科学博物館.  
[<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/index.html>](https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/index.html)
- [26] “Bioclimatic variables” WorldClim – Global Climate Data.  
[<http://www.worldclim.org/bioclim>](http://www.worldclim.org/bioclim)
- [27] “生物情報収集・提供システム いきものログ” 環境省生物多様性センター.  
[<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/index.html>](https://www.env.go.jp/nature/kisho/hozen/redlist/index.html)
- [28] “GIS とは…” 国土地理院.  
[<http://www.gsi.go.jp/GIS/whatisgis.html>](http://www.gsi.go.jp/GIS/whatisgis.html)
- [29] 大見謝辰男 (2003). SPSS 簡易測定法とその解説. 沖縄県衛生環境研究所報
- [30] “2 次メッシュとは” 環境省生物多様性センター.  
[<http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-042.html>](http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-042.html)

---

生物多様性保全利用指針 OKINAWA  
[八重山編]

[編集・発行] 沖縄県環境部自然保護課  
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2  
TEL : 098-866-2243